

奄美市一般廃棄物処理基本計画

平成28年3月

奄 美 市

目 次

第1章 計画の概要	1
第1節 策定の趣旨	1
第2節 計画の位置付け	2
1. 廃棄物処理関連法令等	2
2. 計画対象区域	3
3. 適用範囲	3
4. 計画目標年度	3
第2章 計画地域の特性	4
第1節 自然的条件	4
1. 地理、地形	4
2. 気象特性	5
第2節 社会的条件	6
1. 人口	6
2. 産業	8
3. 土地利用	10
第3節 将来計画	11
1. 総合計画	11
2. 関係条例等	12
第3章 ごみ処理現況調査	13
第1節 ごみ処理の現状	13
1. 分別区分の状況	13
2. ごみ処理フロー	14
3. ごみ処理主体	15
4. 収集方式	16
5. ごみ排出量の現状	17
第2節 中間処理施設	27
1. ごみ焼却施設	27
2. 粗大ごみ処理施設	27

3. スtockヤード	28
第3節 最終処分場	28
第4節 資源化、減量化のための施策等	29
1. 処理手数料	29
2. 生ごみ処理機器購入補助	29
3. 環境美化推進団体助成金	30
4. 奄美エコマネー	30
第5節 ごみ処理行政における国等の動向	31
1. 国及び県における動向	31
第6節 ごみ処理システムの評価	33
第7節 課題の抽出	34
1. 排出抑制の課題	34
2. 収集・運搬の課題	34
3. 中間処理の課題	34
4. 最終処分の課題	34
第4章 ごみ処理基本計画	35
第1節 計画策定の基本方針	35
第2節 排出量及び処理・処分量の予測	36
1. 計画人口	36
2. ごみ排出量及び処理・処分量	37
3. ごみ排出量及び処理・処分量の目標	42
第3節 ごみの発生・排出抑制のための役割	48
1. 市民における役割	48
2. 事業者における役割	49
3. 行政における役割	50
第4節 分別して収集するものとしたごみの種類及び分別の区分	51
1. 「スプレー缶」について	51
2. 「古紙類（段ボール・新聞紙・その他紙類）」について（奄美市管内全域）	51
第5節 ごみの適正処理に関する基本的事項	52
1. 収集・運搬計画	52
2. 中間処理計画	52
3. 最終処分計画	53
第6節 その他の施策	54
1. 廃棄物減量等推進協議会	54

2. 事業者の協力	54
3. 災害時の廃棄物処理に関する対応	54
4. 不法投棄対策	54
5. 評価システムの構築	55
第5章 生活排水処理現況調査	56
第1節 生活排水処理体制	56
第2節 生活排水処理人口の実績	57
第3節 し尿・浄化槽汚泥の処理状況	58
1. し尿・浄化槽汚泥収集量の実績	58
2. し尿処理コスト	59
3. 収集・処理体制	60
第4節 課題の抽出	61
第6章 生活排水処理基本計画	62
第1節 処理方針と処理主体	62
1. 生活排水処理の基本方針	62
2. 生活排水処理の処理主体	62
第2節 生活排水処理の目標	63
1. 処理形態別人口の予測	63
2. し尿・浄化槽汚泥量の予測	64
3. 生活排水処理の目標	66
第3節 し尿及び浄化槽汚泥処理計画	67
1. し尿及び浄化槽汚泥処理計画	67
2. その他関連計画	69
資 料 編	
資料1. 予測手法の手順	資- 1
資料2. 推計式の概要	資- 2
資料3. 人口推計結果	資- 3
資料4. 排出量及び処理・処分量の予測結果	資- 7
資料5. ごみ排出量及び処理・処分量の目標	資-20
資料6. 生活排水処理形態別人口の予測結果	資-23

第1章 計画の概要

第1節 策定の趣旨

ごみ及び生活排水問題は、私たちの生活に密接する身近な環境問題としての認識が浸透しつつあり、問題解決のためには、排出者である市民及び事業者と一般廃棄物処理を行う行政の連携した取り組みが重要となってくる。

国では、コスト分析手法や適正な処理システム構築の考え方を示した「三つのガイドライン（平成25年4月）」の見直しや『廃棄物処理法の基本方針』の改正（平成22年12月）等を行ってきた。また、「第三次循環型社会形成推進基本計画（平成25年5月）」を策定し、廃棄物の量に加えて循環の質にも着目した循環型社会の形成や国際的取り組みの推進、災害廃棄物対策について示されている。さらに、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律の施行に伴い、「ごみ処理基本計画策定指針（平成25年6月）」を改訂した。

鹿児島県においては、「鹿児島県廃棄物処理計画（平成23年3月）」を策定し、県内における循環型社会の形成を推進していく基本的な方向が定められており、県民や事業者及び行政等の全ての主体が取り組んでいくための指針として、具体的な目標が定められている。

生活排水（し尿及び生活雑排水）については、「生活排水処理基本計画策定指針（平成22年10月）」が示されている。また、「生活排水処理施設整備計画策定マニュアル（平成14年3月）」が策定されており、鹿児島県においても、「生活排水処理施設整備構想」（平成21年3月）を策定し、人口減少などの社会情勢の変化を踏まえた将来像について示されている。

奄美市（以下、「本市」という。）では、ごみについては、未だ一部の住民がルールを守れず違反ごみの苦情が絶えないこと。鉄柵やネットが無いと、カラスやねこに荒らされたステーションが市内各所にあること。事業所ごみを家庭ごみステーションに排出している事業所がまだまだあること。分別の徹底がされずに資源化出来る物がごみとして排出されていること。新最終処分場問題等、多くの課題が山積している状況である。

また、生活排水については、「公共下水道」、「農業集落排水施設」、「合併処理浄化槽」を利用し、し尿と生活排水を同時に処理している世帯は増加しているが、「単独処理浄化槽」、「汲み取り式便所」のため生活排水は河川等へ排出し、水質汚濁に悪影響を与える等の問題もある。

これらに基づき、本市では、より一層、市民・事業者・行政の連携を強化し、循環型社会の形成のための施策を推進するため、「奄美市一般廃棄物処理基本計画」（以下、「本計画」という。）を策定する。

第2節 計画の位置付け

1. 廃棄物処理関連法令等

循環型社会の形成を推進するための法体系を図 1-2-1 に示す。

我が国では廃棄物の増大に伴って発生する諸問題への対応や、地球規模での環境問題への意識の高まり等から、循環型社会の構築を目指した関連法体系の整備が急速に進められている。

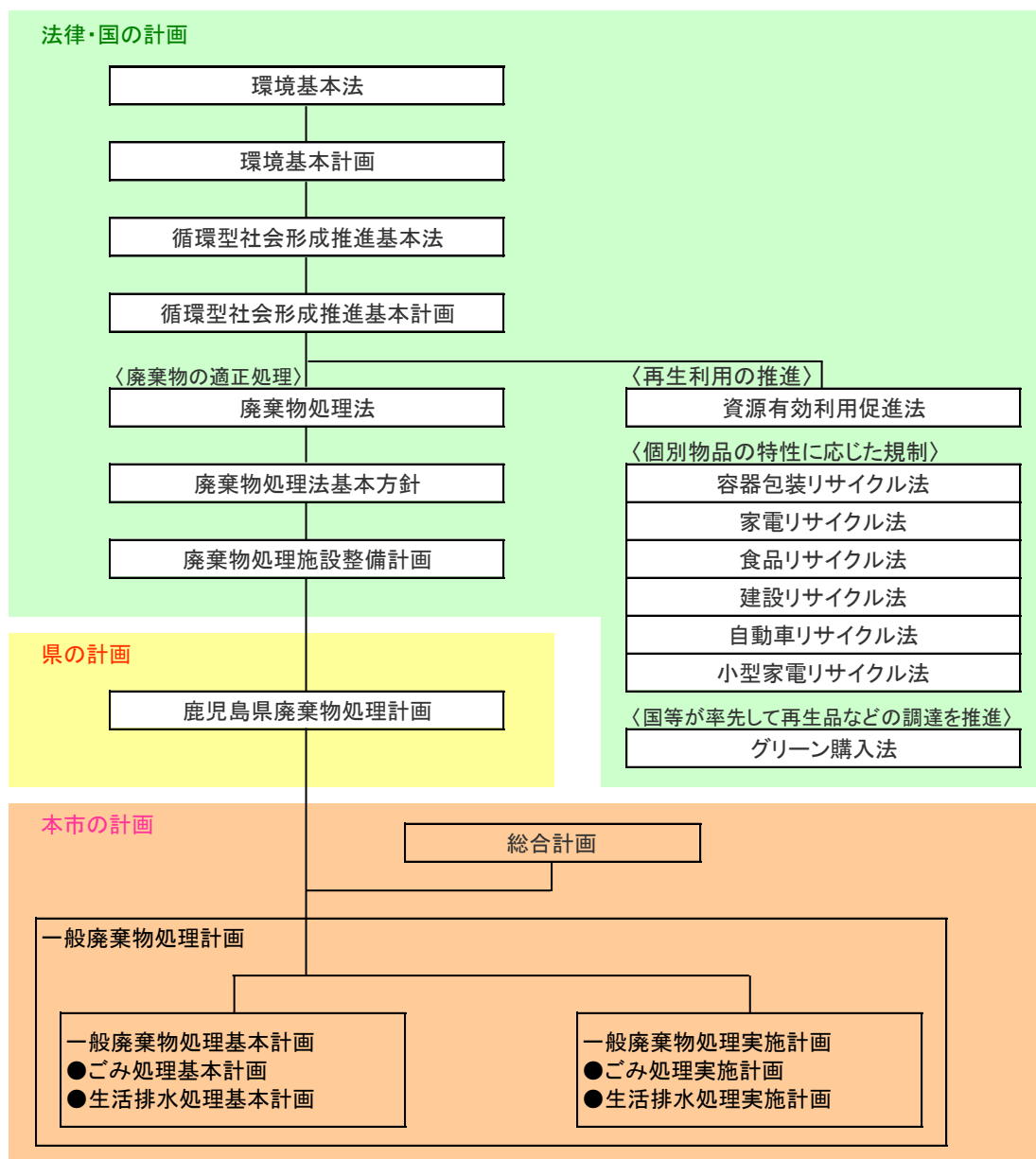


図 1-2-1 本計画と他の法令・計画との関係

2. 計画対象区域

本計画の計画対象区域は、本市行政区域内全域とする。

3. 適用範囲

対象となる廃棄物の範囲は、計画対象区域で発生するすべての一般廃棄物とする。

ただし、「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針(環境省)」に基づき、排出者が自ら処理を行う廃棄物や『家電リサイクル法』等の対象となる廃家電等は、ごみ排出量を把握する対象から除外する。

特別管理一般廃棄物は、処理体系が違うため、ごみ排出量を把握する対象から除外する。

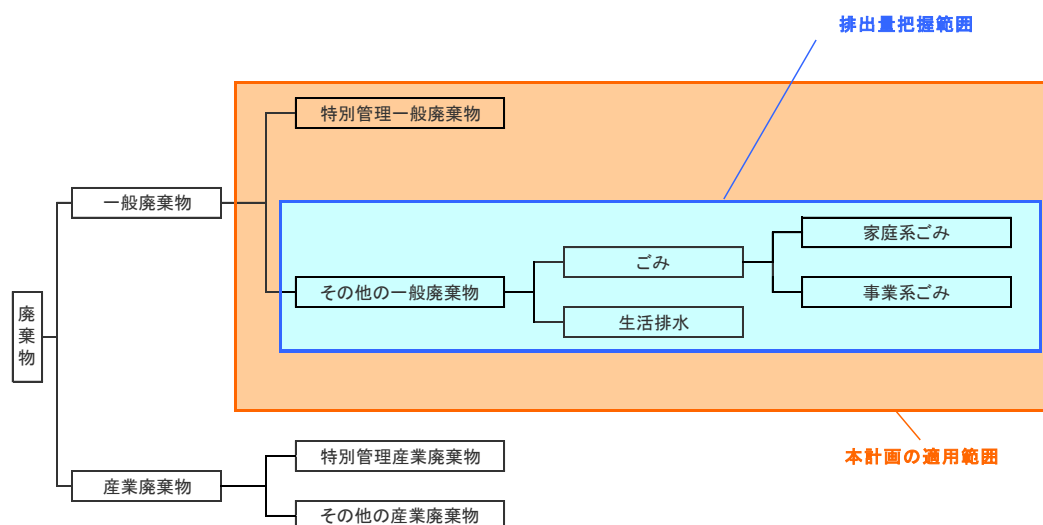


図 1-2-2 本計画の対象となる廃棄物の範囲

4. 計画目標年度

本計画の改訂は、計画の前提となる諸条件の変動等を考慮し、おおむね5年ごとに行う。

本計画は、新たな15年間の長期計画とし、中間目標年度を平成32年度と平成37年度に定め、計画目標年度を平成42年度とする。

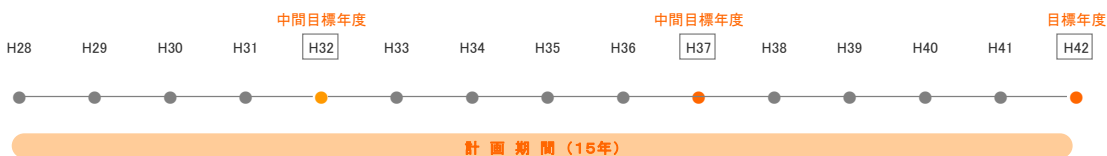


図 1-2-3 計画期間と計画目標年度

第2章 計画地域の特性

第1節 自然的条件

1. 地理、地形

本市は東経 129° 29' 45" 北緯 28° 22' 25" に位置し、鹿児島県本土から南西に約 380km 下った海上にある奄美大島本島の北部にある。

飛び地合併により、市の北部約 5 分の 1 が切り離されて存在する形態となっている。

北は東シナ海、南は太平洋に面しており、飛び地の北部は山の少ないなだらかな地形で、美しい海岸線を有している。

南部は大半を山岳で占められており、学術的にも貴重な動植物が生息している。平成 22 年国勢調査による面積は約 308.2km² であり、鹿児島県全体の約 3.4% である。

気候は、四季を通じて温暖多雨の亜熱帯海洋性気候で、平成 26 年の年間平均気温は 21.5℃、年間降水量は 3,182.5mm である。特に、大島本島は日本でも有数の多雨地帯で、梅雨は本土より 1 か月程度早く 5 月下旬に始まり 7 月上旬に終わる。

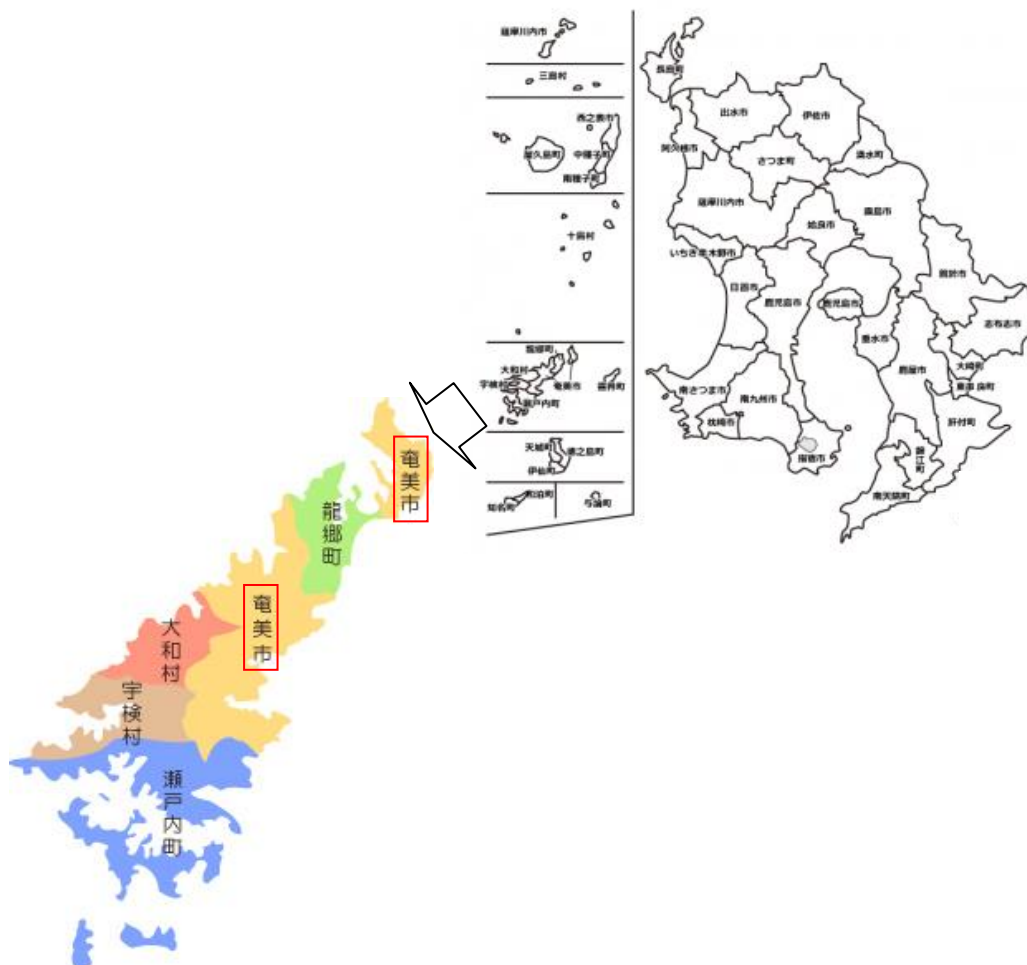


図 2-1-1 位置図

2. 気象特性

平成 26 年の日平均気温は、最高が 7 月の 28.9℃、最低が 1 月の 14.5℃であった。降水量は、年間 3,182.5mm で 6 月が最も多かった。気候としては、亜熱帯海洋性気候で、暖かい海に囲まれているため、四季を通じて温暖多湿で年平均気温は 20℃を超え、降水量は多い。

表 2-1-1 平均気温と降水量の推移

項目	降水量 (mm)	平均気温(℃)		
		日平均	日最高	日最低
H22	3,567.5	21.7	25.0	19.0
H23	2,943.5	21.4	24.4	18.8
H24	4,167.5	21.4	24.6	18.7
H25	2,302.5	21.8	25.1	18.9
H26	3,182.5	21.5	24.7	18.8
1月	68.0	14.5	18.1	11.1
2月	296.0	15.8	18.8	13.0
3月	159.0	16.7	19.7	13.5
4月	75.0	19.1	22.3	16.5
5月	301.0	22.1	25.8	19.0
6月	646.0	24.8	27.5	22.6
7月	320.0	28.9	32.3	26.3
8月	340.5	28.4	31.5	26.1
9月	307.0	27.4	31.0	24.5
10月	388.5	23.9	26.9	21.2
11月	103.5	20.8	23.8	18.3
12月	178.0	15.7	18.5	12.9

出典:アメダス(名瀬測候所)

※表記は、年度ではなく年(1月~12月)を示す。

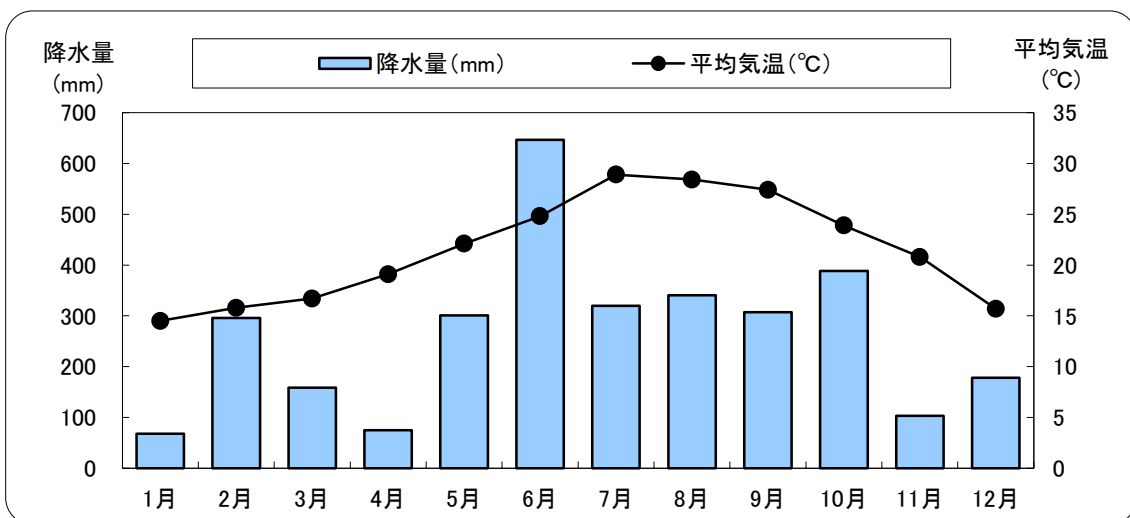


図 2-1-2 平均気温と降水量の推移 (平成 26 年)

第2節 社会的条件

1. 人口

1) 人口と世帯数

本市の人口は、減少傾向にあり、平成 26 年度は 44,125 人であった。また、世帯数は 19,884 世帯、平均世帯人員は 2.22 人となっている。

表 2-2-1 人口・世帯数の推移

年度	人口(人)		世帯数 (世帯)	平均世帯人員 (人/世帯)
		増加人口		
H17	41,049	—	17,251	2.38
H18	48,897	7,848	20,839	2.35
H19	48,156	-741	20,750	2.32
H20	47,482	-674	20,581	2.31
H21	46,891	-591	20,518	2.29
H22	46,121	-770	20,114	2.29
H23	45,603	-518	20,052	2.27
H24	45,076	-527	19,970	2.26
H25	44,544	-532	19,878	2.24
H26	44,125	-419	19,884	2.22

※外国人登録者数を含む

※各年10月1日現在

※平成18年より奄美市として算出

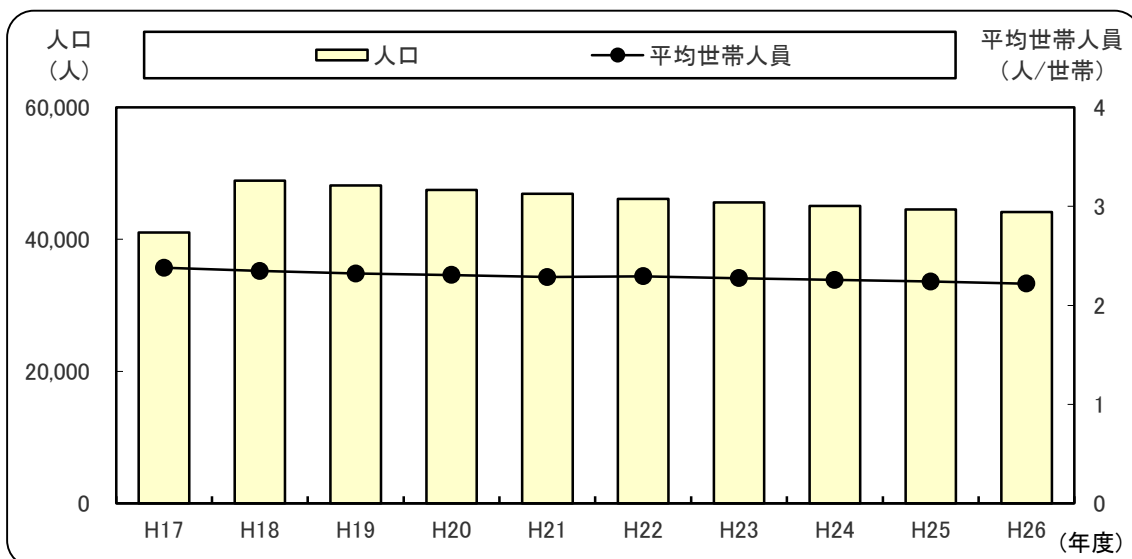


図 2-2-1 人口・世帯数の推移

2) 年齢別人口構成

年齢別人口構成は、55～59歳の人口が多く、ひょうたん型となっており、20～24歳に落ち込みがみられる。

表 2-2-2 年齢別人口構成

(単位:人)

項目		総数	男	女	
年少人口	0～4	2,151	1,088	1,063	
	5～9	2,375	1,224	1,151	
	10～14	2,477	1,261	1,216	
	小計	7,003	3,573	3,430	
生産年齢人口	15～19	2,198	1,066	1,132	
	20～24	1,163	541	622	
	25～29	2,034	950	1,084	
	30～34	2,504	1,160	1,344	
	35～39	2,915	1,418	1,497	
	40～44	2,674	1,285	1,389	
	45～49	2,939	1,437	1,502	
	50～54	3,541	1,802	1,739	
	55～59	3,919	1,981	1,938	
	60～64	3,310	1,601	1,709	
	小計	27,197	13,241	13,956	
	老年人口	65～69	2,630	1,189	1,441
		70～74	2,502	1,121	1,381
75～79		2,517	1,048	1,469	
80～84		2,015	727	1,288	
85～89		1,328	349	979	
90～94		674	148	526	
95以上		247	38	209	
小計	11,913	4,620	7,293		
不詳	8	4	4		
総数	46,121	21,438	24,683		

出典:平成22年度国勢調査
※平成22年10月1日現在

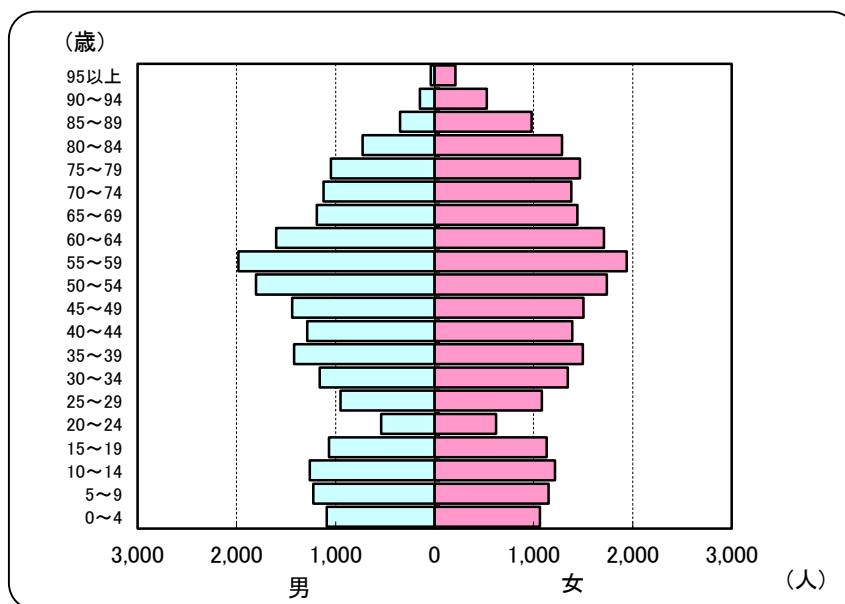


図 2-2-2 年齢別人口構成

2. 産業

事業所数では、「卸売業、小売業」が最も多く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」となっている。また、従業者数では、「卸売業、小売業」が最も多く、次いで「医療、福祉」となっている。

表 2-2-3 産業別事業所数及び従業者数（平成 24 年）

（公務を除く）

項目		事業所数(件)	従業者数(人)
第1次 産業	農林漁業	22	177
	小計	22	177
第2次 産業	鉱業、採石業、砂利採取業	0	0
	建設業	178	1,611
	製造業	186	999
	小計	364	2,610
第3次 産業	電気・ガス・熱供給・水道業	6	133
	情報通信業	25	255
	運輸業、郵便業	46	851
	卸売業、小売業	766	4,347
	金融業、保険業	50	451
	不動産業、物品賃貸業	115	405
	学術研究、専門・技術サービス業	67	227
	宿泊業、飲食サービス業	369	1,862
	生活関連サービス業、娯楽業	240	710
	教育、学習支援業	33	118
	医療、福祉	157	3,149
	複合サービス事業	23	153
	サービス業(他に分類されないもの)	154	856
	小計	2,051	13,517
総数		2,437	16,304

出典：経済センサス(平成24年)

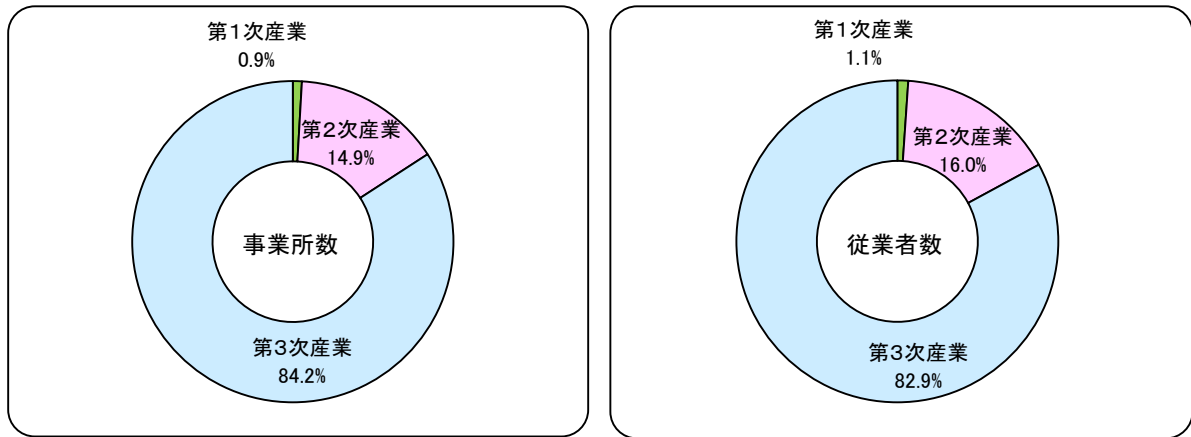


図 2-2-3 事業所数及び従業者数の構成比率 (平成 24 年)

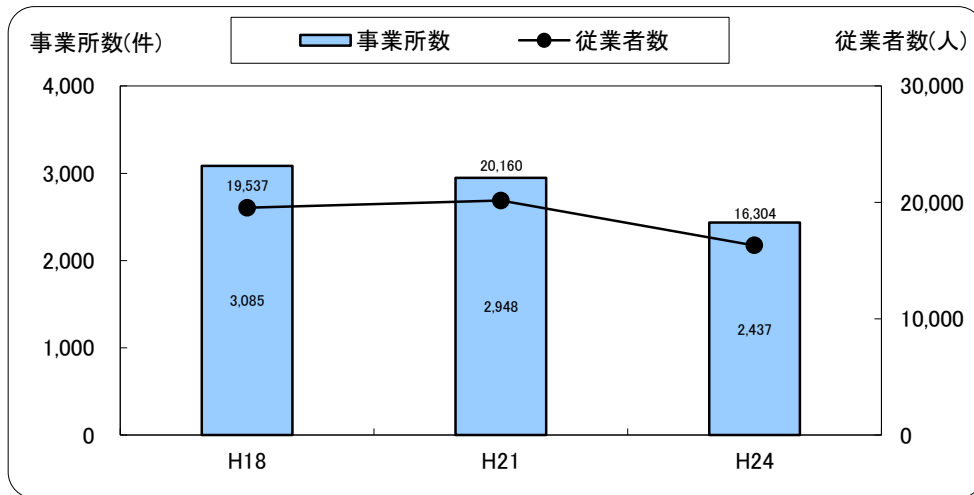


図 2-2-4 事業所数及び従業者数の推移

3. 土地利用

地目別に土地の利用状況を見ると、その他が最も多く、51%程度を占めており、次いで、山林、原野の順となっている。

表 2-2-4 地目別土地面積（平成 26 年）

区 分	面積(ha)
田	313
畑	2,378
宅地	577
池沼	11
山林	6,518
原野	4,998
雑種地	300
その他	15,720
合計	30,815

出典：市税務課 地目別土地面積（平成26年）

※1月1日現在

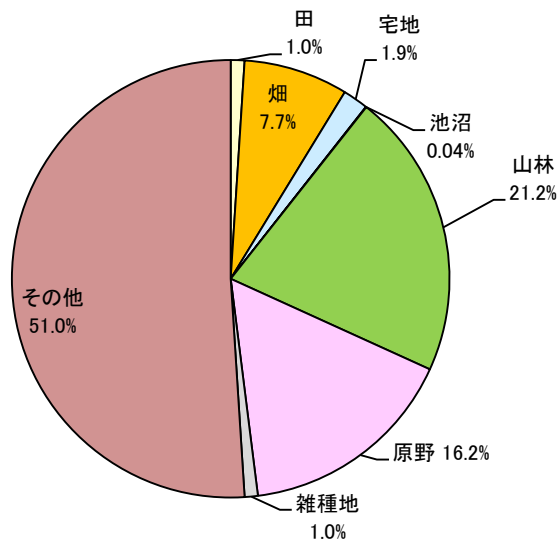


図 2-2-5 地目別土地面積割合（平成 26 年）

第3節 将来計画

1. 総合計画

1) 総合計画の概要

平成 23 年 3 月に策定された「奄美市総合計画」の概要について、表 2-3-1 に示す。

表 2-3-1 奄美市総合計画の概要

区 分	概 要
まちづくりの 基本理念	1 地域に誇りを持てるまちづくり 2 人づくりを中心とするまちづくり 3 また訪れてみたくなるまちづくり 4 自然と共生するまちづくり
将来都市像	自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷 ～太陽の恵みのもとで、ゆったりとくらす人々が、自然の声を伝えていくまち～
まちづくりの 基本目標	1 健康で長寿を謳歌するまちづくり【保健・医療・福祉】 2 観光立島を目指した多様な産業連携のまちづくり【産業経済】 3 自然に囲まれた快適な暮らしのまちづくり【生活環境・自然環境】 4 地域の中で教え、学ぶ教育・文化のまちづくり【教育・文化】 5 魅力のある地域づくりに向けて【市民協働・行財政】
まちづくりの 将来目標	1 人口 2 交流人口 3 総生産額

2. 関係条例等

本市の一般廃棄物処理関係条例等について、表 2-3-2 に示す。

表 2-3-2 一般廃棄物処理関係条例等

関係条例等
○奄美市廃棄物の減量化及び適正処理に関する条例 (平成18年3月20日条例第105号)
○奄美市廃棄物の減量化及び適正処理に関する条例施行規則 (平成18年3月20日規則第84号)
○奄美市クリーン監視員規程 (平成19年3月23日訓令第2号)
○奄美市廃棄物特定家庭用機器海上輸送費補助金交付要綱 (平成21年3月26日告示第42号)
○奄美市浄化槽清掃業に関する条例 (平成18年3月20日条例第106号)
○奄美市し尿処理場条例 (平成18年3月20日条例第107号)
○奄美市家庭生ごみ処理施設設置補助金交付要綱 (平成18年3月20日告示第52号)
○奄美市環境美化推進団体助成金交付要綱 (平成18年3月20日告示第53号)
○奄美市ストックヤード条例 (平成18年3月20日条例第108号)
○奄美市合併処理浄化槽設置推進要綱 (平成18年3月20日告示第54号)
○奄美市合併処理浄化槽設置整備事業補助金交付要綱 (平成18年3月20日告示第55号)

第3章 ごみ処理現況調査

第1節 ごみ処理の現状

1. 分別区分の状況

本市が収集する家庭系ごみの分別区分、収集対象物、排出方法、収集回数を表 3-1-1 に示す。

また、収集できないもの、名瀬クリーンセンターで引き取れないものを表 3-1-2 及び表 3-1-3 に示す。

表 3-1-1 分別区分

分別区分	収集対象物	排出方法	収集回数
もやせるごみ	台所のごみ、プラスチック製品、皮革製品、ゴム・ビニール製品	指定ごみ袋	週2回 (月・木、火・金)
もやせないごみ	電球・蛍光灯・乾電池、ガラス・せともの、空き缶・カサ、小型家電製品、刃物・金属製品・ヘルメット等	指定ごみ袋	第1、第3、第5 水曜日
資源物	段ボール	段ボール	ひも
	古紙類 新聞紙・チラシ	新聞紙・チラシ	透明袋等
	その他古紙類	雑誌、本、紙箱、紙袋	透明袋等
	ペットボトル	リサイクル表示のペットボトル	収集ケース
	びん類	無色透明・茶色、その他有色びん	収集ケース
			第2、第4水曜日
			毎月指定 の土曜日

表 3-1-2 収集できないもの

<ul style="list-style-type: none"> ●粗大ごみ <ul style="list-style-type: none"> ・(例) 自転車、たたみ、布団類、じゅうたん、大型家具等 ●事業所ごみ <ul style="list-style-type: none"> ・お店や事業所から出されるごみ ●一時多量ごみ <ul style="list-style-type: none"> ・引っ越しや大掃除等のごみ(おおむね4袋以上) <p>※直接搬入又は許可業者に依頼する</p>
--

表 3-1-3 名瀬クリーンセンターで引き取れないもの

●家電4品目
・エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機
●パソコン関連
・パソコン(デスクトップ本体・ディスプレイ)(ノートパソコン)
●その他
・充電式電池、消火器、スプリングマット、産業廃棄物、サーフボード
・廃油、農業関係、タイヤ等の自動車バイク部品等

2. ごみ処理フロー

本市におけるごみ処理フローについて、図 3-1-1 に示す。

もやせるごみ、汚泥については、大島地区衛生組合が管理する名瀬クリーンセンターのごみ焼却施設で焼却処理している。もやせないごみ、粗大ごみは同センターの粗大ごみ処理施設で破砕処理している。

資源物のうち、ペットボトル、びん類は本市のストックヤードにて資源化处理しており、段ボール、新聞紙チラシ、その他古紙類については再生業者へ直接搬入し、資源化处理している。

また、焼却処理に伴い発生する固化灰、不燃分及び破砕処理に伴い発生する不燃残渣については、同センターの最終処分場施設に埋立処分している。

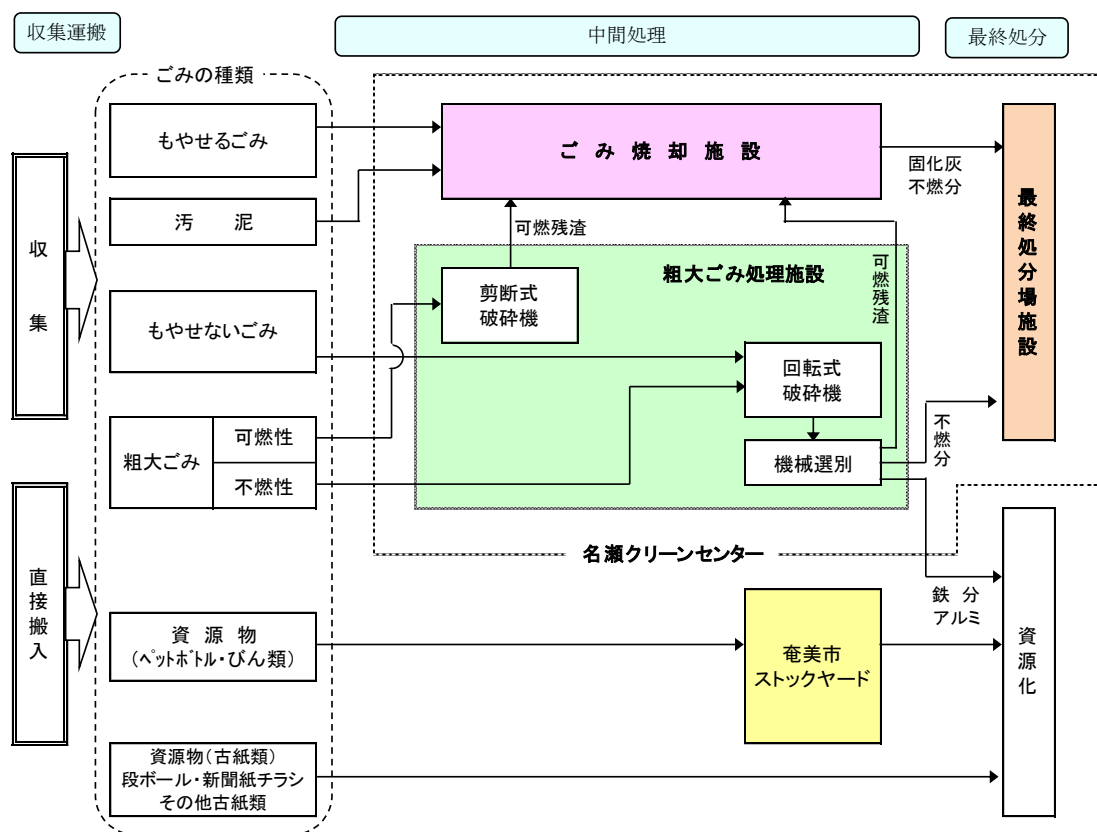


図 3-1-1 本市のごみ処理フロー

3. ごみ処理主体

本市におけるごみ処理主体と一般家庭ごみの収集運搬体制について、表 3-1-4 及び表 3-1-5 に示す。

もやせるごみ、もやせないごみの収集・運搬については、一部、市町村合併前からの定年制による随意契約業者と競争入札業者が混在し、資源物については随意契約業者が収集している状況である。

もやせるごみ、もやせないごみの中間処理及び最終処分については大島地区衛生組合が行っている。資源物については、ペットボトル、びん類の中間処理については大島地区衛生組合が行っており、段ボール、新聞紙チラシ、その他古紙類については、再生業者へ直接搬入し、中間処理を行っている。

粗大ごみは、直接搬入又は許可業者に依頼し、収集・運搬を行っており、中間処理及び最終処分については大島地区衛生組合が行っている。

表 3-1-4 ごみ処理主体

分別区分	収集・運搬	中間処理	最終処分
もやせるごみ	委託	組合	組合
もやせないごみ	委託	組合	組合
資源物 (ペットボトル・びん類)	委託	組合	-
資源物(古紙類) 段ボール・新聞紙チラシ・ その他古紙類	委託	委託	-
粗大ごみ	直接搬入又は 許可業者	組合	組合

表 3-1-5 一般家庭ごみの収集運搬体制

【名瀬・住用地区①（平成 27 年度 現在）】

住所・氏名及び事務所の所在地	業の区分	対象物
奄美市住用町大字川内 1057 番地 1 菊野 哲也	廃棄物の処理及び清掃に 関する法律第 6 条に基づく 収集・運搬	・燃やせるごみ ・燃やせないごみ ・古紙類(新聞紙、雑誌類・段ボール)
奄美市名瀬長浜町 21 番 18 号 (有)長浜清掃	〃	〃
奄美市名瀬大熊町 10 番地 9 福山 修身	〃	〃
奄美市名瀬大字根瀬部 23 番地 3 (有)丸恵運輸	〃	〃
奄美市名瀬長浜町 18 番 11 号 中田 健吾	〃	〃

【名瀬・住用地区②（平成 27 年度 現在）】

住所・氏名及び事務所の所在地	業の区分	対象物
奄美市名瀬浦上町 18 番地 8 中林 充也	廃棄物の処理及び清掃に 関する法律第 6 条に基づく 収集・運搬	・燃やせるごみ ・燃やせないごみ ・古紙類(新聞紙、雑誌類・段ボール)
奄美市名瀬朝仁新町 46 番地 10 (株)いちばん社	〃	〃
奄美市名瀬大字浦上 1207 番地 8 (有)日之出環境開発	〃	〃
奄美市名瀬大字崎原 358 番地 NPO 法人グレース・エ・サモサ	容器包装リサイクル法に基 づく収集・運搬	容器包装ごみ (ペットボトル・びん 3 種)

【笠利地区（平成 27 年度 現在）】

住所・氏名及び事務所の所在地	業の区分	対象物
奄美市笠利町大字笠利 3312 番地 1 山田 和則	廃棄物の処理及び清掃に 関する法律第 6 条に基づく 収集・運搬	・燃やせるごみ ・燃やせないごみ ・古紙類(新聞紙、雑誌類・段ボール)
奄美市笠利町大字外金久 75 番地 2 (有)笠利清掃社	〃	〃
奄美市笠利町大字外金久 75 番地 2 (有)笠利清掃社	容器包装リサイクル法に基 づく収集・運搬	容器包装ごみ (ペットボトル・びん 3 種)

4. 収集方式

本市では、もやせるごみ、もやせないごみについてはステーション方式及び一部戸別収集を行っている。また、資源物については、ステーション方式及び常時回収所による収集を行っている。

表 3-1-6 収集方式

分別区分	収集方式
もやせるごみ	ステーション方式(一部戸別収集)
もやせないごみ	ステーション方式(一部戸別収集)
資源物	ステーション方式、常時回収所

5. ごみ排出量の現状

1) ごみの種類別排出量

(1) ごみ排出量

本市におけるごみ排出量の合計は、過去5年間で約10%減少しており、平成26年度は18,680t/年となっている。

表 3-1-7 ごみ排出量の推移

項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26
人口	人	46,121	45,603	45,076	44,544	44,125
家庭系	t/年	13,167	12,147	12,505	10,689	10,599
もやせるごみ	t/年	10,323	9,908	10,305	8,709	8,664
もやせないごみ	t/年	718	639	662	605	627
資源物(ペットボトル、びん類)	t/年	141	130	130	121	121
資源物(古紙類)	t/年	469	474	450	451	404
粗大ごみ	t/年	1,516	996	958	803	783
事業系	t/年	7,642	7,193	7,334	8,433	8,081
もやせるごみ	t/年	4,999	4,508	4,382	5,690	5,628
もやせないごみ	t/年	462	413	353	262	235
粗大ごみ	t/年	1,349	1,053	1,145	986	953
汚泥(下水道+し尿)	t/年	832	1,219	1,454	1,495	1,265
ごみ総排出量	t/年	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680
もやせるごみ	t/年	15,322	14,416	14,687	14,399	14,292
もやさないごみ	t/年	1,180	1,052	1,015	867	862
資源物(ペットボトル、びん類)	t/年	141	130	130	121	121
資源物(古紙類)	t/年	469	474	450	451	404
粗大ごみ	t/年	2,865	2,049	2,103	1,789	1,736
汚泥(下水道+し尿)	t/年	832	1,219	1,454	1,495	1,265

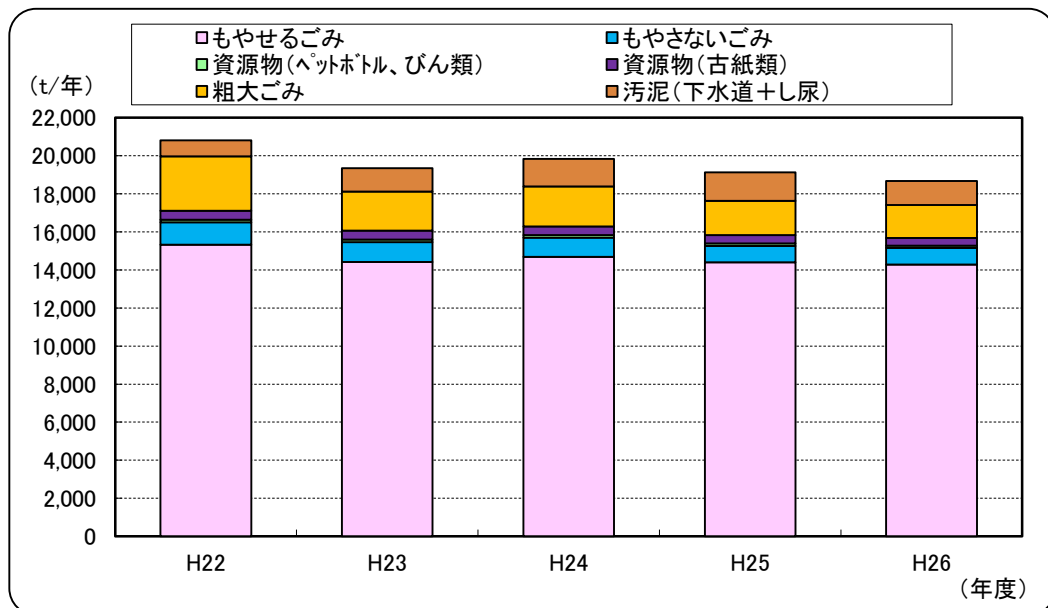


図 3-1-2 ごみ排出量の推移

(2) 収集・直接搬入ごみ量

本市における収集ごみ量は、平成 23 年度までは増加傾向だったが、平成 24 年度以降は減少している。直接搬入ごみ量は平成 24 年度までは増減していたが、平成 25 年度以降はほぼ横ばいとなっている。

収集ごみ 1 人 1 日平均排出量は、平成 24 年度以降は減少しており、平成 26 年度は 1,048.2g/人・日となっている。また、直接搬入ごみ 1 日平均排出量は、平成 25 年度以降は横ばいとなっており、平成 26 年度は 4.9t/日となっている。

表 3-1-8 収集・直接搬入ごみ量の推移

項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26
人口	人	46,121	45,603	45,076	44,544	44,125
収集ごみ量	t/年	16,900	17,771	17,764	17,320	16,882
もやせるごみ	t/年	13,810	14,228	14,247	13,949	13,846
もやせないごみ	t/年	1,151	1,030	971	810	829
資源物(ペットボトル、びん類)	t/年	141	130	130	121	121
資源物(古紙類)	t/年	469	474	450	451	404
粗大ごみ	t/年	497	690	512	494	417
汚泥(下水道+し尿)	t/年	832	1,219	1,454	1,495	1,265
直接搬入ごみ量	t/年	3,909	1,569	2,075	1,802	1,798
もやせるごみ	t/年	1,512	188	440	450	446
もやせないごみ	t/年	29	22	44	57	33
粗大ごみ	t/年	2,368	1,359	1,591	1,295	1,319
収集ごみ1人1日平均排出量	g/人・日	1,003.9	1,067.6	1,079.7	1,065.3	1,048.2
もやせるごみ	g/人・日	820.4	854.8	865.9	857.9	859.7
もやせないごみ	g/人・日	68.4	61.9	59.0	49.8	51.5
資源物(ペットボトル、びん類)	g/人・日	8.4	7.8	7.9	7.4	7.5
資源物(古紙類)	g/人・日	27.9	28.5	27.4	27.7	25.1
粗大ごみ	g/人・日	29.5	41.5	31.1	30.4	25.9
汚泥(下水道+し尿)	g/人・日	49.4	73.2	88.4	92.0	78.5
直接搬入ごみ1日平均排出量	t/年	10.7	4.3	5.7	4.9	4.9
もやせるごみ	t/年	4.1	0.5	1.2	1.2	1.2
もやせないごみ	t/年	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
粗大ごみ	t/年	6.5	3.7	4.4	3.5	3.6

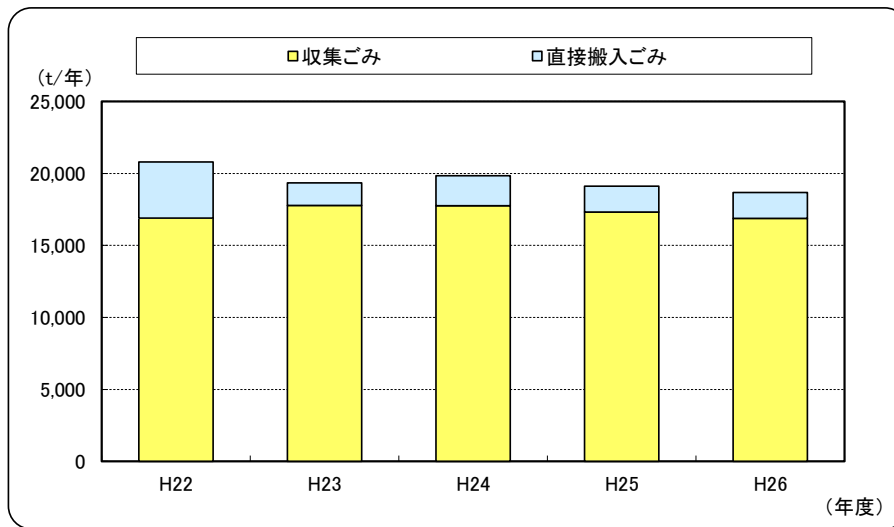


図 3-1-3 収集・直接搬入ごみ量の推移

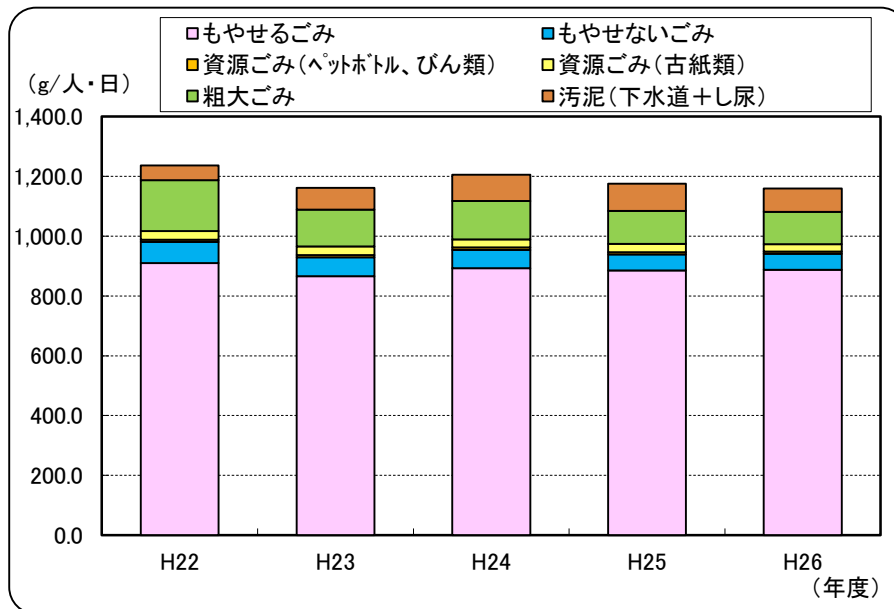


図 3-1-4 収集ごみ 1 人 1 日平均排出量の推移 (種類別)

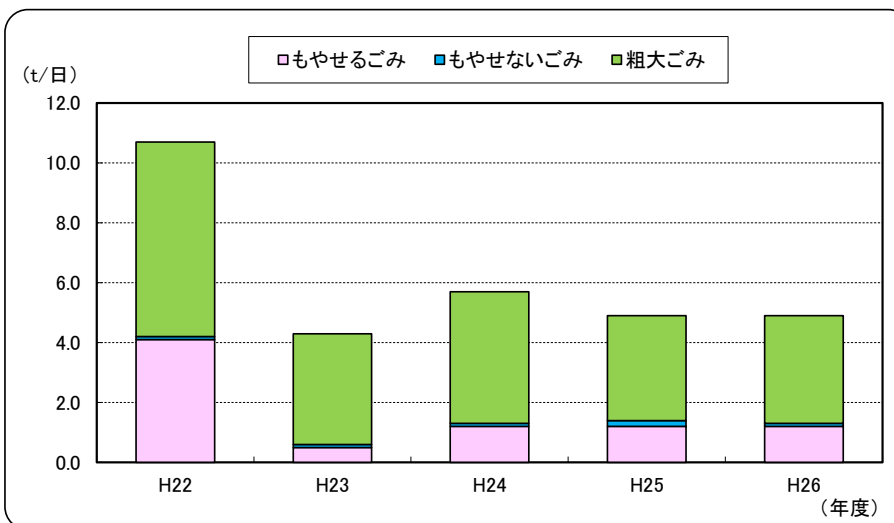


図 3-1-5 直接搬入ごみ 1 日平均排出量の推移 (種類別)

2) 中間処理量

(1) 焼却処理量と減容化量

名瀬クリーンセンターごみ焼却施設における本市の焼却処理量は、平成 24 年度以降は減少しており、平成 26 年度は 16,834t/年となっている。

減容化率は、77.6～83.1%となっている。

表 3-1-9 焼却処理量と減容化量の推移

単位:t/年

	H22	H23	H24	H25	H26
ごみ総排出量	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680
焼却処理	18,310	17,492	17,846	17,347	16,834
もやせるごみ	15,322	14,416	14,687	14,399	14,292
可燃残渣	2,156	1,857	1,705	1,453	1,277
汚泥(下水道+し尿)	832	1,219	1,454	1,495	1,265
搬出量	2,156	1,857	1,705	1,453	1,906
固化灰	1,401	1,244	1,104	930	1,239
焼却鉄	65	56	61	58	66
焼却不燃物	690	557	540	465	601
減容化量	16,154	15,635	16,141	15,894	14,928
減容化率	77.6%	80.8%	81.4%	83.1%	79.9%

※減容化量＝焼却処理量－搬出量

※減容化率＝減容化量÷ごみ総排出量

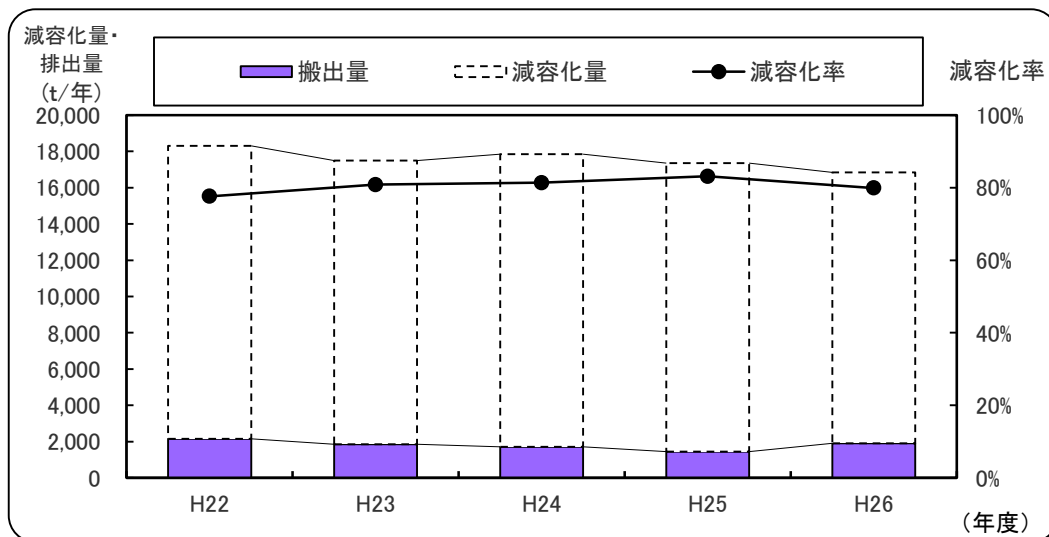


図 3-1-6 焼却処理量と減容化量の推移

(2) 粗大ごみ・もやせないごみ処理量

名瀬クリーンセンター粗大ごみ処理施設における本市の粗大ごみ・もやせないごみの処理量は、平成 24 年度以降は減少しており、平成 26 年度は 2,598t/年となっている。

表 3-1-10 粗大ごみ・もやせないごみ処理量の推移

単位:t/年

	H22	H23	H24	H25	H26
粗大・もやせないごみ処理量	4,045	3,101	3,118	2,730	2,598
可燃残渣	2,156	1,857	1,705	1,453	1,277
不燃残渣	1,139	528	598	526	601
金属類	750	716	815	751	720

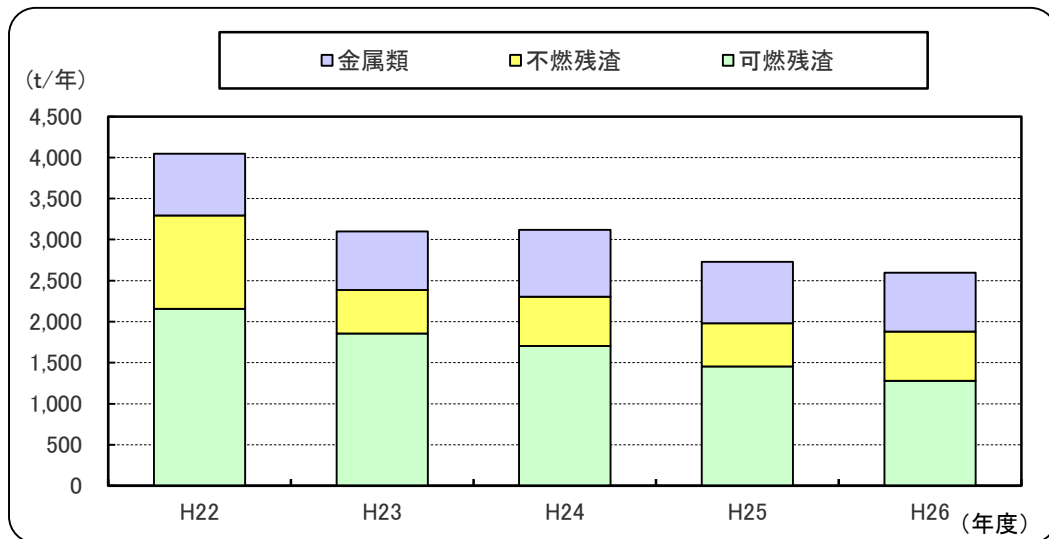


図 3-1-7 粗大ごみ・もやせないごみ処理量の推移

(3) 資源化量

本市における資源化量は、平成24年度以降は減少しており、平成26年度は1,245t/年となっている。

資源化率の推移は、6.5～7.1%となっている。

表 3-1-11 資源化量と資源化率の推移

単位:t/年

項目	H22	H23	H24	H25	H26
ごみ総排出量	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680
資源化量	1,360	1,320	1,399	1,250	1,245
ペットボトル	46	42	46	48	38
無色びん	37	34	34	29	31
茶びん	36	34	33	29	33
その他びん	22	20	21	15	19
古紙類	564	571	567	586	538
クリーンセンター回収分	95	97	117	135	134
市回収分	469	474	450	451	404
金属類	655	619	698	543	586
資源化率	6.5%	6.8%	7.1%	6.5%	6.7%

※資源化率=資源化量÷ごみ総排出量

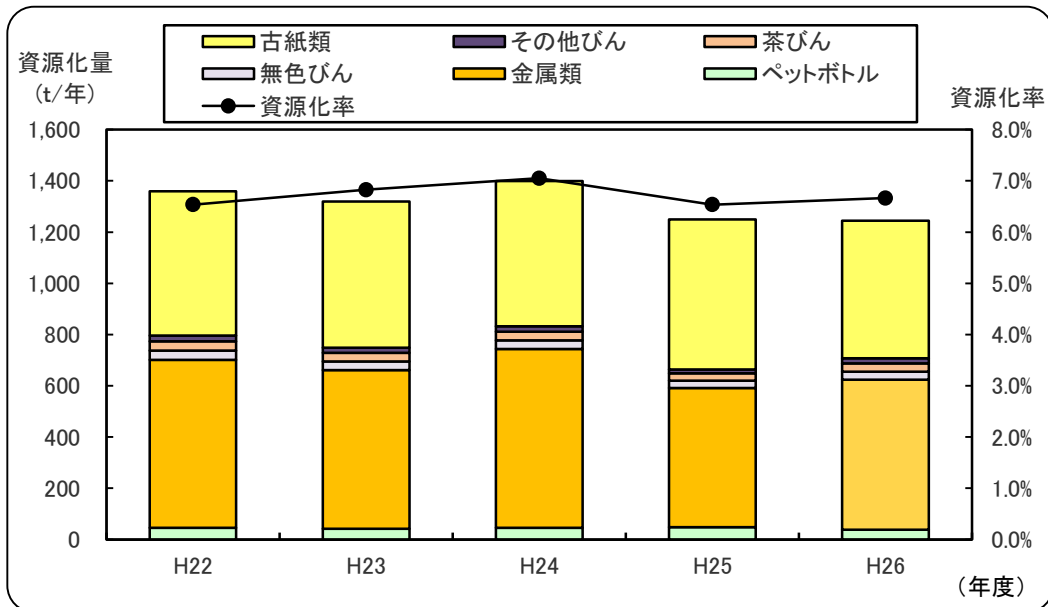


図 3-1-8 資源化量と資源化率の推移

3) 最終処分量

名瀬クリーンセンター最終処分場施設における本市の最終処分量は、平成 25 年度までは減少傾向にあったが、平成 26 年度では増加しており、2,506t/年となっている。

最終処分率も最終処分量と同じ傾向であり、平成 26 年度は 13.4%となっている。

表 3-1-12 最終処分量と最終処分率の推移

単位:t/年

項目	H22	H23	H24	H25	H26
ごみ総排出量	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680
最終処分量	3,344	2,609	2,607	2,389	2,506
固化灰	1,401	1,244	1,104	930	1,239
焼却鉄	65	56	61	58	66
焼却不燃物	687	621	627	597	601
不燃残渣	1,191	688	815	804	600
最終処分率	16.1%	13.5%	13.1%	12.5%	13.4%

※最終処分率=最終処分量÷ごみ総排出量

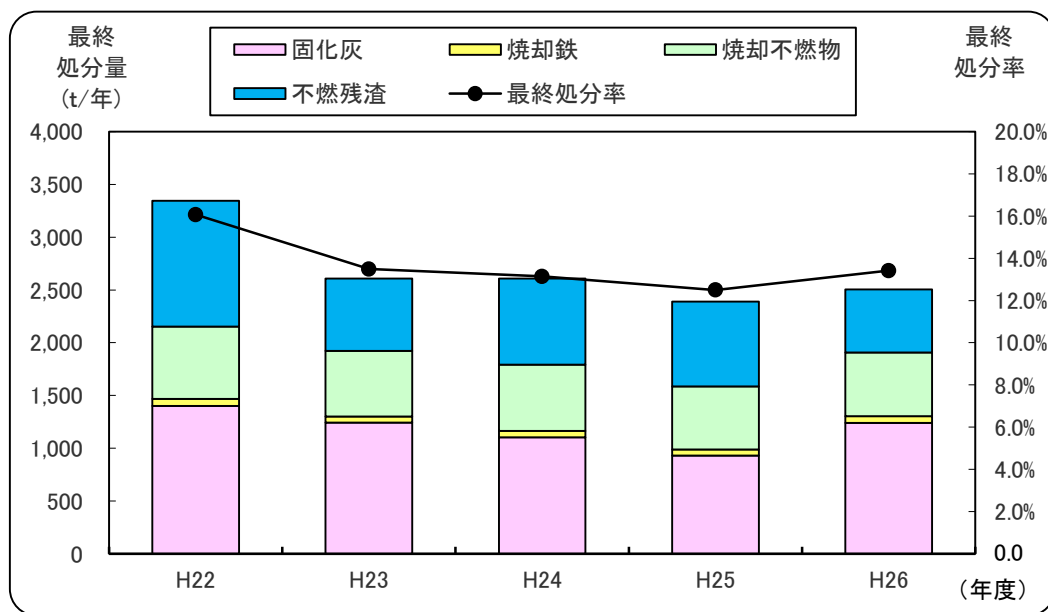


図 3-1-9 最終処分量と最終処分率の推移

4) ごみ質

平成 26 年度の種別別組成は、「紙・布類」が最も多く、全体の 49.8%を占めている。
また、低位発熱量は、この 5 年間で 7,453~8,980kJ/kg で推移している。三成分は、水分が 39.2~46.1%、灰分が 6.5~12.3%、可燃分が 45.5~52.8%となっている。

表 3-1-13 可燃ごみの組成分析

区分		H22	H23	H24	H25	H26
種別別組成	紙・布類 (%)	41.1	59.6	48.9	49.7	49.8
	ビニール、合成樹脂、ゴム、皮革類 (%)	29.1	22.4	29.9	24.4	26.5
	木・竹・わら類 (%)	10.8	4.2	12.0	7.0	8.5
	厨芥類 (%)	11.8	9.4	3.5	10.6	8.8
	不燃物類 (%)	3.9	1.2	5.1	7.0	4.3
	その他 (%)	3.3	3.3	0.6	1.3	2.1
単位容積重量 (kg/m ³)		132.0	159.3	156.3	155.8	150.9
低位発熱量 (kJ/kg)		8,980	7,790	8,050	7,453	8,068
三成分	水分 (%)	39.2	46.1	39.8	45.7	42.7
	灰分 (%)	8.0	6.5	12.3	8.8	8.9
	可燃分 (%)	52.8	47.4	47.9	45.5	48.4

※年平均値を示す。

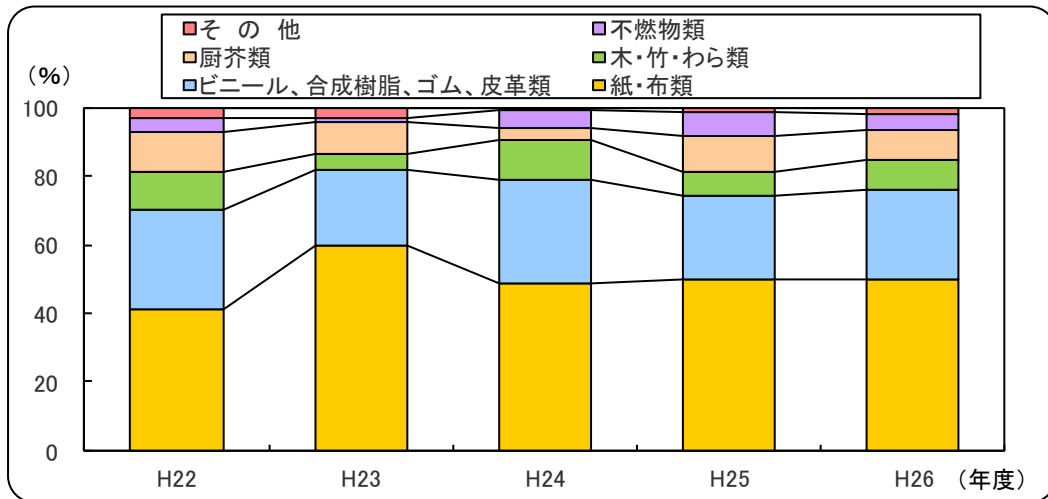


図 3-1-10 種別別組成の実績

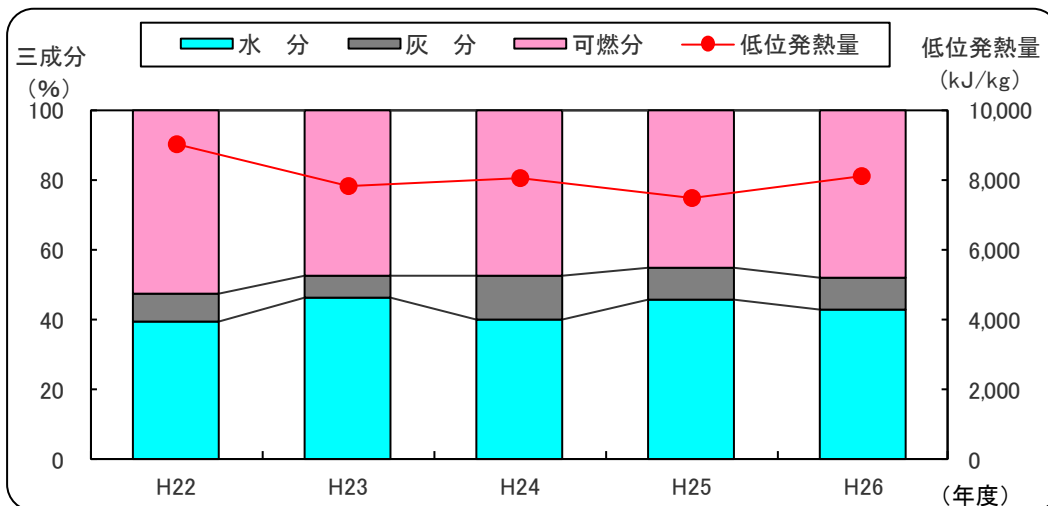


図 3-1-11 三成分・低位発熱量の実績

5) ごみ処理コスト

ごみ処理経費は、平成 24 年度以降はほぼ横ばいで推移している。

平成 26 年度の合計は 4 億 6,537 万円となっており、これを市民 1 人あたりに換算すると 10,547 円、ごみ 1t あたりに換算すると 25,463 円となる。

表 3-1-14 ごみ処理コストの推移

項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26
処理及び維持管理費	千円	910,221	718,718	480,417	463,213	465,370
人件費	千円	63,500	63,500	63,500	60,006	57,828
処理費	千円	0	0	0	0	0
車両等購入費	千円	0	0	0	0	0
委託費	千円	83,051	84,300	81,334	87,242	87,242
収集・運搬費	千円	83,051	84,300	81,334	87,242	87,242
中間処理費	千円	0	0	0	0	0
最終処分費	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
組合分担金	千円	763,670	570,918	335,583	315,965	320,300
調査研究費	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
合計	千円	910,221	718,718	480,417	463,213	465,370
人口	人	46,121	45,603	45,076	44,544	44,125
1人当たり経費	円/人	19,736	15,760	10,658	10,399	10,547
ごみ総排出量	t/年	20,340	18,866	19,389	18,671	18,276
ごみ1t当たり経費	円/t	44,750	38,096	24,778	24,809	25,463

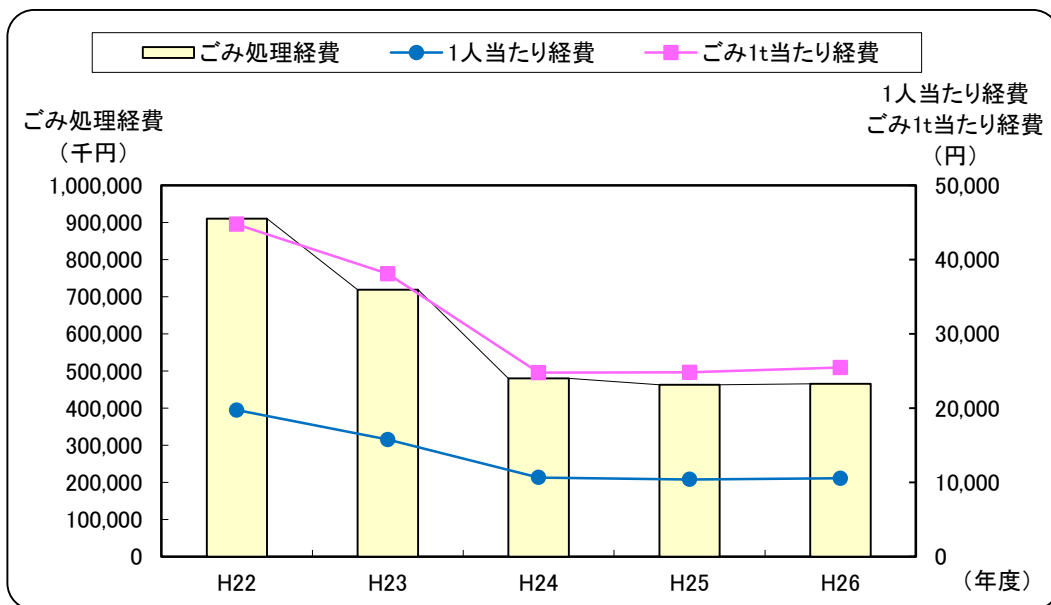


図 3-1-12 ごみ処理コストの推移

6) 温室効果ガス排出量

収集活動から生じる温室効果ガス排出量を二酸化炭素に換算すると、平成 26 年度では、年間 164,953 kg、1 人 1 日当たりで 0.01kg となっている。

温室効果ガス排出量は、過去 5 年間でほぼ横ばいで推移している。

表 3-1-15 温室効果ガス排出量の推移

(単位:kg-CO₂/年)

調査項目			対象 ガス	H22		H23		H24	
				活動量	CO ₂ 換算量	活動量	CO ₂ 換算量	活動量	CO ₂ 換算量
収集	(1)燃料使用量	軽油	CO ₂	71,207 L	184,067	70,936 L	183,367	70,388 L	181,950
	(2)自動車走行量	軽油(普通貨物車)	CH ₄ 、N ₂ O	252,200 km	1,174	251,230 km	1,169	249,290 km	1,160
合計	排出量			/	185,241	/	184,536	/	183,111
	人口(人)			/	46,121	/	45,603	/	45,076
	1人1日当たり 温室効果ガス排出量			/	0.01	/	0.01	/	0.01

(単位:kg-CO₂/年)

調査項目			対象 ガス	H25		H26	
				活動量	CO ₂ 換算量	活動量	CO ₂ 換算量
収集	(1)燃料使用量	軽油	CO ₂	70,662 L	182,659	63,360 L	163,783
	(2)自動車走行量	軽油(普通貨物車)	CH ₄ 、N ₂ O	250,260 km	1,165	251,230 km	1,169
合計	排出量			/	183,824	/	164,953
	人口(人)			/	44,544	/	44,125
	1人1日当たり 温室効果ガス排出量			/	0.01	/	0.01

第2節 中間処理施設

1. ごみ焼却施設

大島地区衛生組合が所有する焼却施設について表 3-2-1 に示す。

表 3-2-1 ごみ焼却施設の概要

項目	概要	
施設名称	名瀬クリーンセンター ごみ焼却施設	
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字有屋字井野1594-1	
着工・竣工	着工:平成6年3月、竣工:平成9年3月	
形式	間欠運転方式(旧名称:准連続運転式)	
能力	100t/日(50t/16h×2炉)	
設備	受入供給設備	ピット&クレーン方式
	燃焼設備	流動床方式
	燃焼ガス冷却設備	水噴射冷却方式
	排ガス処理設備	乾式有害ガス除去装置+バグフィルタ
	灰出設備	灰出方式:バンカ方式 ダスト処理方式:セメント固化+薬剤処理方式
	余熱利用設備	場内暖房給湯
	通風設備	平衡通風方式
排水処理設備	ごみピット排水:炉内蒸発酸化処理	
	プラント排水:浸出水処理後、水噴霧	

2. 粗大ごみ処理施設

大島地区衛生組合が所有する粗大ごみ処理施設について表 3-2-2 に示す。

表 3-2-2 粗大ごみ処理施設の概要

項目	概要
施設名称	名瀬クリーンセンター 粗大ごみ処理施設
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字有屋字井野1594-1
着工・竣工	着工:平成6年3月、竣工:平成9年3月
能力	回転式破砕機:20t/日(20t/5h×1基) 剪断式破砕機:5t/5h×1基
選別設備	磁選機、トロンメル
搬出設備	不燃物ホツパ、磁性物ホツパ、アルミホツパ

3. ストックヤード

本市が所有するストックヤードについて表 3-2-3 に示す。

表 3-2-3 ストックヤードの概要

項目	概要
施設名称	奄美市ストックヤード
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字有屋字井野1594-1
着工・竣工	着工:平成11年10月、竣工:平成12年2月
能力	ペットボトル、びん3種:10 t×4箇所 ペットボトル減容機:100kg/h

第3節 最終処分場

大島地区衛生組合が所有する最終処分場施設について表 3-3-1 に示す。

表 3-3-1 最終処分場施設の概要

項目	概要
施設名称	名瀬クリーンセンター 最終処分場施設
埋立場所	鹿児島県奄美市名瀬大字有屋字井野1594-1
埋立開始年	1997年度
埋立面積	16,400 m ²
埋立容量	146,000 m ³
埋立方式	準好気性埋立構造
しゃ水方式	底部しゃ水工、鉛直しゃ水工
浸出水処理方式	接触ばつ気生物処理+高度処理
浸出水処理能力	115 m ³ /日

第4節 資源化、減量化のための施策等

資源化、ごみ減量化のための施策等は次のとおりである。

1. 処理手数料

大島地区衛生組合では名瀬クリーンセンターへの直接搬入ごみについては、処理手数料を徴収している。

また、指定袋を販売するときに、家庭ごみ手数料の徴収を行っており、45ℓ入りの袋で1枚当たり15.4円（25ℓ入りの袋は1枚当たり9.2円）となっている。

表 3-4-1 処理手数料

番号	重さ(kg) (四捨五入)	指定袋以外 ・納入済シール貼付無し	粗大ごみ
1	0～40	160	200
2	50～90	320	410
3	100～140	480	610
4	150～190	640	820
5	200～240	810	1,110
6	250～290	970	1,400
7	300～340	1,130	1,690
8	350～390	1,290	1,980
9	400～440	1,450	2,270
10	450～490	1,620	2,570

全ての指定袋に入れてあるものについては、1回につき100円

2. 生ごみ処理機器購入補助

本市では、市内の各家庭から排出される生ごみの減量、堆肥として資源化をはかるため、生ごみ処理器及び電気式生ごみ処理機の購入に対し補助（半額補助：上限額4,500円）を行っている。

表 3-4-2 生ごみ処理機器の補助実績

年度	種別	電気式		その他		合計	
		件数 (基)	金額 (円)	件数 (基)	金額 (円)	件数 (基)	金額 (円)
平成 22 年度		2	9,000	10	23,900	12	32,900
平成 23 年度		2	9,000	8	18,500	10	27,500
平成 24 年度		0	0	6	13,200	6	13,200
平成 25 年度		3	7,000	3	9,300	6	16,300
平成 26 年度		0	0	3	7,600	3	7,600

3. 環境美化推進団体助成金

町内会及び自治会を環境美化推進団体として位置付け、その活動の一部に助成している。助成金の交付額は加入世帯数に応じて4段階に分けている。

表 3-4-3 助成金の交付基準

環境美化推進団体の加入世帯数	交付額（円）
100 世帯未満	17,000
100 世帯以上 200 世帯未満	24,000
200 世帯以上 400 世帯未満	31,000
400 世帯以上	38,000

表 3-4-4 助成金交付実績

	交付団体数	助成金総額 （千円）
平成 22 年度	52	1,321
平成 23 年度	53	1,307
平成 24 年度	53	1,286
平成 25 年度	56	1,365
平成 26 年度	56	1,358

4. 奄美エコマネー

リサイクルを推進し、地球温暖化防止を図るとともに、エコマネーの発行による地域経済の活性化及び公共交通機関の利用促進等を目的として、平成17年7月1日から奄美エコマネーをスタートさせている。

本事業の対象となるリサイクル資源は、アルミ缶と一升瓶に限定となっている。

表 3-4-5 奄美エコマネー実績

	会員数 （人）	アルミ缶 （kg）	一升瓶 （本）
平成 22 年度	25	8,757	7,521
平成 23 年度	16	10,072	7,019
平成 24 年度	30	8,770	5,571
平成 25 年度	13	8,631	4,354
平成 26 年度	14	7,784	4,705

※会員数は新規申し込み数

第5節 ごみ処理行政における国等の動向

1. 国及び県における動向

1) 廃棄物処理法の基本方針（平成 22 年 12 月）

国は、「廃棄物処理法」に基づき「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」の中で、一般廃棄物の減量化に関して、当面、平成 27 年度を目標年度として、排出量、再生利用量、最終処分量の目標を個別に設定している。

2) 第三次循環型社会形成推進基本計画（平成 25 年 5 月）

循環型社会形成推進基本計画は、循環型社会形成推進基本法（平成 12 年法律第 110 号）第 15 条に基づき、循環型社会の形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために定められるものである。第三次循環型社会形成推進基本計画では、環境保全を前提とした循環型社会の形成を標榜しており、市町村は、地域循環圏の形成等、住民の生活に密着した基礎的自治体としての役割を果たすこと、さらに相互の緊密な連携により協力していくことが求められている。

また、循環型社会形成に関する取組指標として一般廃棄物の減量化に係る目標値が設定されている。

3) 廃棄物処理施設整備計画（平成 25 年 5 月）

廃棄物処理施設整備計画は、廃棄物処理法第 5 条の 3 第 1 項の規定に基づき、廃棄物処理施設整備事業を計画的に実施するため、廃棄物処理法基本方針に即して定められるものである。

平成 25 年 5 月に閣議決定された計画においては、現在の公共の廃棄物処理施設の整備状況や、東日本大震災以降の災害対策への意識の高まり等、社会環境の変化を踏まえ、3R の推進に加え、災害対策や地球温暖化対策の強化を目指し、広域的な視点に立った強靱な廃棄物処理システムの確保を進めることとしている。

また、全体目標として「生活環境の保全及び公衆衛生の向上を前提として、廃棄物等の適正な循環の利用及び適正な処分のための施設等を整備し、循環型社会の形成の推進を図る」を掲げ、リサイクル率の目標値が設定されている。

4) 鹿児島県廃棄物処理計画（平成 23 年 3 月）

鹿児島県廃棄物処理計画では、県内における循環型社会の形成を推進していく基本的な方向が定めており、県民や事業者及び行政等の全ての主体が取り組んでいくための指針として、具体的目標として、総排出量、一人一日当たり排出量、リサイクル率、最終処分量の目標を設定している。

表 3-5-1 ごみの発生抑制及び再生利用に関する目標

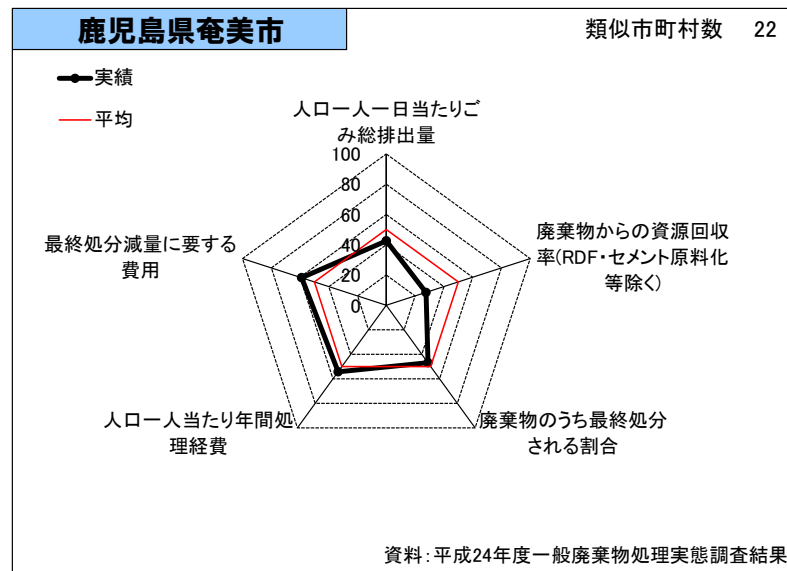
項目	国(環境省)			鹿児島県
	廃棄物処理法の基本方針	第3次循環型社会形成推進基本計画	廃棄物処理施設整備計画	鹿児島県廃棄物処理計画
策定年月	平成22年12月	平成25年5月	平成25年5月	平成23年3月
基準年度	平成19年度	平成12年度	-	平成22年度
目標年度	平成27年度	平成32年度	平成29年度	平成27年度
排出ごみ量の目標	①排出量 :約5%削減 ②再生利用量 :約25% ③最終処分量 :約22%削減	①一般廃棄物の減量化 :約25%減 ②1人1日当たりの家庭系ごみ排出量 (集団回収量, 資源ごみ等を除いた値) :約25%減 ③事業系ごみ排出量 :約35%減	リサイクル率 :26%	①総排出量 :10.6%削減 ②一人一日当たり排出量 :813g/人・日(7.6%削減) ③リサイクル率 :21%(3.7%増加) ④最終処分量 :19%削減

第6節 ごみ処理システムの評価

「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針」（環境省）に基づき、本市のごみ処理システムを評価した。比較対象としたのは、産業構造等の似通った全国の類似自治体であり、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課の「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」を用いて評価を行った。

「人口一人一日当たりごみ総排出量」、「廃棄物からの資源回収率(RDF・セメント原料化等除く)」が類似市町村と比較して平均を下回る偏差値を示しているが、その他の項目については平均を上回っている。

今後も、費用対効果を勘案しながら、更なるごみ処理システムの向上に向けて取り組んでいく。



※偏差値の表記について

算出された指標は、その項目によって、大きい方が良好なもの、小さい方が良好なものがあるが、レーダーチャート上では、偏差値は以下の算出方法とし、数値が大きいほど良好な状態を示すようにしている。

大きい方が良好な指標: $(\text{実績値} - \text{平均値}) \div \text{標準偏差} \times 10 + 50$

小さい方が良好な指標: $100 - (\text{実績値} - \text{平均値}) \div \text{標準偏差} \times 10 + 50$

●大きい方が良好な指標: 廃棄物からの資源回収率

●小さい方が良好な指標: 人口一人一日当たりごみ総排出量、廃棄物のうち最終処分される割合、人口一人当たり年間処理経費、最終処分減量に要する費用

レーダーチャートが、平均値(赤線)の外側に飛び出している指標は、本市が類似市町村より優れていることを示している。

※指標の算出方法

	標準的な指標	算出式	単位
廃棄物の発生	人口1人1日当たりごみ総排出量	= $\text{ごみ総排出量} \div \text{計画収集人口} \times 10^3$	kg/人・日
廃棄物の再生利用	廃棄物からの資源回収率(RDF・セメント原料化等除く)	= $\text{資源化量} \div \text{ごみ総排出量}$	t/t
最終処分	廃棄物のうち最終処分される割合	= $\text{最終処分量} \div \text{ごみ総排出量}$	t/t
費用対効果	人口1人当たり年間処理経費	= $\text{処理及び維持管理費} \div \text{計画収集人口}$	円/人・年
	最終処分減量に要する費用	= $(\text{処理及び維持管理費} - \text{最終処分費} - \text{調査研究費}) \div (\text{ごみ総排出量} - \text{最終処分量})$	円/t

図 3-6-1 ごみ処理システム分析結果 (平成 24 年度実績比較)

第7節 課題の抽出

本市のごみの排出、収集・運搬、中間処理、最終処分に至るまでの現状でのシステム、実績等は前述したとおりである。

本計画では、こうした現状を踏まえ、ごみ処理事業における課題を抽出し、問題の解決策を検討し、方針・目標を策定することとする。

1. 排出抑制の課題

本市では、生ごみ処理機器購入の補助や環境美化推進団体の助成、奄美エコマネーの推進を実施し、排出抑制及び資源化の推進を図っている。

1人1日平均排出量は、平成24年度以降は減少しているが、住民への更なる啓発やPRを行っていく必要がある。

2. 収集・運搬の課題

本市では、もやせるごみ、もやせないごみについてはステーション方式、資源物についてはステーション方式及び常時回収所による収集を行っているが、粗大ごみについては住民が直接搬入又は許可業者依頼しており、また、事業所ごみは事業所自らによる直接搬入又は許可業者への依頼となっている。

今後、家庭ごみについては、社会情勢の変化、各地域の人口動態等も含め、平成32年度には収集・運搬体制の見直しを行い、以後、5年を目途に収集・運搬体制の見直しを検討する。また、粗大ごみ、引っ越しごみ、事業所ごみを収集している許可業者については、52業者（平成27年10月末現在）あり、安定した経営状況、収集体制を維持の観点から、許可業者の新規参入については、定期的に検討する必要がある。

3. 中間処理の課題

「第6節 ごみ処理システムの評価」より、本市の「廃棄物からの資源回収率（RDF・セメント原料化等除く）」は類似市町村と比較して、平均を下回っている。

本市の資源化率は、過去5年間において6.5～7.1%の間でほぼ横ばいで推移しており、更なる資源化の推進が必要となっている。

今後は、分別の徹底を推進し、資源化率の向上を図る必要がある。

4. 最終処分の課題

本市では、名瀬クリーンセンター最終処分場施設にて埋立処分をしており、今後も、継続して、ごみ排出量の減量化を推進し、最終処分量の削減を図る必要がある。

第4章 ごみ処理基本計画

第1節 計画策定の基本方針

私たちの生活は、物質的に豊かである一方、大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済が深刻な環境負荷をもたらしている。今後は、ライフスタイルの見直しなどを通じ、天然資源の消費を抑制し、社会での物質循環が円滑に行われるよう、循環型社会の形成が求められている。

国においては、第三次循環型社会形成推進基本計画（平成25年5月）を策定し、循環型社会形成に向けた取組は着実に進展しているが、世界全体で資源制約が強まると予想される一方、多くの貴金属、レアメタルが廃棄物として埋立処分されているなどの現状を踏まえて、基本的方向としては、リサイクルに比べ取組が遅れている発生抑制（リデュース）・再使用（リユース）の取組強化、有用金属の回収、環境保全と安全・安心の取組を強化する必要があるとしている。

本市としては、大島地区衛生組合と連携し、さらなるごみの減量化と資源化の推進に向けて取り組んでいくものとする。

表 4-1-1 ごみ処理基本方針

基本方針	取組内容
発生抑制・再使用の推進	市民・事業者に対してごみの発生抑制・再使用に対する意識の啓発を行い、主体的協力を働きかけるとともに、発生抑制・再使用を推進するための施策を検討し、実施していく。
資源化の推進	発生したごみについては、市民及び事業者に対し、分別を徹底して行うように周知し、資源化率の向上を図る。
適正処理の推進	本市で発生したごみについて、法令等に定められた処理方法が遵守されるよう、市民・事業者等に周知・指導を行うとともに、大島地区衛生組合と連携し、名瀬クリーンセンターの適正な維持管理を継続していく。 また、ごみ処理体制について、状況に応じて見直し、より効率的で効果的なごみ処理システムを構築する。

第2節 排出量及び処理・処分量の予測

1. 計画人口

本計画で用いる将来の計画処理区域内人口を以下に示す。(p. 資-3「資料3. 人口推計結果」参照)

表 4-2-1 将来の計画処理区域内人口

単位:人

項目		人口
実績	H18	48,897
	H19	48,156
	H20	47,482
	H21	46,891
	H22	46,121
	H23	45,603
	H24	45,076
	H25	44,544
	H26	44,125
将来	H27	43,762
	H28	43,388
	H29	43,041
	H30	42,716
	H31	42,412
	H32	42,127
	H33	41,860
	H34	41,608
	H35	41,370
	H36	41,146
	H37	40,934
	H38	40,733
	H39	40,542
	H40	40,361
	H41	40,189
	H42	40,025

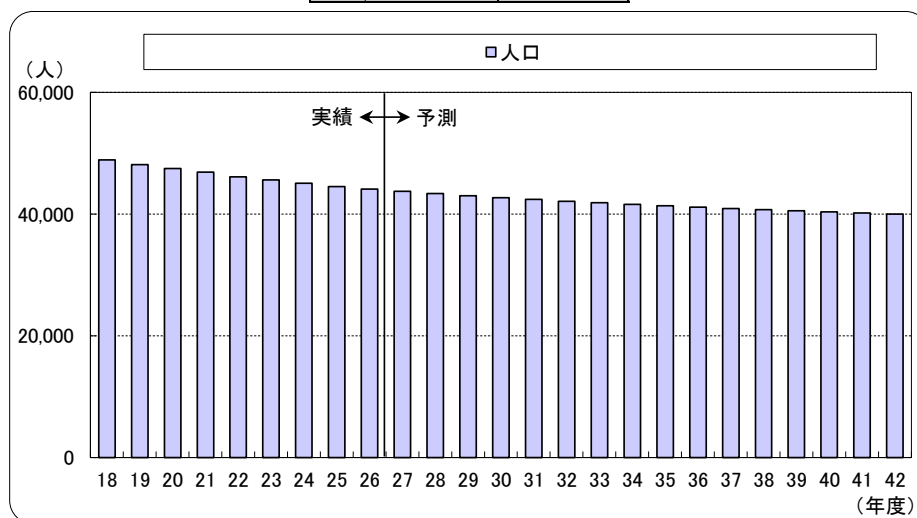


図 4-2-1 将来の計画処理区域内人口

2. ごみ排出量及び処理・処分量

1) ごみ排出量及び処理・処分量の予測結果

ごみ排出量及び処理・処分量の予測結果を以下に示す。(p. 資-7「資料4. 排出量及び処理・処分量の予測結果」参照)

(1) ごみの種類別排出量の予測結果

ごみ総排出量は、減少する見込みであり、平成42年度は16,848t/年となる予測結果となっている。

表 4-2-2 ごみ排出量の予測結果

項目	単位	実績		予測	
		H26	H32	H37	H42
人口	人	44,125	42,127	40,934	40,025
ごみ総排出量	t/年	18,680	17,833	17,305	16,848
収集ごみ量	t/年	16,882	16,226	15,771	15,424
もやせるごみ	t/年	13,846	13,277	12,928	12,660
もやせないごみ	t/年	829	792	769	752
資源物(ペットボトル、びん類)	t/年	121	120	117	114
資源物(古紙類)	t/年	404	363	330	307
粗大ごみ	t/年	417	398	387	378
汚泥(下水道+し尿)	t/年	1,265	1,276	1,240	1,213
直接搬入ごみ量	t/年	1,798	1,607	1,534	1,424
もやせるごみ	t/年	446	438	438	438
もやせないごみ	t/年	33	37	37	37
粗大ごみ	t/年	1,319	1,132	1,059	949

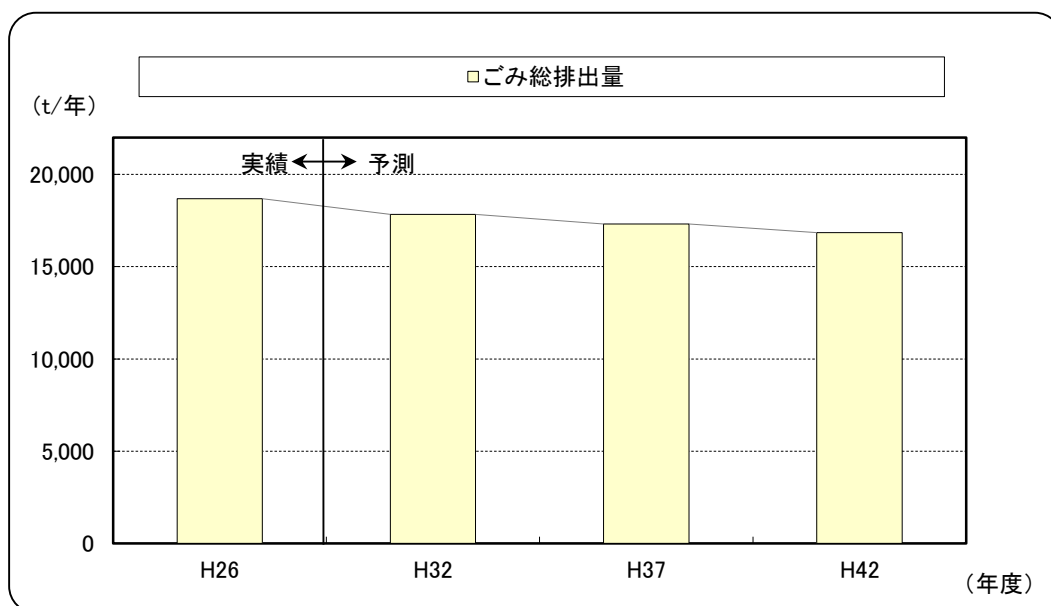


図 4-2-2 ごみ排出量の予測結果

(2) 収集ごみ 1 人 1 日平均排出量及び直接搬入ごみ 1 日平均排出量の予測結果

1 人 1 日平均排出量（合計）は、微減する見込みであり、平成 42 年度は 1,153.3g/人・日となる予測結果となっている。

収集ごみ 1 人 1 日平均排出量は、微増する見込みであり、平成 42 年度は 1,055.8g/人・日となる予測結果となっている。

直接搬入ごみ 1 日平均排出量は、減少する見込みであり、平成 42 年度は 3.9t/日となる予測結果となっている。

表 4-2-3 収集ごみ 1 人 1 日平均排出量及び直接搬入ごみ 1 日平均排出量の予測結果

項目	単位	実績		予測	
		H26	H32	H37	H42
人口	人	44,125	42,127	40,934	40,025
1人1日平均排出量(合計)	g/人・日	1,159.8	1,159.8	1,158.2	1,153.3
収集ごみ1人1日平均排出量	g/人・日	1,048.2	1,055.3	1,055.6	1,055.8
もやせるごみ	g/人・日	859.7	863.5	865.3	866.6
もやせないごみ	g/人・日	51.5	51.5	51.5	51.5
資源物(ペットボトル、びん類)	g/人・日	7.5	7.8	7.8	7.8
資源物(古紙類)	g/人・日	25.1	23.6	22.1	21.0
粗大ごみ	g/人・日	25.9	25.9	25.9	25.9
汚泥(下水道+し尿)	g/人・日	78.5	83.0	83.0	83.0
直接搬入ごみ1日平均排出量	t/日	4.9	4.4	4.2	3.9
もやせるごみ	t/日	1.2	1.2	1.2	1.2
もやせないごみ	t/日	0.1	0.1	0.1	0.1
粗大ごみ	t/日	3.6	3.1	2.9	2.6

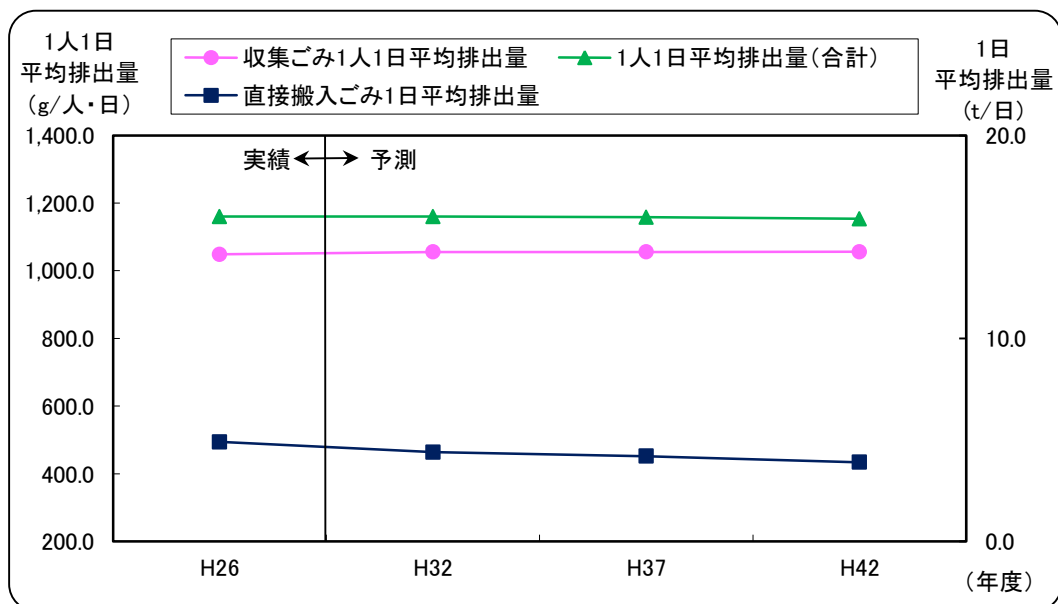


図 4-2-3 収集ごみ 1 人 1 日平均排出量及び直接搬入ごみ 1 日平均排出量の予測結果

(3) ごみの処理・処分量の予測結果

①焼却処理量と減容化量の予測結果

焼却処理量は、減少する見込みであり、平成 42 年度は 15,351t/年となる予測結果となっている。

減容化率は、平成 42 年度で 80.8%となる予測結果となっている。

表 4-2-4 焼却処理量と減容化量の予測結果

単位:t/年

区分		実績		予測		
		H26	H32	H37	H42	
ごみ総排出量		18,680	17,833	17,305	16,848	
焼却処理量	名瀬クリーンセンター処理量	焼却処理	16,834	16,151	15,713	15,351
		もやせるごみ	14,292	13,715	13,366	13,098
		可燃残渣	1,277	1,160	1,107	1,040
		汚泥	1,265	1,276	1,240	1,213
搬出量	名瀬クリーンセンター搬出量	搬出量	1,906	1,829	1,779	1,738
		固化灰	1,239	1,189	1,156	1,130
		焼却鉄	66	63	62	60
		焼却不燃物	601	577	561	548
減容化量		14,928	14,322	13,934	13,613	
減容化率		79.9%	80.3%	80.5%	80.8%	

※減容化量＝焼却処理－焼却残渣

※減容化率＝減容化量÷ごみ総排出量

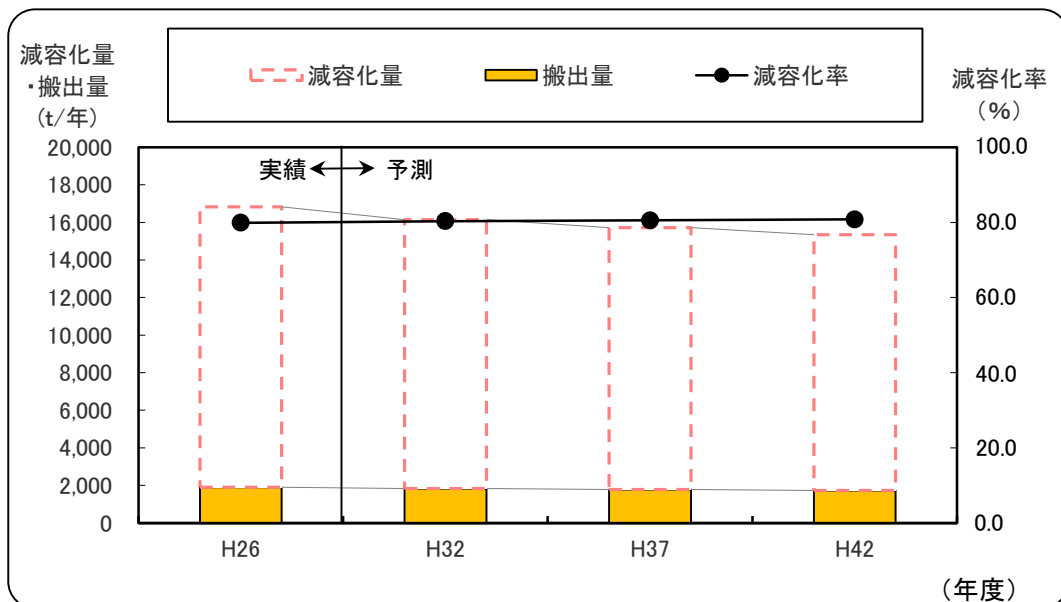


図 4-2-4 焼却処理量と減容化量の予測結果

②資源化量の予測結果

資源化量は、減少する見込みであり、平成 42 年度は 1,028t/年となる予測結果となっている。

資源化率は、平成 42 年度で 6.1%となる予測結果となっている。

表 4-2-5 資源化量と資源化率の予測結果

単位：t/年

区分	実績	予測		
	H26	H32	H37	H42
ごみ総排出量	18,680	17,833	17,305	16,848
資源化量	1,245	1,152	1,088	1,028
奄美市ストックヤード	121	120	117	113
ペットボトル	38	41	40	39
無色びん	31	31	30	29
茶びん	33	31	30	29
その他びん	19	17	17	16
古紙類	538	492	455	430
名瀬クリーンセンター回収分	134	129	125	123
市回収分	404	363	330	307
粗大・もやせないごみからの資源化量(金属類)	586	540	516	485
資源化率	6.7%	6.5%	6.3%	6.1%

※資源化率＝資源化量÷ごみ総排出量

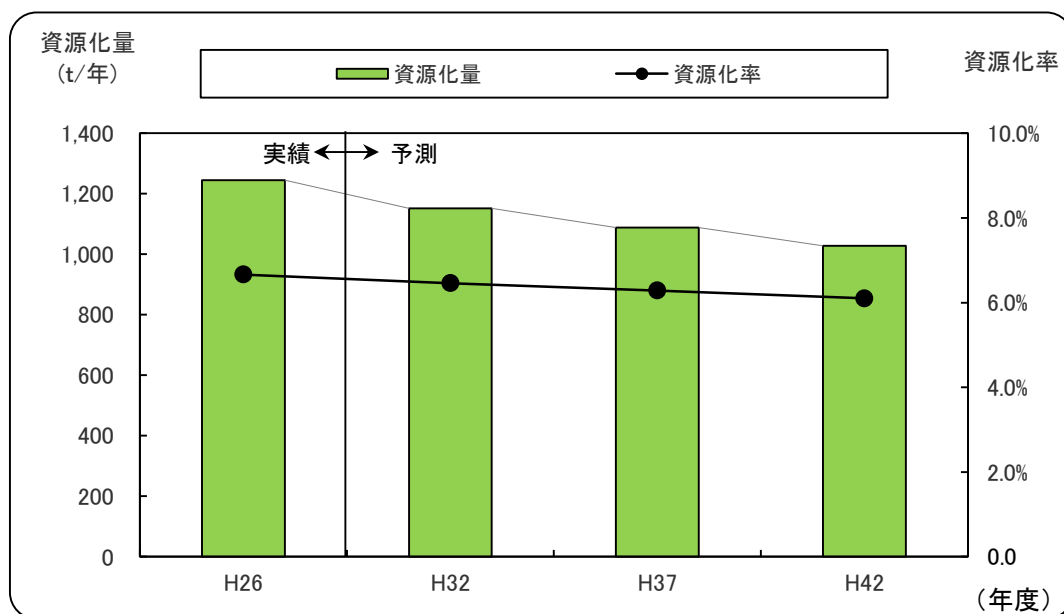


図 4-2-5 資源化量と資源化率の予測結果

③最終処分量の予測結果

最終処分量は、減少する見込みであり、平成 42 年度は 2,226t/年となる予測結果となっている。

最終処分率は、平成 42 年度で 13.2%となる予測結果となっている。

表 4-2-6 最終処分量と最終処分率の予測結果

単位:t/年

区分	実績	予測		
	H26	H32	H37	H42
ごみ総排出量	18,680	17,833	17,305	16,848
最終処分量	2,506	2,373	2,298	2,226
固化灰	1,239	1,189	1,156	1,130
焼却鉄	66	63	62	60
焼却不燃物	601	576	560	547
不燃残渣	600	545	520	489
最終処分率	13.4%	13.3%	13.3%	13.2%

※最終処分率=最終処分量÷ごみ総排出量

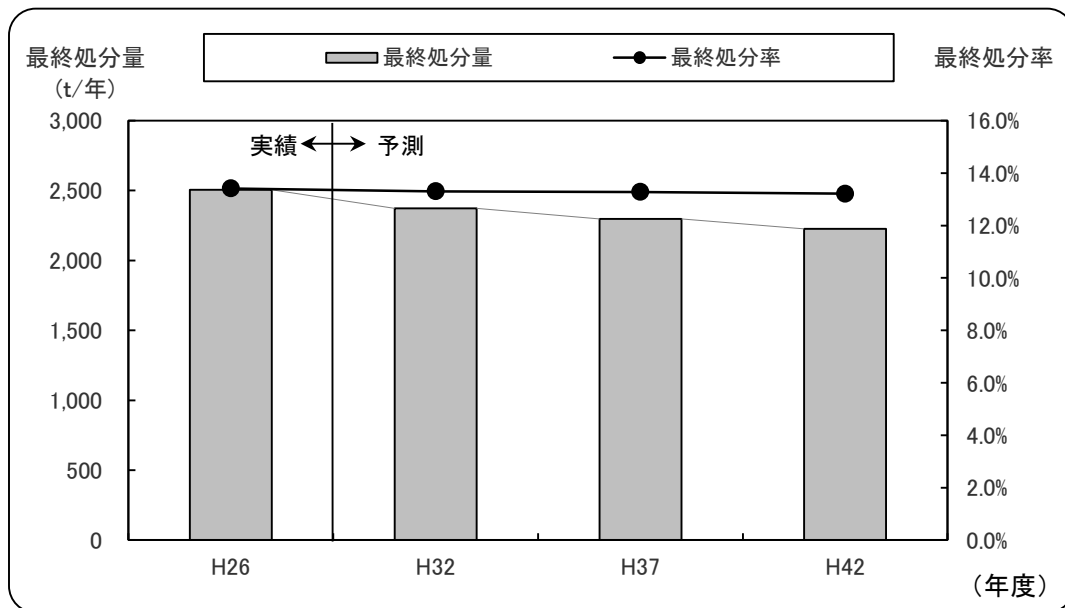


図 4-2-6 最終処分量と最終処分率の予測結果

3. ごみ排出量及び処理・処分量の目標

1) 目標設定の概要

前項において、関連計画等で定められている目標についてまとめた。本計画では、上位計画に準じ、ごみ総排出量、1人1日平均排出量（1人1日当たり排出量）、資源化率（リサイクル率）、最終処分量について数値目標を設定する。（p. 資-20「資料5. ごみ排出量及び処理・処分量の目標」参照）

2) 本計画における目標

(1) ごみ総排出量

ごみ総排出量を平成42年度において平成26年度と比較して、**12%削減**することを目標とする。

(2) 1人1日平均排出量（1人1日当たり排出量）

1人1日平均排出量を平成42年度において平成26年度と比較して、**3%削減**することを目標とする。

(3) 資源化率（リサイクル率）

資源化率を平成42年度において**9.5%**とすることを目標とする。

(4) 最終処分量

最終処分量を平成42年度において平成26年度と比較して、**19%削減**することを目標とする。

〈ごみの減量化・資源化〉

・ごみの減量化

もやせるごみ…1人1日当たり 35g/人・日減量する。

もやせないごみ…1人1日当たり 20g/人・日減量する。

粗大ごみ…1人1日当たり 10g/人・日減量する。



レジ袋1枚 約5~10g

割りばし1膳 約4g



ものを大事に使う



ペットボトル1本 約30~60g



雑誌・マンガ 約500~1,500g

・資源化の推進

資源物（ペットボトル、びん類）…1人1日当たり 15g/人・日分別を徹底する。

資源物（古紙類）…1人1日当たり 25g/人・日分別を徹底する。

3) ごみ排出量及び処理・処分量の目標

(1) ごみの種類別排出量の目標

ごみ総排出量について、平成42年度において16,438t/年に減量することを目指す。

表 4-2-7 ごみ排出量の目標

項目	単位	実績		目標	
		H26	H32	H37	H42
人口	人	44,125	42,127	40,934	40,025
ごみ総排出量	t/年	18,680	17,650	17,006	16,438
収集ごみ量	t/年	16,882	16,043	15,472	15,014
もやせるごみ	t/年	13,846	13,018	12,485	12,048
もやせないごみ	t/年	829	677	565	460
資源物(ペットボトル、びん類)	t/年	121	201	266	329
資源物(古紙類)	t/年	404	530	632	732
粗大ごみ	t/年	417	341	284	232
汚泥(下水道+し尿)	t/年	1,265	1,276	1,240	1,213
直接搬入ごみ量	t/年	1,798	1,607	1,534	1,424
もやせるごみ	t/年	446	438	438	438
もやせないごみ	t/年	33	37	37	37
粗大ごみ	t/年	1,319	1,132	1,059	949

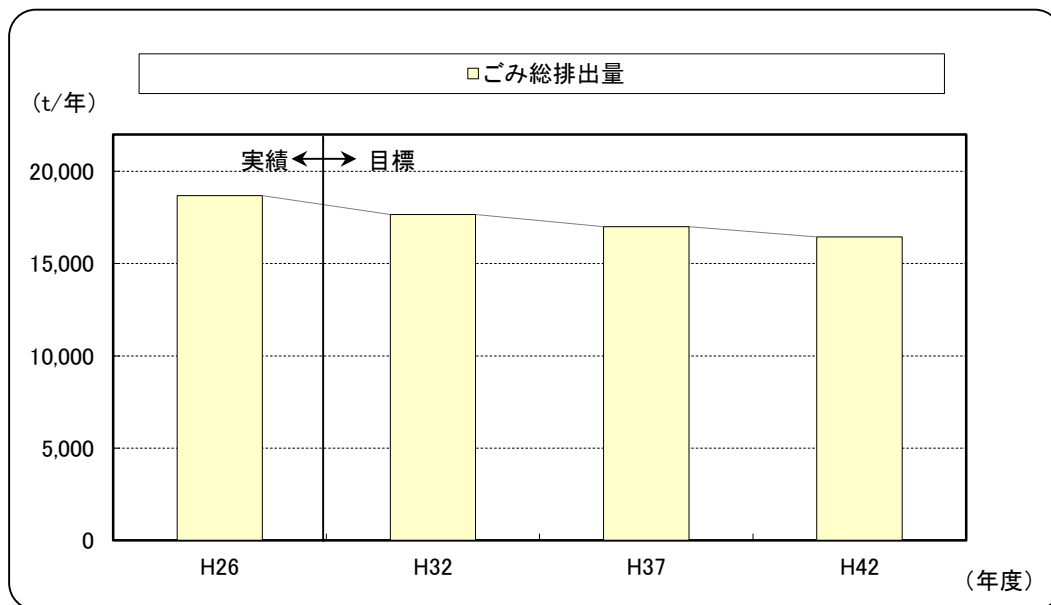


図 4-2-7 ごみ排出量の目標

(2) 収集ごみ 1 人 1 日平均排出量及び直接搬入ごみ 1 日平均排出量の目標

1 人 1 日平均排出量（合計）について、平成 42 年度において 1,125.2g/人・日に減量することを目指す。

収集ごみ 1 人 1 日平均排出量について、平成 42 年度において 1,027.7g/人・日に減量することを目指す。

直接搬入ごみ 1 日平均排出量については、予測において減少が見込まれていることから、現在の取り組みを継続し、平成 42 年度において 3.9t/日とする。

表 4-2-8 収集ごみ 1 人 1 日平均排出量及び直接搬入ごみ 1 日平均排出量の目標

項目	単位	実績		目標	
		H26	H32	H37	H42
人口	人	44,125	42,127	40,934	40,025
1人1日平均排出量(合計)	g/人・日	1,159.8	1,147.9	1,138.2	1,125.2
収集ごみ1人1日平均排出量	g/人・日	1,048.2	1,043.4	1,035.5	1,027.7
もやせるごみ	g/人・日	859.7	846.6	835.6	824.7
もやせないごみ	g/人・日	51.5	44.0	37.8	31.5
資源物(ペットボトル、びん類)	g/人・日	7.5	13.1	17.8	22.5
資源物(古紙類)	g/人・日	25.1	34.5	42.3	50.1
粗大ごみ	g/人・日	25.9	22.2	19.0	15.9
汚泥(下水道+し尿)	g/人・日	78.5	83.0	83.0	83.0
直接搬入ごみ1日平均排出量	t/日	4.9	4.4	4.2	3.9
もやせるごみ	t/日	1.2	1.2	1.2	1.2
もやせないごみ	t/日	0.1	0.1	0.1	0.1
粗大ごみ	t/日	3.6	3.1	2.9	2.6

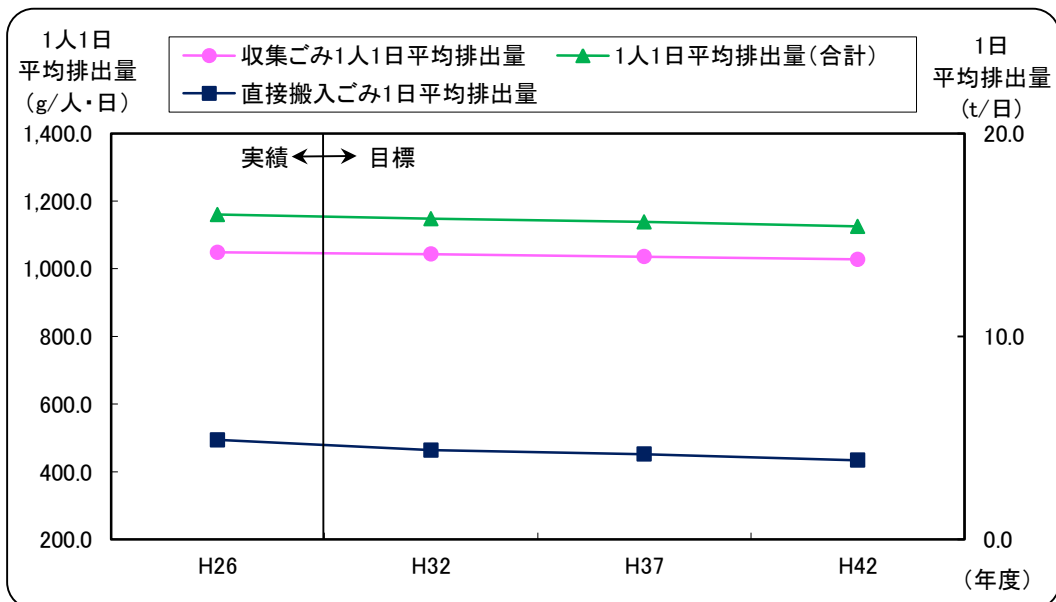


図 4-2-8 収集ごみ 1 人 1 日平均排出量及び直接搬入ごみ 1 日平均排出量の目標

(3) ごみの処理・処分量の目標

①焼却処理量と減容化量の目標

焼却処理量について、平成 42 年度において 14,524t/年に減量することを目指す。
目標達成時の減容化率は、平成 42 年度で 78.3%となると見込まれる。

表 4-2-9 焼却処理量と減容化量の目標

単位:t/年

区分		実績		目標		
		H26	H32	H37	H42	
ごみ総排出量		18,680	17,650	17,006	16,438	
焼却処理量	名瀬クリーンセンター処理量	焼却処理	16,834	15,807	15,119	14,524
		もやせるごみ	14,292	13,456	12,923	12,486
		可燃残渣	1,277	1,075	956	825
		汚泥	1,265	1,276	1,240	1,213
搬出量	名瀬クリーンセンター搬出量	搬出量	1,906	1,789	1,712	1,645
		固化灰	1,239	1,163	1,113	1,069
		焼却鉄	66	62	59	57
		焼却不燃物	601	564	540	519
減容化量		14,928	14,018	13,407	12,879	
減容化率		79.9%	79.4%	78.8%	78.3%	

※減容化量＝焼却処理－焼却残渣

※減容化率＝減容化量÷ごみ総排出量

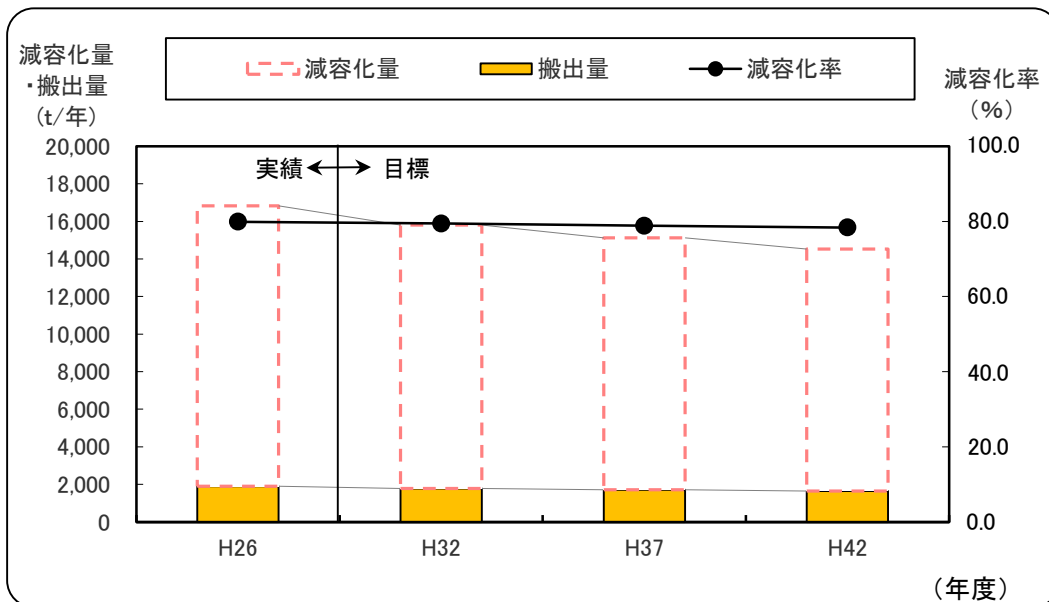


図 4-2-9 焼却処理量と減容化量の目標

②資源化量の目標

資源化量について、平成 42 年度において、1,562t/年に向上することを目指す。
目標達成時の資源化率は、平成 42 年度で 9.5%となると見込まれる。

表 4-2-10 資源化量と資源化率の目標

単位：t/年

区分	実績	目標		
	H26	H32	H37	H42
ごみ総排出量	18,680	17,650	17,006	16,438
資源化量	1,245	1,358	1,464	1,562
奄美市ストックヤード	121	201	266	329
ペットボトル	38	118	183	246
無色びん	31	31	31	31
茶びん	33	33	33	33
その他びん	19	19	19	19
古紙類	538	656	753	849
名瀬クリーンセンター回収分	134	126	121	117
市回収分	404	530	632	732
粗大・もやせないごみからの資源化量(金属類)	586	501	445	384
資源化率	6.7%	7.7%	8.6%	9.5%

※資源化率＝資源化量÷ごみ総排出量

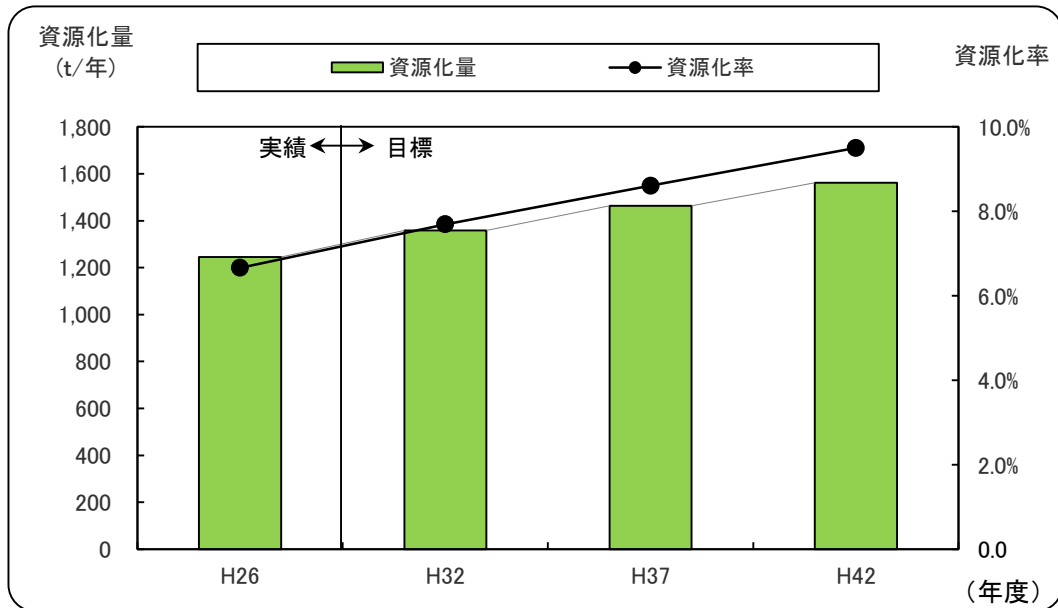


図 4-2-10 資源化量と資源化率の目標

③最終処分量の目標

最終処分量について、平成 42 年度において 2,032t/年に減量することを目指す。
目標達成時の最終処分率は、平成 42 年度で 12.4%となると見込まれる。

表 4-2-11 最終処分量と最終処分率の目標

単位:t/年

区分	実績		目標	
	H26	H32	H37	H42
ごみ総排出量	18,680	17,650	17,006	16,438
最終処分量	2,506	2,294	2,160	2,032
固化灰	1,239	1,163	1,113	1,069
焼却鉄	66	62	59	57
焼却不燃物	601	564	539	518
不燃残渣	600	505	449	388
最終処分率	13.4%	13.0%	12.7%	12.4%

※最終処分率＝最終処分量÷ごみ総排出量

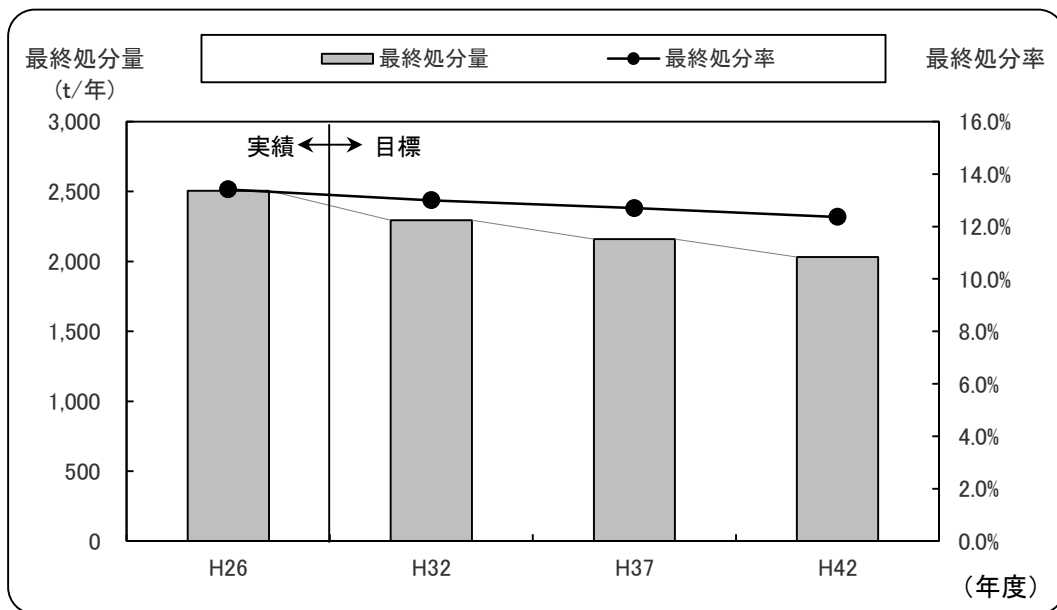


図 4-2-11 最終処分量と最終処分率の目標

第3節 ごみの発生・排出抑制のための役割

市民・事業者・行政の三者が連携し、ごみの排出抑制を連携していくために、ごみを少なくする習慣やシステムの形成に努める。

1. 市民における役割

表 4-3-1 市民における役割

項目	内容
3R活動・環境に配慮した消費行動（環境にやさしい買い物）の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・3Rに取り組み、ごみの減量・資源化を図る。 ・マイバッグを買い物の際持参し、使い捨ての商品購入をなるべく控えるとともに、環境配慮型商品の購入、簡易包装への協力、はかり売りの利用を積極的に行い、環境にやさしい買い物を実践する。
ごみを出さない生活スタイルへの転換	<ul style="list-style-type: none"> ・物を大切にし、より長期間使用できる商品を購入する等、ごみをなるべく出さないように実践をする。 ・生ごみは水切りを徹底し、生ごみ処理機・電気式生ごみ処理機の利用により減量・資源化を行う。 ・必要なだけの食品を購入するなど、賞味期限切れなどで廃棄しなければならない食品を減らし、ごみを出さないように実践する。 ・フリーマーケットを行い、要らなくなったものは必要とする人に譲るなど、ものを長く大切に使う習慣をつける。 ・宴会等での「3010運動」の実践。残食を減らし、食品ロスが無いように心がける。 <p>※「3010運動」とは、宴会等から出る食べ残し削減を目的とした乾杯後の30分と終了前10分は離席せずに食事を楽しみましょうという「もったいない運動」です。</p>
ごみの分別・資源回収等への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別を徹底し、資源化を推進する。また、リターナブル容器の利用・返却やスーパーなどの店頭回収へ協力し、資源回収を促進する。 ・ごみ出しの時間を守り、その地区で地域住民によって決められたごみステーション管理の方法を遵守する等、マナーを大切にし、適正なごみの排出を実践する。 ・家電リサイクル法等対象品については、購入した小売店等に引き渡すなど、決められた排出方法を遵守する。
不法投棄防止等への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみのポイ捨て、廃家電等の不法投棄は絶対にしない。 ・所有地を適正に管理し、不法投棄が行われないようにする。 ・許可業者以外の者に、ごみの収集を依頼しない。

2. 事業者における役割

表 4-3-2 事業者における役割

項目	内容
拡大生産者責任の徹底	<p>製造事業者は、拡大生産者責任に基づき、製品等の製造や流通、消費の段階において、ごみの発生が少なく、リサイクルしやすい製品の設計・開発に努める。</p> <p>また、流通・販売事業者は、簡易包装の呼びかけや消費者によるマイバッグ持参運動に積極的に協力し、消費者の3R活動を推進する。</p> <p>※拡大生産者責任とは、廃棄物処理問題が山積する中、生産者に製造物のリサイクルや廃棄処理に関しても責任を負わせることである。</p>
環境にやさしい製品やサービスの提供	<p>流通・販売事業者は、ごみの減量やリサイクルに効果的な製品、再生品を積極的に取り扱う。</p> <p>また、はかり売りの実施や店舗における容器包装などの資源回収を行い、環境にやさしいサービスの提供を行う。</p> <p>飲食店等では、3010運動への協力を行い、お客様のニーズに対応した、「食べきれる量のメニューの設定」等、食品ロスが削減できるようなサービスの提供を行う。</p>
事業活動における3Rの実践	<p>オフィスペーパーの削減・リサイクルや事業所から発生するごみの分別徹底など、事業活動における3Rに取り組む。</p> <p>また、食品リサイクル法に基づく生ごみの資源化に努め、ごみの減量を図る。</p>
新しいリサイクルシステムの構築	<p>ごみの減量・資源化に取り組むとともに、トレイ・ダンボール・牛乳パック等新たなリサイクルルート検討を行い、より効率的なリサイクルシステムの構築を行う。</p>
廃棄物処理法や各種リサイクル法の理解	<p>廃棄物処理法や個別リサイクル法（容器包装、家電、食品など）を順守し、適正処理を行う。</p>

3. 行政における役割

表 4-3-3 行政における役割

項目	内容
3 R活動や廃棄物・リサイクル関係制度の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報、ホームページにより、使い捨て型ライフスタイルの見直しや、3 R活動の推進について、啓発を行う。 ・ 町内会、自治会等、市民に対し幅広く環境教育・環境学習の充実を図り、出前講座等を活用し、3 Rの普及啓発を行う。 ・ 広報、ホームページにより、マイバッグ運動、簡易包装やマイボトル等の使用、リターナブルびんの使用など、ごみを増やさないための取り組みを周知し、推進する。 ・ 特に2 R（発生抑制・再使用）を普及するために、フリーマーケット等活用などの施策を検討し、推進していく。 ・ 生ごみ処理機器購入補助金について更なる周知を行い、利用を促進することにより、生ごみの減量及び堆肥としての資源化を図る。 ・ 「3010運動」の推進についての、普及啓発を図る。 <p>※3 Rとは、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）をいう。</p> <p>※リターナブルびんとは、繰り返し使用（リユース）できるびんの総称である。</p>
分別収集の徹底、ごみ収集・処理やリサイクルの効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの収集・処理体制の適宜見直しや新たなリサイクルルートの検討・構築により、ごみ処理システムの更なる効率化を図る。 ・ 外海離島であるが故に生じる廃棄物・リサイクルの海上輸送費について国県等に財政的支援を要望する。 ・ 分別収集・リサイクル率向上のため、排出しやすい環境整備のため、常設回収所の増加を目指す。 ・ アンケート等を実施し、現在分別することとしている種類のごみについて、分別の取り組みについて意識の低いと考えられるごみの種類をピックアップし、重点的に分別徹底の周知を図る。 ・ 事業者に対し、適正処理とあわせて、リサイクルの重要性を周知し、事業系ごみの排出抑制、再生利用を推進する。
グリーン購入の推進、地域循環圏の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に基づき、庁用品に再生品を積極的に使用する。また、民間の事業所や団体においてもグリーン購入が普及するよう啓発に努める。

第4節 分別して収集するものとしたごみの種類及び分別の区分

現行の収集体制を当面継続するものとし、分別の徹底を市民に周知するとともに、さらなる資源化の向上及び収集システムの継続的改善に向け、適宜見直しを行っていく。

平成 28 年度からの新しい分別としては、下記のとおりとする。

1. 「スプレー缶」について

1) 名瀬地区

もやせないごみから分別し、地域別の「資源物（ペットボトル・びん）の回収日」に併せて行うこととする。黄色の箱を設置する。

変更理由は、パッカー車内での火災を起こさないように配慮した。

2) 笠利・住用地区

もやせないごみから分別する。もやせないごみの日に回収するが、排出方法については、各集落のルールを適用する。

2. 「古紙類（段ボール・新聞紙・その他紙類）」について（奄美市管内全域）

第 2 水曜日に「段ボール・新聞紙」を回収する。

第 4 水曜日に「その他紙類（チラシ含む）」を回収する。

変更理由は、質の高いリサイクルを行うため。

表 4-4-1 将来の分別区分

分別区分		収集対象物	排出方法	収集回収
もやせるごみ		台所のごみ、プラスチック製品、皮革製品、 ゴム・ビニール製品	指定ごみ袋	週 2 回 (月・木、火・金)
もやせないごみ		電球・蛍光灯・乾電池、ガラス・せともの、 空き缶・カサ、小型家電製品、 刃物・金属製品・ヘルメット等	指定ごみ袋	第 1、第 3、第 5 水曜日
		スプレー缶、ガスボンベ(名瀬地区のみ)	収集ケース	毎月指定 の土曜日
資源物	古紙類	段ボール	段ボール	第 2 水曜日
		新聞紙	新聞紙	
		その他紙類	チラシ、雑誌、本、紙箱	透明袋等
	ペットボトル	リサイクル表示のペットボトル	収集ケース	毎月指定
	びん類	無色透明・茶色、その他有色びん	収集ケース	の土曜日

第5節 ごみの適正処理に関する基本的事項

生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、次の収集運搬計画・中間処理計画及び最終処分計画に基づき、より適正な収集・運搬・処分を行う。

1. 収集・運搬計画

- 1) ごみの収集・運搬は、原則ごみステーション方式を基本とする。
粗大ごみについては引き続き、直接搬入又は許可業者に依頼し、収集・運搬を行う。
なお、地域の状況の変化を考慮した、より適切で効率的な収集体制の検討を行い、住民サービスの向上を図っていく。
- 2) 家庭及び事業所等から排出されるごみの収集・運搬業務は、今後も継続して業者委託により実施しながら、さらに効率的で効果的な収集・運搬に努める。許可業者の申請時において講習会を義務付け、適正処理を図ると共に、更新時においても、クリーンセンターへの搬入実績から、業者の経験を考慮し、更新許可の際に、講習会への参加を義務付けるものとする。広域処理によって資源化が図られる場合や、資源化のための処分業と併せて収集運搬業を行う場合は、内容に応じて収集体制の見直しを検討するものとする。また、小型家電リサイクルにおける収集について検討する。
- 3) 適正処理困難物の収集・運搬体制の確立
適正処理困難物については、当面は、現状の処理体制を踏襲・維持していくものとするが、廃棄物処理法の政省令等実行状況、事業者の対応状況あるいは今後の排出動向等を勘案した中で、随時見直しを図るものとする。

2. 中間処理計画

- 1) 焼却処理については、大島地区衛生組合が管理する名瀬クリーンセンターのごみ焼却施設で引き続き適正処理を行う。
施設整備における今後の方向性については、協議・検討を行っていく。
- 2) もやせないごみ、粗大ごみの処理については名瀬クリーンセンターの粗大ごみ処理施設で破碎処理しており、引き続き適正処理を行う。
資源物のうち、ペットボトル、びん類は本市のストックヤードにて資源化処理している。段ボール、新聞紙チラシ、その他古紙類については再生業者へ直接搬入し、資源化処理しており、引き続き適正処理及び資源化を行う。

3. 最終処分計画

焼却処理に伴い発生する固化灰、不燃分及び破碎処理に伴い発生する不燃残渣については、名瀬クリーンセンターの最終処分場施設に埋立処分しており、引き続き適正管理を継続するとともに、ごみ減量化による最終処分量の削減を推進し、延命化に努める。

第6節 その他の施策

1. 廃棄物減量等推進協議会

一般廃棄物の減量及び処理に関する事項を協議するため、奄美市廃棄物減量等推進協議会を設置している。この協議会を活用し、様々な立場からご意見を頂き、ごみの減量・資源化、適正処理の推進に関する協議を行っていく。

2. 事業者の協力

事業者には、環境への負荷が少ない事業活動を行っていくことが求められ、そのためには行政による仕組みづくりや呼びかけが必要となる。今後、行政と事業者の協力体制を確立するため、本計画を活用し、それぞれの役割を周知していく。

3. 災害時の廃棄物処理に関する対応

大規模な地震や水害等の災害時には、一般廃棄物の処理が困難になるとともに、大量のがれき等が発生することが予測される。そのため、大島地区衛生組合と協議するとともに、近隣市町村と広域的な支援や対応等で助け合える相互協力の体制を普段から築いておくことが重要である。

また、災害廃棄物については、「奄美市地域防災計画」に基づいて、鹿児島県、近隣市町村、廃棄物処理業団体、建設業関係団体等の支援・協力を得ながら、迅速かつ円滑に除去するとともに可能な限り適正な処理処分を行っていく。

4. 不法投棄対策

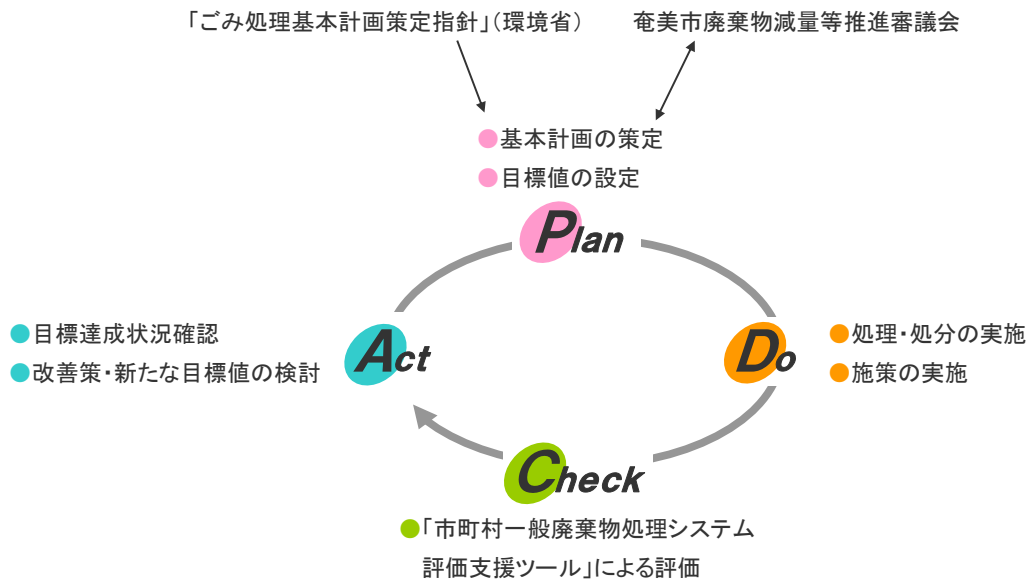
現在も監視パトロール員により、夜間も含め年間を通して、市街地や山間部のパトロールを行っている。

また、住民・事業者に対して適正処理への協力を呼びかけ、地域一体となって対策に取り組むとともに、土地所有者等への注意喚起を促す等、不法投棄の防止に努めていく。

5. 評価システムの構築

本計画については、今後もP D C Aサイクルを活用し、本計画の事業実施や達成状況の評価や改善点の洗い出し等を毎年継続することが重要である。

本計画の施策については、奄美市廃棄物減量等推進審議会で達成度について評価し、その結果、本計画に合っていない部分や重要な課題等があれば、意見を聞きながらその課題の施策の策定や計画の見直し等を行い、積極的にごみ減量目標値の達成に努めるものとする。また、その状況については、広報、ホームページへの掲載等、情報公開に努めるものとする。



第5章 生活排水処理現況調査

第1節 生活排水処理体制

本市における生活排水の処理は、し尿と生活雑排水を併せて処理する「公共下水道」、「農業集落排水施設」及び「合併処理浄化槽」を使用している世帯や、し尿のみを処理する「単独処理浄化槽」を使用している世帯及びし尿の「汲み取り」を行っている世帯がある。

また、「農業集落排水施設」、「合併処理浄化槽」、「単独処理浄化槽」で発生した浄化槽汚泥及びし尿は、大島地区衛生組合が管理する「有良汚泥再生処理センター」にて処理している。

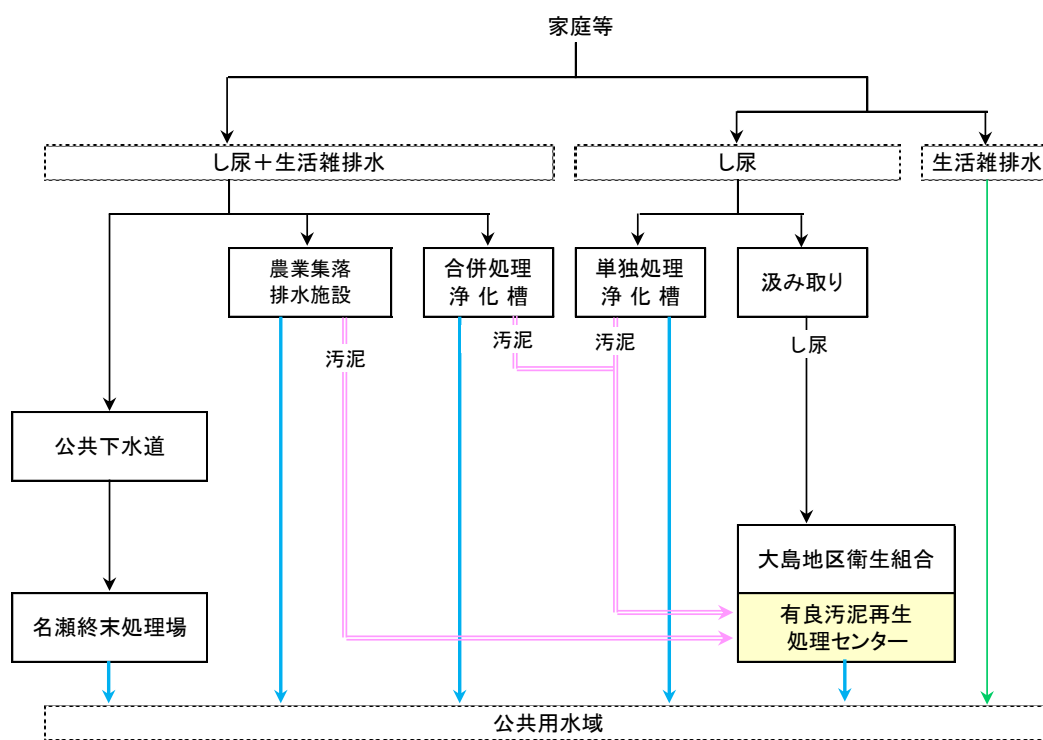


図 5-1-1 生活排水処理体制

表 5-1-1 生活排水の処理主体

処理施設の種類	処理対象物	処理主体
公共下水道	し尿・生活雑排水	市
農業集落排水施設	し尿・生活雑排水	市
合併処理浄化槽	し尿・生活雑排水	世帯
単独処理浄化槽	し尿	世帯
有良汚泥再生処理センター	し尿・浄化槽汚泥	組合
名瀬終末処理場	し尿・生活雑排水	市

第2節 生活排水処理人口の実績

本市における水洗化・生活雑排水処理率の実績は、過去5年間で3.6%増加している。平成26年度は、水洗化・生活雑排水処理人口は39,242人、水洗化・生活雑排水処理率は88.0%となっている。

表 5-2-1 生活排水処理形態別人口の実績

処理別人口	H22	H23	H24	H25	H26
1. 計画処理区域内人口	46,524	45,970	45,444	44,893	44,609
2. 水洗化・生活雑排水処理人口	39,284	39,310	39,346	39,308	39,242
水洗化・生活雑排水処理率	84.4%	85.5%	86.6%	87.6%	88.0%
(1)公共下水道	34,352	34,139	34,160	34,059	33,996
(2)合併処理浄化槽	2,634	2,708	2,747	2,764	2,724
(3)農業集落排水施設	2,298	2,463	2,439	2,485	2,522
3. 水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽人口)	3,635	3,549	3,405	3,235	3,151
4. 非水洗化人口	3,605	3,111	2,693	2,350	2,216
(1)L尿収集人口	3,605	3,111	2,693	2,350	2,216
5. 計画処理区域外人口	0	0	0	0	0

※水洗化・生活雑排水処理率: 水洗化・生活雑排水処理人口 ÷ 計画処理区域内人口

※各年3月31日現在

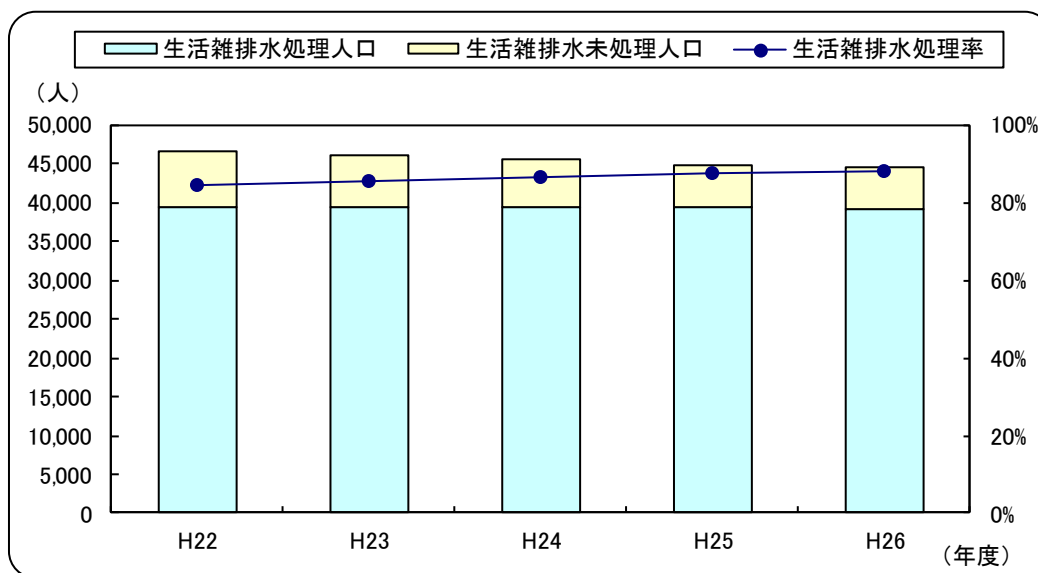


図 5-2-1 生活排水処理形態別人口実績

第3節 し尿・浄化槽汚泥の処理状況

1. し尿・浄化槽汚泥収集量の実績

し尿及び浄化槽汚泥収集量の実績は、平成24年度までは増加傾向を示していたが、平成25年度以降は減少している。平成26年度は、収集量7,296kL/年のうち、浄化槽汚泥量が5,808kL/年と約80%を占めている。原単位は、し尿が1.84L/人・日、浄化槽汚泥が1.90L/人・日となっている。

表 5-3-1 し尿及び浄化槽汚泥収集量の実績

項目		H22	H23	H24	H25	H26
収集人口 (人)	し尿	3,605	3,111	2,693	2,350	2,216
	浄化槽	8,567	8,720	8,591	8,484	8,397
収集量 (kL/年)	し尿	2,455	2,099	1,979	1,722	1,488
	浄化槽汚泥	5,125	5,818	6,049	5,896	5,808
	計	7,580	7,917	8,028	7,618	7,296
原単位 (L/人・日)	し尿	1.87	1.85	2.01	2.01	1.84
	浄化槽汚泥	1.64	1.83	1.93	1.90	1.90

※浄化槽人口は、合併浄化槽人口、農業集落排水施設人口、単独浄化槽人口の合算値

※浄化槽汚泥は、合併浄化槽汚泥、農業集落排水施設汚泥、単独浄化槽汚泥の合算値

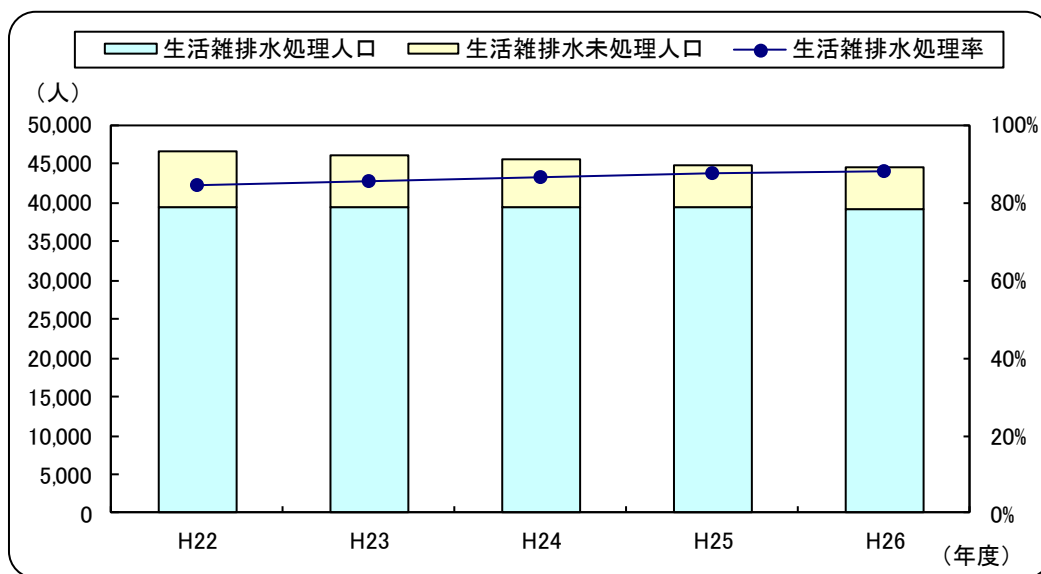


図 5-3-1 し尿及び浄化槽汚泥収集量の実績

2. し尿処理コスト

し尿処理経費は、平成 24 年度以降はほぼ横ばいで推移している。

平成 26 年度の合計は 1 億 2,841 万円となっており、これを市民 1 人あたりに換算すると 2,879 円、し尿 1kL 当たりに換算すると 17,601 円となる。

表 5-3-2 し尿処理コストの推移

項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26
処理及び維持管理費	千円	97,093	131,226	120,694	127,249	128,419
人件費	千円	0	0	0	0	0
処理費	千円	0	0	0	0	0
車両等購入費	千円	0	0	0	0	0
委託費						
収集・運搬費	千円	0	0	0	0	0
中間処理費	千円	383	373	312	367	370
最終処分費	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
組合分担金	千円	96,710	130,853	120,382	126,882	128,049
調査研究費	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
合計	千円	97,093	131,226	120,694	127,249	128,419
人口	人	46,524	45,970	45,444	44,893	44,609
1人当たり経費	円/人	2,087	2,855	2,656	2,834	2,879
収集量	kL/年	7,580	7,917	8,028	7,618	7,296
し尿1kL当たり経費	円/KL	12,809	16,575	15,034	16,704	17,601

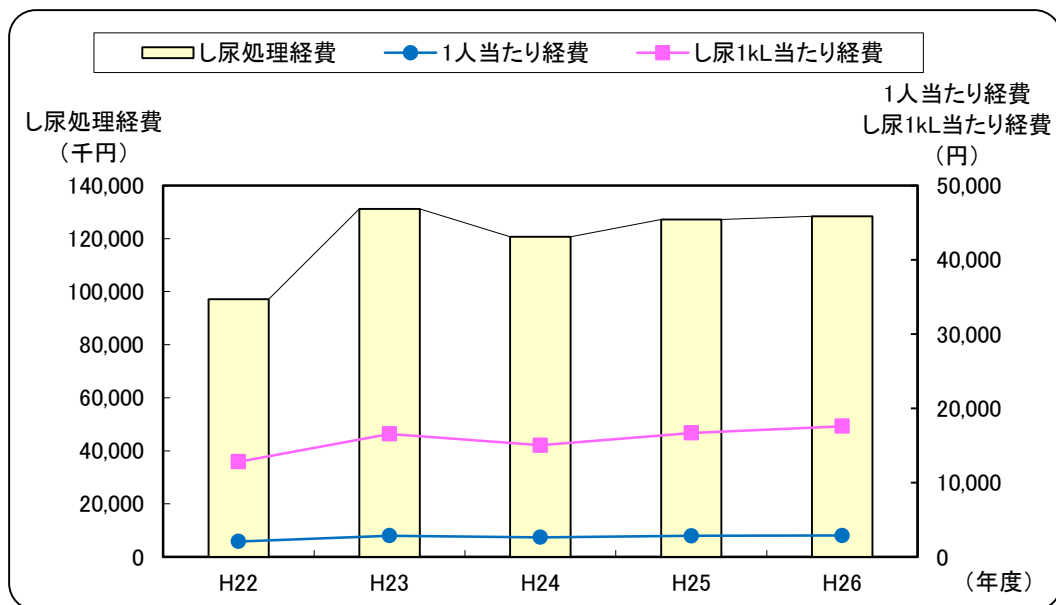


図 5-3-2 し尿処理コストの推移

3. 収集・処理体制

本市におけるし尿・浄化槽汚泥の収集・運搬は、平成28年3月末現在において表5-3-3に示す許可業者により行っている。し尿・浄化槽汚泥の収集・運搬・清掃業務に関しては、業務の安定を保持するために、業者ごとに収集範囲の地区を定めており、新規参入は認めていない。

し尿・浄化槽汚泥の処理については、大島地区衛生組合「有良汚泥再生処理センター」にて行っている。

また、公共下水道については、「名瀬終末処理場」で終末処理を行っている。

表 5-3-3 収集・運搬体制

平成28年3月末現在				
収集の対象	主体	収集地区	会社名	住所
浄化槽汚泥 農集排汚泥	許可	名瀬地区	(有)文化清掃社	奄美市名瀬鳩浜町347番地
		名瀬地区	(有)日之出環境開発	奄美市名瀬浦上1207番地8
し尿	許可	名瀬地区	(株)あたり衛生	奄美市名瀬平田町19番7号
		笠利地区	松山衛生社	奄美市笠利町須野395番地1
し尿 浄化槽汚泥 農集排汚泥	許可	笠利地区	(有)笠利清掃社	奄美市笠利町外金久75番地2
		住用地区	(有)武田クリンセンター	大島郡瀬戸内町古仁屋字春日7番地6

表 5-3-4 大島地区衛生組合「有良汚泥再生処理センター」の概要

施設名称	有良汚泥再生処理センター
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字有良字松川800
工期	平成18年9月～平成20年3月
処理能力	40kL/日
処理方式	浄化槽汚泥の混入比率の高い脱窒素処理方式 +高度処理
資源化処理方式	堆肥化処理
敷地面積	34,232㎡

表 5-3-5 「名瀬終末処理場」の概要

施設名称	名瀬終末処理場	
所在地	鹿児島県奄美市名瀬長浜町522・523番地	
処理能力	日最大	18,750m ³ /日
	全体	18,750m ³ /日
処理方式	標準活性汚泥法	
排除方式	分流式	

第4節 課題の抽出

平成 26 年度の生活排水処理率は 88.0%となっている。

今後は「単独処理浄化槽」又は「汲取り式便所」を設置している家庭に対して、「合併処理浄化槽」への転換を進める必要がある。

第6章 生活排水処理基本計画

第1節 処理方針と処理主体

1. 生活排水処理の基本方針

一般廃棄物である生活排水を適正に処理することは住民の快適な生活環境を保持する上で欠くことのできないものであり、その適正処理は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に地方公共団体の責務とされている。

本市における生活排水は、「公共下水道」、「農業集落排水施設」、「合併処理浄化槽」で処理している。

しかし、約1割の家庭等からは処理が不十分のままの汚水が水路及び河川に排出されており、河川の水質汚濁に悪影響を及ぼしている。

したがって、本市にとって水路や河川の水質を保全することは重要な課題であり、生活排水処理の施設整備を図ることや生活排水にかかわる啓発等を積極的に推進することが必要である。このようなことを踏まえ、本計画による基本方針を以下のとおり定める。

表 6-1-1 生活排水処理基本方針

基本方針	取組内容
公共下水道等の整備促進	公共下水道及び農業集落排水区域内の整備を進めるとともに、未接続世帯への早期接続を促していく。
合併処理浄化槽設置の推進	単独処理浄化槽及び汲み取り式便所を設置している家庭について、合併処理浄化槽への転換を推進する。

2. 生活排水処理の処理主体

生活排水処理の将来の処理主体を次のとおりとする。

表 6-1-2 将来の処理主体

処理施設の種類	処理対象物	処理主体
公共下水道	し尿・生活雑排水	市
農業集落排水施設	し尿・生活雑排水	市
合併処理浄化槽	し尿・生活雑排水	世帯
単独処理浄化槽	し尿	世帯
有良汚泥再生処理センター	し尿・浄化槽汚泥	組合
名瀬終末処理場	し尿・生活雑排水	市

第2節 生活排水処理の目標

1. 処理形態別人口の予測

本計画の計画期間における処理形態別人口の予測を、表 6-2-1 及び図 6-2-1 に示す。

(p. 資-23「資料 6. 生活排水処理形態別人口の予測結果」参照)

表 6-2-1 処理形態別人口の予測

単位:人

年度	計画人口	水洗化・生活雑排水処理人口				計	処理率	水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽)	水洗化人口 (汲み取り人口)
		公共下水道	合併処理浄化槽	農業集落排水施設					
実績	H22	46,524	34,352	2,634	2,298	39,284	84.4%	3,635	3,605
	H23	45,970	34,139	2,708	2,463	39,310	85.5%	3,549	3,111
	H24	45,444	34,160	2,747	2,439	39,346	86.6%	3,405	2,693
	H25	44,893	34,059	2,764	2,485	39,308	87.6%	3,235	2,350
	H26	44,609	33,996	2,724	2,522	39,242	88.0%	3,151	2,216
予測	H27	43,762	33,904	2,782	2,571	39,257	89.7%	2,586	1,919
	H28	43,388	33,824	2,801	2,607	39,232	90.4%	2,436	1,720
	H29	43,041	33,745	2,818	2,641	39,204	91.1%	2,289	1,548
	H30	42,716	33,666	2,834	2,672	39,172	91.7%	2,147	1,397
	H31	42,412	33,587	2,849	2,701	39,137	92.3%	2,009	1,266
	H32	42,127	33,508	2,863	2,729	39,100	92.8%	1,876	1,151
	H33	41,860	33,428	2,877	2,754	39,059	93.3%	1,752	1,049
	H34	41,608	33,349	2,889	2,779	39,017	93.8%	1,632	959
	H35	41,370	33,270	2,901	2,802	38,973	94.2%	1,518	879
	H36	41,146	33,191	2,912	2,823	38,926	94.6%	1,413	807
	H37	40,934	33,112	2,923	2,844	38,879	95.0%	1,312	743
	H38	40,733	33,032	2,933	2,863	38,828	95.3%	1,219	686
	H39	40,542	32,953	2,942	2,881	38,776	95.6%	1,132	634
	H40	40,361	32,874	2,951	2,899	38,724	95.9%	1,049	588
	H41	40,189	32,795	2,960	2,915	38,670	96.2%	973	546
	H42	40,025	32,716	2,968	2,931	38,615	96.5%	903	507
予測根拠	①	②	③	④	⑤=	⑥=	⑦=	⑧	
	将来人口	トレンド式 等差	トレンド式 逆数	トレンド式 逆数	②+③+④	⑤÷①	①-⑤-⑧	トレンド式 べき	

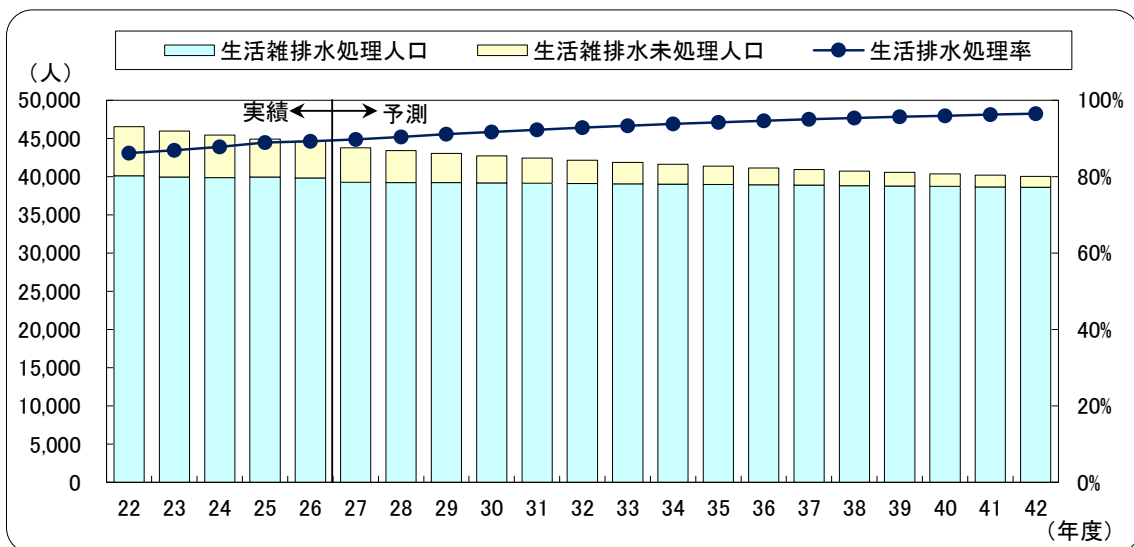


図 6-2-1 生活排水処理率の推移

2. し尿・浄化槽汚泥量の予測

1) 計画原単位

過去5年間の原単位を元に設定した浄化槽汚泥の計画原単位について、表6-2-2に示す。

し尿・浄化槽汚泥の原単位については、過去5年間の平均値で一定に推移していくものとする。

表 6-2-2 し尿及び浄化槽汚泥の原単位の設定

■計画原単位の設定

区分\年度		H22	H23	H24	H25	H26	
収集人口 (人)	し 尿	3,605	3,111	2,693	2,350	2,216	
	単独浄化槽	3,635	3,549	3,405	3,235	3,151	
	合併浄化槽	4,932	5,171	5,186	5,249	5,246	
	浄化槽計	8,567	8,720	8,591	8,484	8,397	
収集量 (kL/年)	し 尿	2,455	2,099	1,979	1,722	1,488	
	浄化槽汚泥	5,125	5,818	6,049	5,896	5,808	
	計	7,580	7,917	8,028	7,618	7,296	平均
原単位 (L/人・日)	し 尿	1.87	1.85	2.01	2.01	1.84	1.92
	単独浄化槽	1.24	1.44	1.56	1.60	1.62	1.49
	合併浄化槽	1.93	2.09	2.17	2.09	2.06	2.07

※合併処理浄化槽等人口は、合併浄化槽人口、農業集落排水施設人口の合算値

※合併処理浄化槽等汚泥は、合併浄化槽汚泥、農業集落排水施設汚泥の合算値

※単独処理浄化槽汚泥及び合併処理浄化槽汚泥の各原単位は、以下の方法により求めた

汚泥再生処理センター等施設整備の計画・設計要領の原単位(単独処理浄化槽汚泥:0.85、合併処理浄化槽汚泥:1.8)

$$c:d=0.85:1.8$$

$$\text{単独+合併処理浄化槽汚泥量(kL/年)}=(a \times c + b \times d) \times 365 \text{日} \times 10^{-3}$$

単独処理浄化槽人口:a、合併処理浄化槽人口:b

単独処理浄化槽原単位:c、合併処理浄化槽原単位:d

2) し尿・浄化槽汚泥量の予測結果

し尿・浄化槽汚泥量の予測結果は、表 6-2-3 及び図 6-2-2 に示す。

表 6-2-3 し尿及び浄化槽汚泥量の予測結果

年度		し尿			単独処理浄化槽汚泥			合併処理浄化槽等汚泥			浄化槽汚泥合計	合計	
		人口 (人)	原単位 (L/人・日)	収集量 (kL/年)	人口 (人)	原単位 (L/人・日)	収集量 (kL/年)	人口 (人)	原単位 (L/人・日)	収集量 (kL/年)	(kL/年)	(kL/年)	(kL/日)
実績	H22	3,605	1.87	2,455	3,635	1.24	-	4,932	1.93	-	5,125	7,580	20.8
	H23	3,111	1.85	2,099	3,549	1.44	-	5,171	2.09	-	5,818	7,917	21.7
	H24	2,693	2.01	1,979	3,405	1.56	-	5,186	2.17	-	6,049	8,028	22.0
	H25	2,350	2.01	1,722	3,235	1.60	-	5,249	2.09	-	5,896	7,618	20.9
	H26	2,216	1.84	1,488	3,151	1.62	-	5,246	2.06	-	5,808	7,296	20.0
予測	H27	1,919	1.92	1,345	2,586	1.49	1,406	5,353	2.07	4,044	5,450	6,795	18.6
	H28	1,720	1.92	1,205	2,436	1.49	1,325	5,408	2.07	4,086	5,411	6,616	18.1
	H29	1,548	1.92	1,085	2,289	1.49	1,245	5,459	2.07	4,125	5,370	6,455	17.7
	H30	1,397	1.92	979	2,147	1.49	1,168	5,506	2.07	4,160	5,328	6,307	17.3
	H31	1,266	1.92	887	2,009	1.49	1,093	5,550	2.07	4,193	5,286	6,173	16.9
	H32	1,151	1.92	807	1,876	1.49	1,020	5,592	2.07	4,225	5,245	6,052	16.6
	H33	1,049	1.92	735	1,752	1.49	953	5,631	2.07	4,255	5,208	5,943	16.3
	H34	959	1.92	672	1,632	1.49	888	5,668	2.07	4,282	5,170	5,842	16.0
	H35	879	1.92	616	1,518	1.49	826	5,703	2.07	4,309	5,135	5,751	15.8
	H36	807	1.92	566	1,413	1.49	768	5,735	2.07	4,333	5,101	5,667	15.5
	H37	743	1.92	521	1,312	1.49	714	5,767	2.07	4,357	5,071	5,592	15.3
	H38	686	1.92	481	1,219	1.49	663	5,796	2.07	4,379	5,042	5,523	15.1
	H39	634	1.92	444	1,132	1.49	616	5,823	2.07	4,400	5,016	5,460	15.0
	H40	588	1.92	412	1,049	1.49	570	5,850	2.07	4,420	4,990	5,402	14.8
	H41	546	1.92	383	973	1.49	529	5,875	2.07	4,439	4,968	5,351	14.7
	H42	507	1.92	355	903	1.49	491	5,899	2.07	4,457	4,948	5,303	14.5
	予測根拠	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
予測結果		過去5年平均	①×②×365日	予測結果	過去5年平均	④×⑤×365日	予測結果	過去5年平均	⑦×⑧×365日	⑥+⑨	③+⑩	365日平均	

※合併処理浄化槽等人口は、合併浄化槽人口、農業集落排水施設人口の合算値

※合併処理浄化槽等汚泥は、合併浄化槽汚泥、農業集落排水施設汚泥の合算値

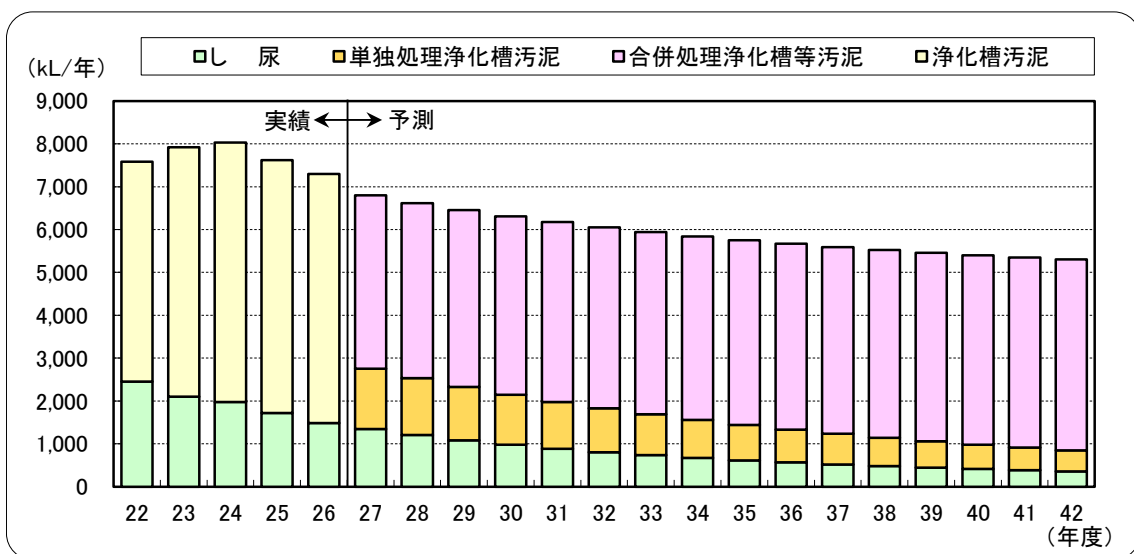


図 6-2-2 し尿及び浄化槽汚泥量の予測結果

3. 生活排水処理の目標

公衆衛生及び公共用水域の環境保全を目指して、本計画における生活排水処理の目標を次のとおりとする。基本方針に沿って生活排水の適正処理を推進し、進めるものとする。

表 6-2-4 生活排水処理の目標

項 目	平成 26 年度	平成 42 年度
水洗化・生活雑排水処理率	88.0%	96.5%

※水洗化・生活雑排水処理率＝水洗化・生活雑排水処理人口÷計画処理区域内人口

表 6-2-5 生活排水処理人口の内訳

単位：人

処理別人口	H26	H32	H37	H42
1. 計画処理区域内人口	44,609	42,127	40,934	40,025
2. 水洗化・生活雑排水処理人口	39,242	39,100	38,879	38,615
水洗化・生活雑排水処理率	88.0%	92.8%	95.0%	96.5%
(1)公共下水道	33,996	33,508	33,112	32,716
(2)合併処理浄化槽	2,724	2,863	2,923	2,968
(3)農業集落排水施設	2,522	2,729	2,844	2,931
3. 水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽人口)	3,151	1,876	1,312	903
4. 非水洗化人口	2,216	1,151	743	507
(1)し尿収集人口	2,216	1,151	743	507

第3節 し尿及び浄化槽汚泥処理計画

1. し尿及び浄化槽汚泥処理計画

1) 収集・運搬計画

(1) 収集運搬計画に関する方針

生活環境の保全上支障が生じないような収集運搬計画をたて、生活排水処理汚泥が適正に収集運搬される事を基本とする。また、収集運搬作業は労働安全衛生の確保に十分配慮しつつ、収集運搬業務の合理化・効率化が住民協力のもとに行われるようにする。

今後も、原則現体制を継続していくものとする。ただし、収集対象世帯数等に大きな変動や業者の転廃業等が生じた場合は、適宜検討を行うものとする。

(2) 収集区域の範囲

奄美市行政区域全域とする。

(3) 収集運搬の方法

生活排水処理汚泥は、定期的な汲取り方式とする。

①し尿

収集運搬許可を受けた業者が、バキューム車にて収集区域全域を、各戸別に収集する。

②し尿浄化槽汚泥

収集運搬許可を受けた業者がバキューム車にて収集区域全域のし尿浄化槽設置者の要請、又はし尿浄化槽の維持管理者の要請により、し尿浄化槽から汚泥等を抜取り収集する。

③農村集落等汚泥

施設管理委託を受けた業者が、バキューム車にて、定期的に施設から、汚泥等を抜取り収集する。

④収集体制

定められた収集区域において許可収集とする。

⑤収集運搬量

目標年次（平成42年度）における収集運搬量は、表6-2-3より、し尿汚泥1.0kL/日、浄化槽汚泥13.5kL/日である。

※定められた収集区域とは（p.60「表5-3-3収集・運搬体制」）によるものとする。

2) 中間処理計画

(1) 中間処理に関する方針

生活排水処理対策の基本として、水の適正利用に関する普及啓発のほか、これら生活排水の処理施設を逐次整備していくこととする。処理施設の整備に係る基本計画は次の通りである。

- ①人口密集地においては、公共下水道、農業集落排水施設、合併処理浄化槽等の費用対効果をよく分析し、適切な施設の配置により処理する。
- ②集落の形態をなしていない分散して立地している家屋については、各戸または共同で合併処理浄化槽等により処理する。
- ③単独処理浄化槽を設置している家屋については、生活雑排水の処理を進める個別の状況を勘案しつつ合併処理浄化槽等への交換を指導する。

(2) 中間処理の方法

現在、本市のし尿及び浄化槽汚泥は、大島地区衛生組合が管理する「有良汚泥再生処理センター」にて処理を行っている。

今後も、同施設で処理を行っていくものとする。

3) 最終処分計画

(1) 最終処分に関する方針

引き続き、名瀬クリーンセンター最終処分場施設にて最終処分する。

(2) 最終処分の方法

有良汚泥再生処理センターから発生する汚泥は、名瀬クリーンセンターごみ焼却施設で焼却したあと、残渣を名瀬クリーンセンター最終処分場施設で埋め立てる。

2. その他関連計画

1) 住民に対する広報・啓発活動

(1) 環境学習の充実

生活排水に対する意識を高揚するための環境学習の場を提供し、住民一人ひとりが発生源削減対策を実施できるよう啓発を図る。

(2) 環境情報の提供

チラシ等の配布、ホームページの活用等により、生活排水対策についての情報提供に努める。

(3) 地域住民との連携

地域住民と連携して、住民一人ひとりが環境に配慮した暮らしが実践できるよう啓発活動を行う。

(4) 家庭での生活排水対策実践の普及、エコライフの充実

各家庭の生活排水対策について、台所での水切りネット、洗剤の使用を少なくするためのアクリルタワシの使用、廃油の適正処理等、誰にでもできる発生源対策の普及促進により、エコライフの充実が図れるよう、生活排水対策を推進する。

(5) 浄化槽の維持管理

浄化槽の適正な維持管理を促進するため、チラシや広報誌を通じて、清掃・保守点検・法定検査の実施の啓発を進める。

(6) 下水道への早期接続

公共下水道が整備されている地域については、家庭や事業所から生活雑排水を公共用水域に流出させないため、早期に下水道へ接続するようPR活動を行う。

2) 地域に関する諸計画との関係

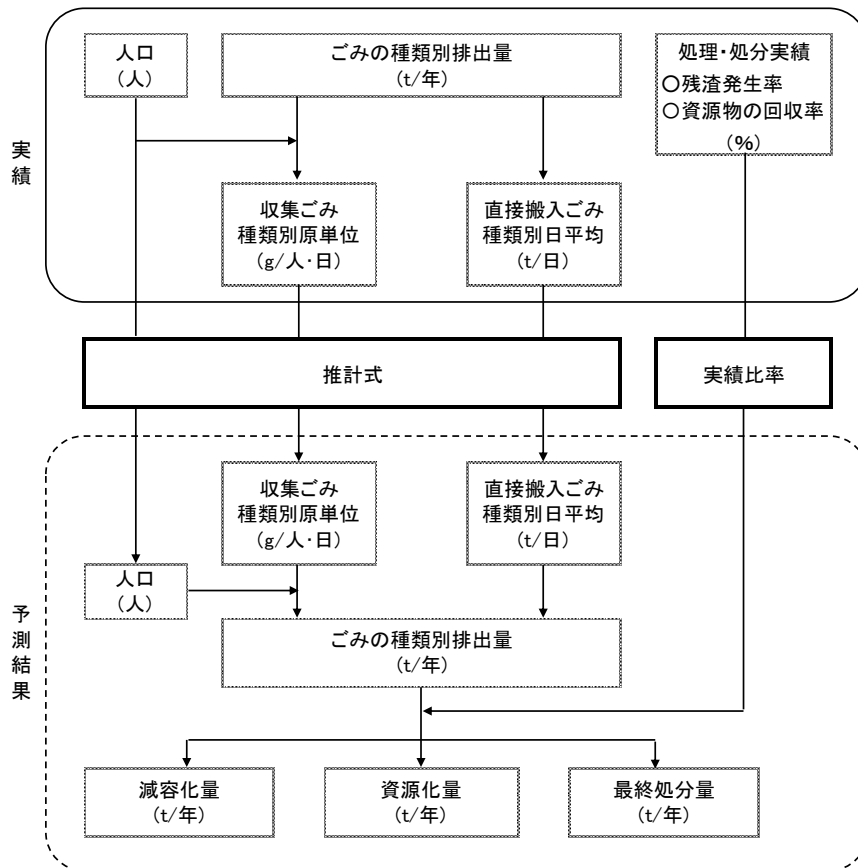
生活排水処理基本計画の推進にあたっては、本計画の「第4章 ごみ処理基本計画」とも整合を図り、循環型社会の形成を目指すものとする。

資 料 編

資料1. 予測手法の手順

将来のごみ排出量及び処理・処分量の予測手法を、以下に示す。

まず過去5年間の収集ごみ種類別原単位実績、直接搬入ごみ日平均排出量を推計式に当てはめ、これに将来の計画人口をかけて、将来のごみ種類別発生量を算出する。また、過去5年間の残渣発生率や資源物の回収率を参考に、将来の資源化量・最終処分量を算出する。



資料1 予測手法

資料2. 推計式の概要

人口及びごみ発生量の予測には、原因と結果から数式モデルを分析していく統計的手法のうち、時系列解析が一般的に使われている。時系列解析とは、過去から未来にわたって変化する現象が一定の規則性を持っているとの過程のもとに、理論的傾向線を当てはめて予測式を作る方法である。

①時系列の解析の特徴

- ・ 予測する対象の時系列データがあればよい
- ・ 環境要因の急激な変動がなければ、短期的にあまり誤差を生じない
- ・ 時系列変化の要因が、予測したい現象そのものの特性に依存する度合いが強い場合には、その特性を表現するのに適した傾向線を当てはめることにより、信頼度の高い予測式を作ることができる

②傾向線の種類と特徴

等差級数法：直線値を示す推計式。過去の実績の増加（または減少）傾向をそのまま反映した予測結果（直線）となる。

対数級数法：対数を用いた推計式。推計結果は曲線に示す。

等比級数法：乗数を用いた推計式。過去の実績が飛躍的に増加（または減少）している場合に有効な式であり、曲線を示す。

べき級数法：曲線を示す推計式。過去の実績値と比較的あてはまりがよく、人口予測式として用いられることが多い。

逆数級数法：分数関数を用いた推計式。推計結果は反比例となり、曲線を示す。

資料2 推計式の概要

名称	推計式	備考
等差級数法	$Y=a+bx$	Y: 推計値 a, b: 係数 ln, e: 自然対数、逆対数 x: 年度
対数級数法	$Y=a+b \cdot \ln x$	
等比級数法	$Y=a \cdot e^{bx}$	
べき級数法	$Y=a \cdot x^b$	
逆数級数法	$Y=a+b/x$	

5つの推計式によって5通りの予測値を算出し、このうち過去の実績をできるだけ良好に再現し、将来におけるトレンドの動きが論理的矛盾を来たさないこと等を考慮して、最も妥当と判断されるものを採用する。

資料3. 人口推計結果

計画処理区域内人口の予測に当たっては、以下の3つを比較し、検討を行った。

- ①総合計画における目標人口
- ②「国立社会保障・人口問題研究所 日本の市区町村別将来推計－平成25年3月推計－」の将来推計人口
- ③トレンド式による推計結果

「①総合計画における目標人口」については、「奄美市総合計画（平成23年3月策定）」に示された目標人口を用いた。

「②「国立社会保障・人口問題研究所 日本の市区町村別将来推計－平成25年3月推計－」の将来推計人口」については、平成22年の国勢調査を基にしたものである。

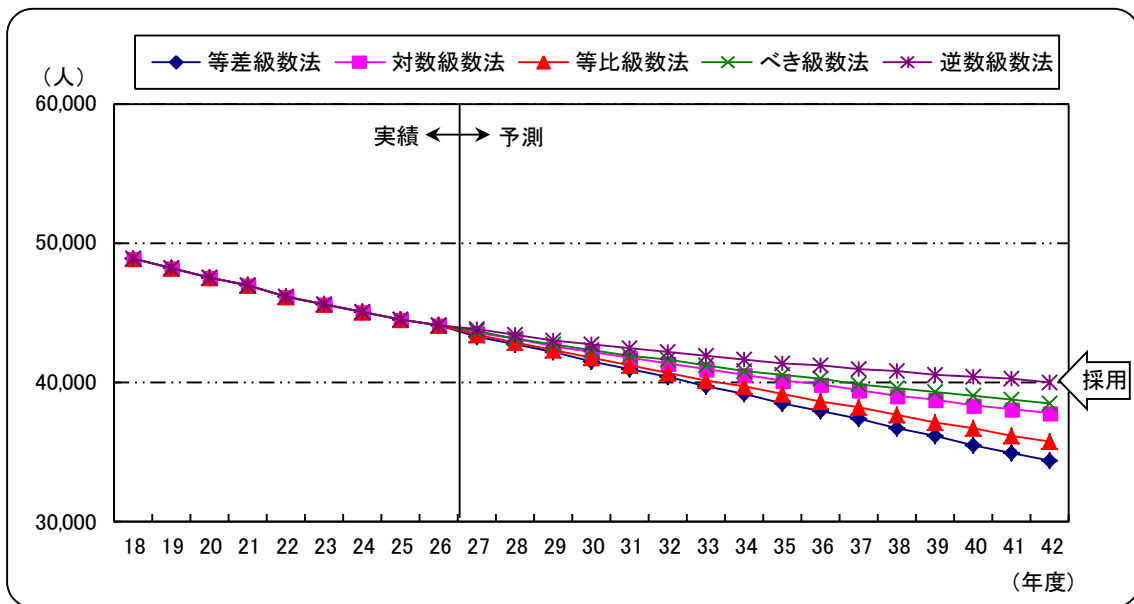
「③トレンド式による推計結果」については、トレンド式を用いて予測し、採用に当たっては近年の実績等を考慮して、最も適当な傾向線を採用した。平成18年度の実績人口から奄美市と算出したため、予測に用いる実績データは、平成18年度から平成26年度の9年間のデータとした。

資料3 採用式及び採用理由

項目	内容
採用実績	平成18年度～平成26年度の人口
採用式	逆数級数法
採用理由	いずれの推計式も減少傾向を示しているため、最も減少率が低く実績に近い値を示す逆数級数法を採用した。

資料4 トレンド式による推計結果

年度	実績 (人)	年度	推計結果(人)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H18	48,897	H27	43,320	43,544	43,395	43,607	43,762
H19	48,156	H28	42,719	43,067	42,837	43,162	43,388
H20	47,482	H29	42,119	42,607	42,286	42,736	43,041
H21	46,891	H30	41,518	42,162	41,742	42,329	42,716
H22	46,121	H31	40,918	41,732	41,205	41,938	42,412
H23	45,603	H32	40,318	41,316	40,676	41,564	42,127
H24	45,076	H33	39,717	40,912	40,153	41,204	41,860
H25	44,544	H34	39,117	40,521	39,636	40,858	41,608
H26	44,125	H35	38,516	40,141	39,127	40,525	41,370
		H36	37,916	39,771	38,624	40,204	41,146
		H37	37,316	39,412	38,127	39,894	40,934
		H38	36,715	39,062	37,637	39,594	40,733
		H39	36,115	38,722	37,153	39,305	40,542
		H40	35,514	38,389	36,675	39,025	40,361
		H41	34,914	38,066	36,203	38,753	40,189
		H42	34,314	37,750	35,738	38,490	40,025
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{bx}$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			59530.4667	86769.8348	61545.1474	110639.8749	33298.2009
b=			-600.4000	-13115.1921	-0.0129	-0.2825	282527.1527
採否							採用



①～③の比較・検討結果を以下に示す。

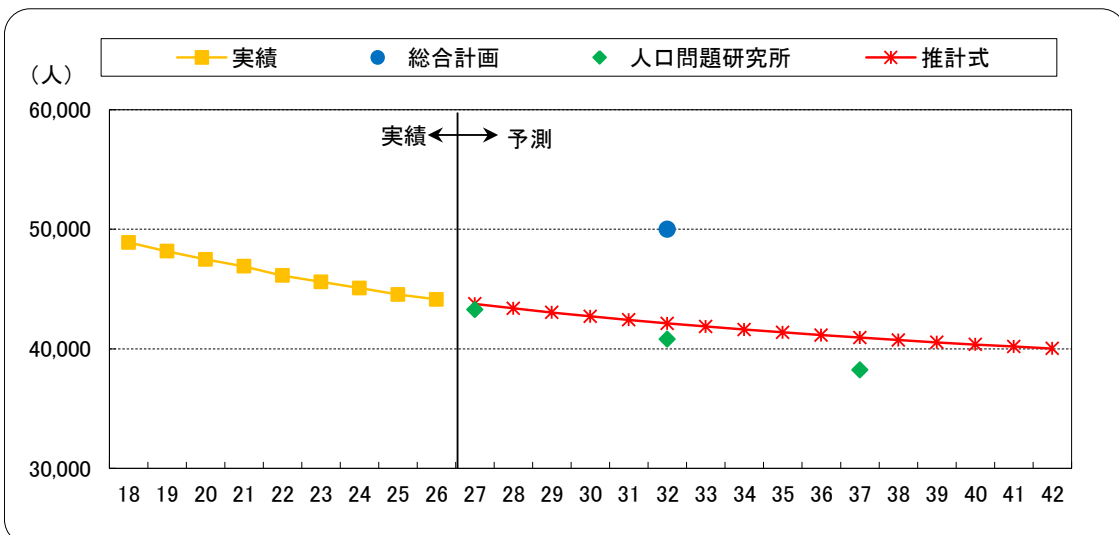
資料5 計画処理区域内人口の検討結果

単位:人

年度		人口			
実績	H18	48,897			
	H19	48,156			
	H20	47,482			
	H21	46,891			
	H22	46,121			
	H23	45,603			
	H24	45,076			
	H25	44,544			
H26	44,125				
将来		総合計画 ¹⁾	人口問題研究所 ²⁾	推計式	採用値
	H27	-	43,284	43,762	43,762
	H28	-	-	43,388	43,388
	H29	-	-	43,041	43,041
	H30	-	-	42,716	42,716
	H31	-	-	42,412	42,412
	H32	50,000	40,798	42,127	42,127
	H33	-	-	41,860	41,860
	H34	-	-	41,608	41,608
	H35	-	-	41,370	41,370
	H36	-	-	41,146	41,146
	H37	-	38,223	40,934	40,934
	H38	-	-	40,733	40,733
	H39	-	-	40,542	40,542
	H40	-	-	40,361	40,361
	H41	-	-	40,189	40,189
H42	-	-	40,025	40,025	
根拠		推計式による推計結果を採用する。			

1)「奄美市総合計画(平成23年3月策定)」における目標人口

2)人口問題研究所:『日本の市区町村別将来推計人口』(平成25年3月推計)

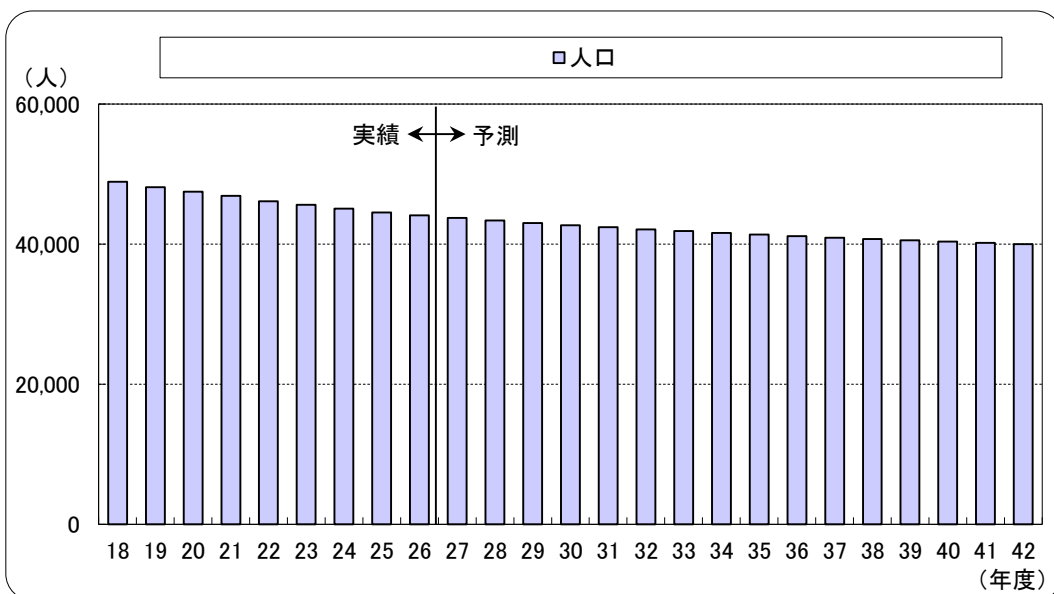


本計画で用いる将来の計画処理区域内人口を以下に示す。

資料 6 将来の計画処理区域内人口

単位：人

項目		人口
実績	H18	48,897
	H19	48,156
	H20	47,482
	H21	46,891
	H22	46,121
	H23	45,603
	H24	45,076
	H25	44,544
将来	H26	44,125
	H27	43,762
	H28	43,388
	H29	43,041
	H30	42,716
	H31	42,412
	H32	42,127
	H33	41,860
	H34	41,608
	H35	41,370
	H36	41,146
	H37	40,934
	H38	40,733
	H39	40,542
	H40	40,361
H41	40,189	
H42	40,025	



資料4. 排出量及び処理・処分量の予測結果

1) 収集ごみ

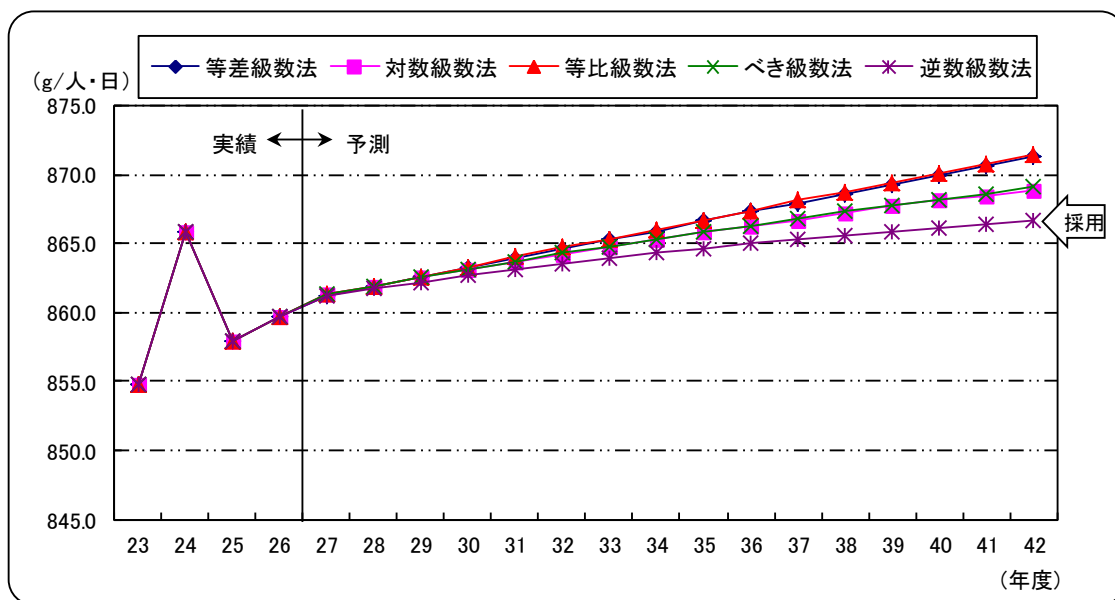
収集ごみ1人1日平均排出量の予測結果を以下に示す。

資料7 予測結果の採用理由

推計対象	項目	内容
もやせるごみ 1人1日平均排出量	採用実績	平成23年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	逆数級数法
	採用理由	平成23年度以降は、ほぼ横ばい傾向を示しているので、過去4年間の実績で推計を行った。いずれの推計式も微増傾向を示しており、増加率の最も小さい逆数級数法を採用した。
もやせないごみ 1人1日平均排出量	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	直近(平成26年度)実績値
	採用理由	過去5年間に於いて減少傾向にあったが、平成25年度以降、微増しているため、直近(平成26年度)実績値で推移することとした。
資源物 (ペットボトル、びん類) 1人1日平均排出量	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	過去5年間の平均値
	採用理由	過去5年間に於いて増減を繰り返しながら減少しているため、過去5年間の平均値で推移することとした。
資源物(古紙類) 1人1日平均排出量	採用実績	平成21年度～平成25年度の実績
	採用式・採用値	過去5年間の平均値
	採用理由	いずれの推計式も減少傾向を示しており、減少率の最も小さい逆数級数法を採用した。
粗大ごみ 1人1日平均排出量	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	直近(平成26年度)実績値
	採用理由	平成23年度から減少傾向が強いため、直近(平成26年度)実績値で推移することとした。
汚泥(下水道+し尿) 1人1日平均排出量	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	過去4年間の平均値
	採用理由	平成22年度から平成23年度にかけては急激に増加しているが、平成24年度で以降は増減しているため、過去4年間の平均値で推移することとした。

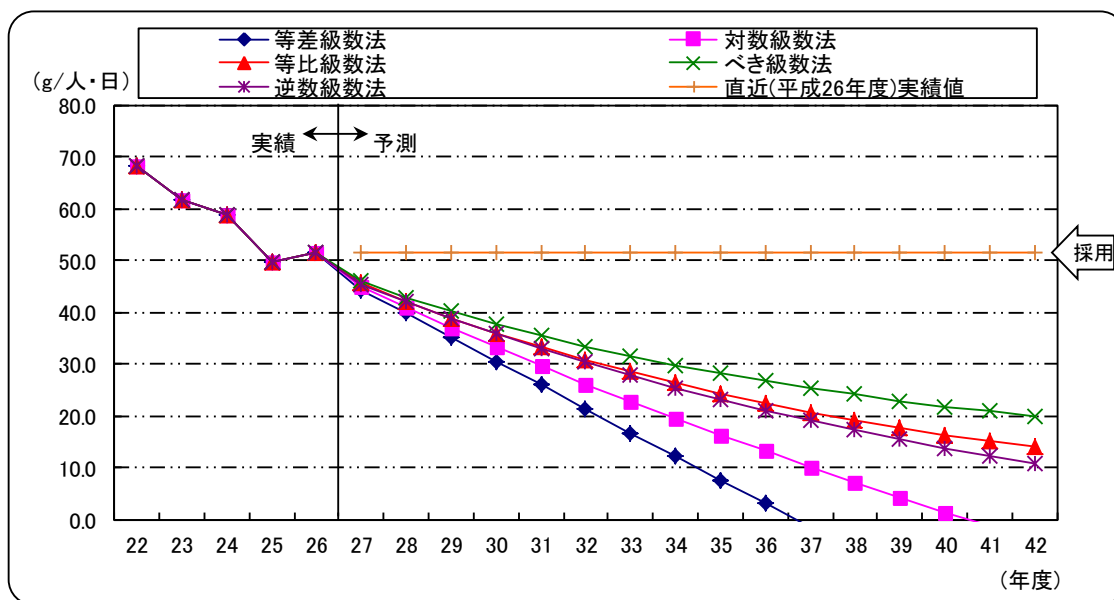
資料8 もやせるごみの予測結果

年度	実績 (g/人・日)	年度	推計結果(g/人・日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H23	854.8	H27	861.2	861.3	861.3	861.3	861.2
H24	865.9	H28	861.9	861.9	861.9	861.9	861.7
H25	857.9	H29	862.6	862.5	862.6	862.5	862.2
H26	859.7	H30	863.3	863.1	863.3	863.1	862.7
		H31	863.9	863.7	864.0	863.7	863.1
		H32	864.6	864.2	864.7	864.3	863.5
		H33	865.3	864.8	865.3	864.8	863.9
		H34	865.9	865.3	866.0	865.3	864.3
		H35	866.6	865.8	866.7	865.8	864.6
		H36	867.3	866.3	867.4	866.3	865.0
		H37	867.9	866.7	868.1	866.8	865.3
		H38	868.6	867.2	868.7	867.3	865.6
		H39	869.3	867.7	869.4	867.8	865.8
		H40	870.0	868.1	870.1	868.2	866.1
		H41	870.6	868.5	870.8	868.6	866.4
		H42	871.3	868.9	871.5	869.1	866.6
		式	$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{bx}$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
		a=	843.160000	804.115711	843.158748	805.411040	876.367781
		b=	0.670000	17.343873	0.000787	0.020351	-410.566373
		採否					採用



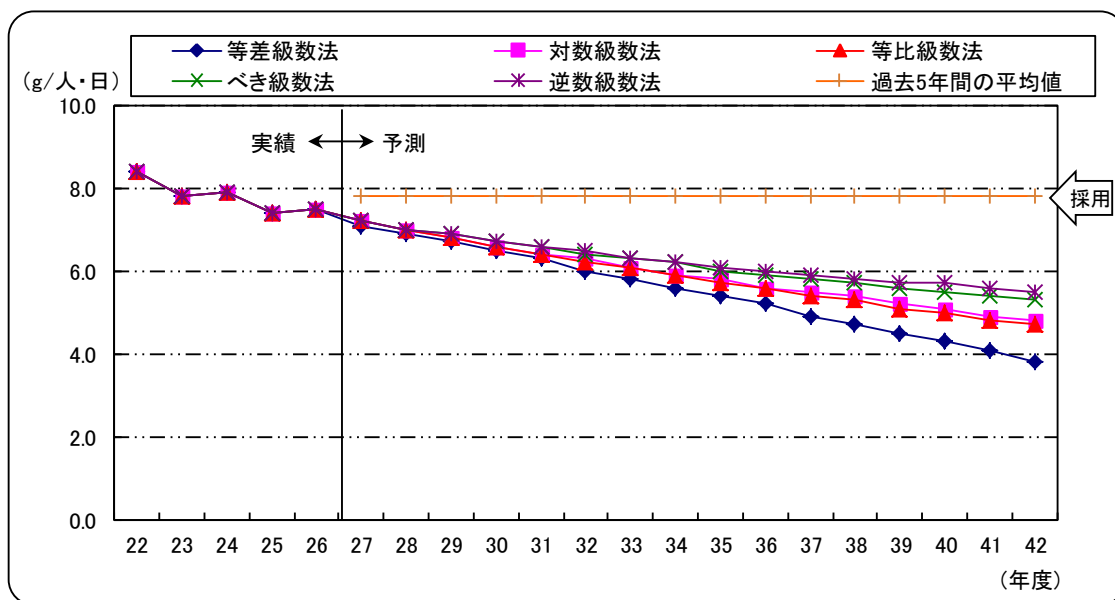
資料9 もやせないごみの予測結果

年度	実績 (g/人・日)	年度	推計結果(g/人・日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	68.4	H27	44.4	44.9	45.6	46.1	45.5
H23	61.9	H28	39.8	40.9	42.2	43.0	42.1
H24	59.0	H29	35.2	37.0	39.0	40.3	38.8
H25	49.8	H30	30.6	33.3	36.0	37.8	35.8
H26	51.5	H31	26.0	29.7	33.3	35.5	33.0
		H32	21.4	26.2	30.8	33.4	30.3
		H33	16.8	22.8	28.5	31.6	27.8
		H34	12.2	19.5	26.3	29.8	25.5
		H35	7.6	16.3	24.3	28.2	23.2
		H36	3.0	13.2	22.5	26.8	21.1
		H37	-1.5	10.2	20.8	25.4	19.2
		H38	-6.1	7.2	19.2	24.2	17.3
		H39	-10.7	4.3	17.8	23.0	15.5
		H40	-15.3	1.5	16.4	21.9	13.8
		H41	-19.9	-1.2	15.2	21.0	12.2
		H42	-24.5	-3.8	14.0	20.0	10.7
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{bx}$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			168.280000	408.685142	379.864572	23092.935701	-52.026664
b=			-4.590000	-110.368591	-0.078509	-1.886362	2634.318786
採否							



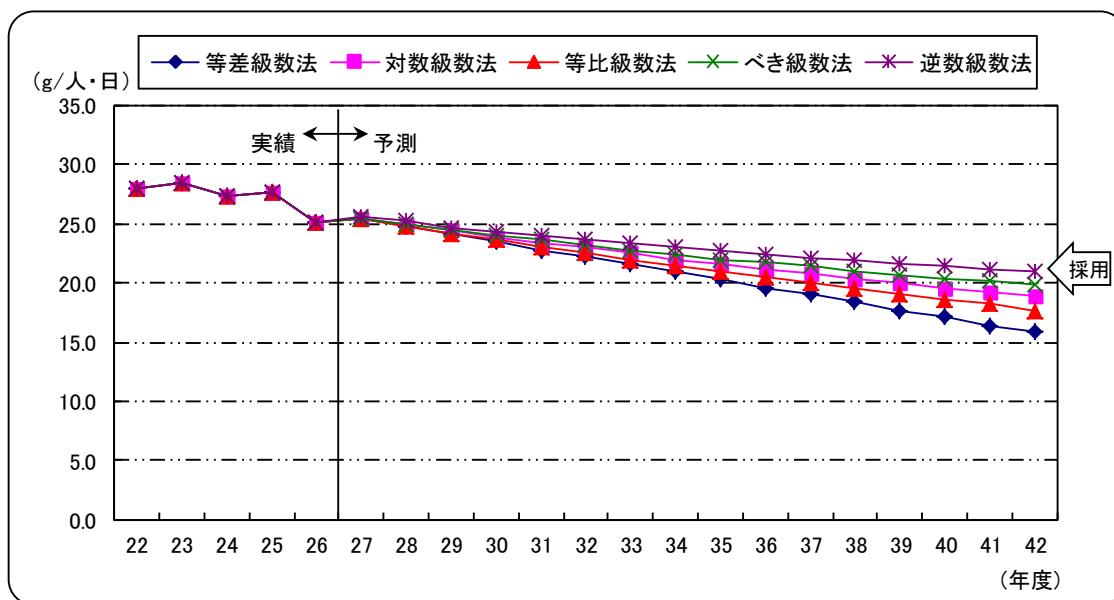
資料 10 資源物（ペットボトル、びん類）の予測結果

年度	実績 (g/人・日)	年度	推計結果(g/人・日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	8.4	H27	7.1	7.2	7.2	7.2	7.2
H23	7.8	H28	6.9	7.0	7.0	7.0	7.0
H24	7.9	H29	6.7	6.8	6.8	6.9	6.9
H25	7.4	H30	6.5	6.6	6.6	6.7	6.7
H26	7.5	H31	6.3	6.4	6.4	6.6	6.6
		H32	6.0	6.3	6.2	6.4	6.5
		H33	5.8	6.1	6.1	6.3	6.3
		H34	5.6	5.9	5.9	6.2	6.2
		H35	5.4	5.8	5.7	6.0	6.1
		H36	5.2	5.6	5.6	5.9	6.0
		H37	4.9	5.5	5.4	5.8	5.9
		H38	4.7	5.4	5.3	5.7	5.8
		H39	4.5	5.2	5.1	5.6	5.7
		H40	4.3	5.1	5.0	5.5	5.7
		H41	4.1	4.9	4.8	5.4	5.6
		H42	3.8	4.8	4.7	5.3	5.5
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^bx$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			13.080000	24.655246	15.232677	66.169726	2.486659
b=			-0.220000	-5.306545	-0.027930	-0.673455	127.076343
採否							



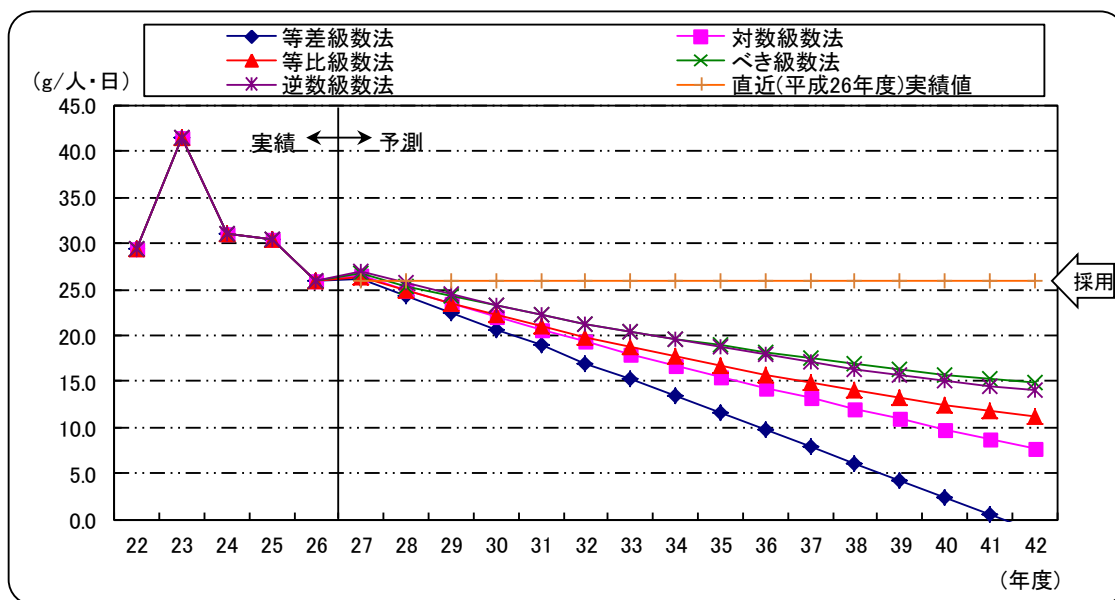
資料 11 資源物（古紙類）の予測結果

年度	実績 (g/人・日)	年度	推計結果(g/人・日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	27.9	H27	25.4	25.5	25.4	25.5	25.6
H23	28.5	H28	24.8	25.0	24.8	25.0	25.2
H24	27.4	H29	24.1	24.4	24.2	24.5	24.7
H25	27.7	H30	23.5	23.9	23.6	24.0	24.3
H26	25.1	H31	22.8	23.4	23.1	23.6	24.0
		H32	22.2	23.0	22.5	23.2	23.6
		H33	21.6	22.5	22.0	22.8	23.3
		H34	20.9	22.0	21.5	22.4	23.0
		H35	20.3	21.6	21.0	22.0	22.7
		H36	19.6	21.2	20.5	21.7	22.4
		H37	19.0	20.8	20.0	21.4	22.1
		H38	18.4	20.4	19.5	21.0	21.9
		H39	17.7	20.0	19.0	20.7	21.6
		H40	17.1	19.6	18.6	20.4	21.4
		H41	16.4	19.2	18.2	20.1	21.2
		H42	15.8	18.9	17.7	19.9	21.0
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^bx$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			42.680000	75.194755	48.552674	164.286334	12.586850
b=			-0.640000	-15.072432	-0.023999	-0.565101	352.364863
採否							採用



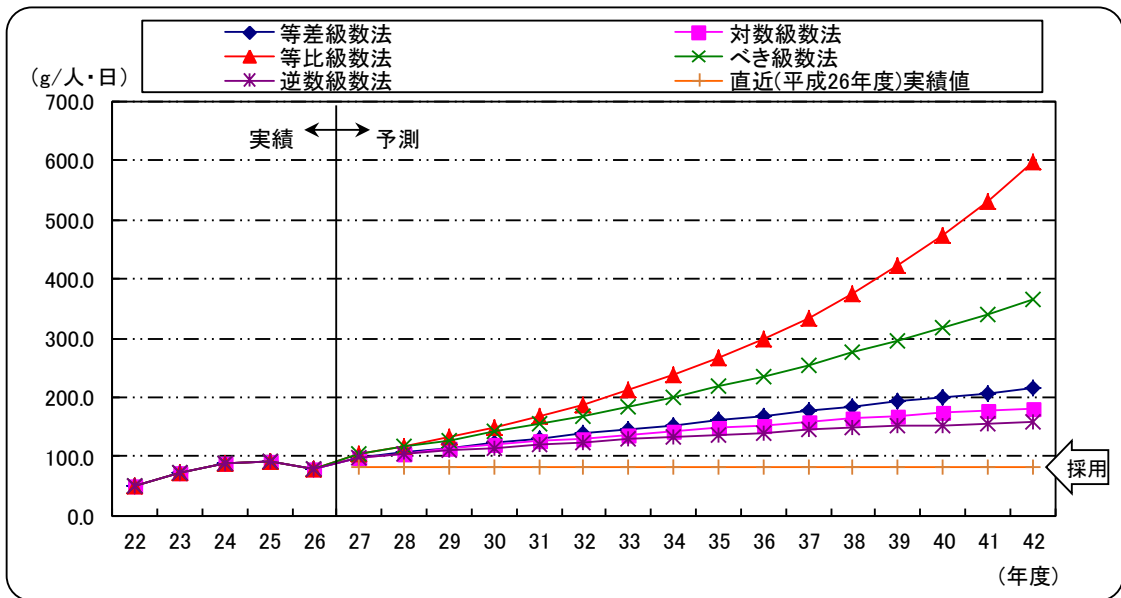
資料 12 粗大ごみの予測結果

年度	実績 (g/人・日)	年度	推計結果(g/人・日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	29.5	H27	26.2	26.6	26.4	26.7	27.0
H23	41.5	H28	24.4	25.0	24.9	25.4	25.7
H24	31.1	H29	22.5	23.5	23.5	24.3	24.5
H25	30.4	H30	20.7	22.1	22.2	23.2	23.3
H26	25.9	H31	18.9	20.7	21.0	22.2	22.3
		H32	17.0	19.3	19.8	21.3	21.3
		H33	15.2	18.0	18.7	20.4	20.4
		H34	13.4	16.8	17.7	19.6	19.5
		H35	11.6	15.5	16.7	18.9	18.7
		H36	9.7	14.3	15.8	18.2	17.9
		H37	7.9	13.2	14.9	17.5	17.1
		H38	6.1	12.0	14.1	16.9	16.4
		H39	4.2	10.9	13.3	16.4	15.8
		H40	2.4	9.8	12.5	15.8	15.1
		H41	0.6	8.8	11.8	15.3	14.5
		H42	-1.3	7.8	11.2	14.8	14.0
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^bx$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			75.600000	167.025151	123.335021	2141.473068	-9.440131
b=			-1.830000	-42.610778	-0.057155	-1.330491	983.448160
採否							



資料 13 汚泥（下水道＋し尿）の予測結果

年度	実績 (g/人・日)	年度	推計結果(g/人・日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	49.4	H27	99.4	98.8	105.5	104.6	98.2
H23	73.2	H28	107.1	105.7	118.4	115.9	104.3
H24	88.4	H29	114.8	112.3	132.9	128.0	109.9
H25	92.0	H30	122.5	118.7	149.1	140.9	115.2
H26	78.5	H31	130.2	124.9	167.4	154.5	120.1
		H32	137.9	130.9	187.9	169.1	124.7
		H33	145.6	136.7	210.9	184.4	129.1
		H34	153.3	142.3	236.7	200.7	133.1
		H35	161.0	147.8	265.7	217.8	137.0
		H36	168.7	153.1	298.2	235.9	140.6
		H37	176.4	158.3	334.7	254.9	144.1
		H38	184.1	163.3	375.7	274.8	147.3
		H39	191.8	168.2	421.7	295.8	150.4
		H40	199.5	173.0	473.3	317.7	153.4
		H41	207.2	177.6	531.3	340.7	156.2
		H42	214.9	182.2	596.3	364.7	158.8
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^bx$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			-108.500000	-522.803381	4.665738	0.009391	267.967231
b=			7.700000	188.616003	0.115489	2.827182	-4584.002535
採否							



2) 直接搬入ごみ

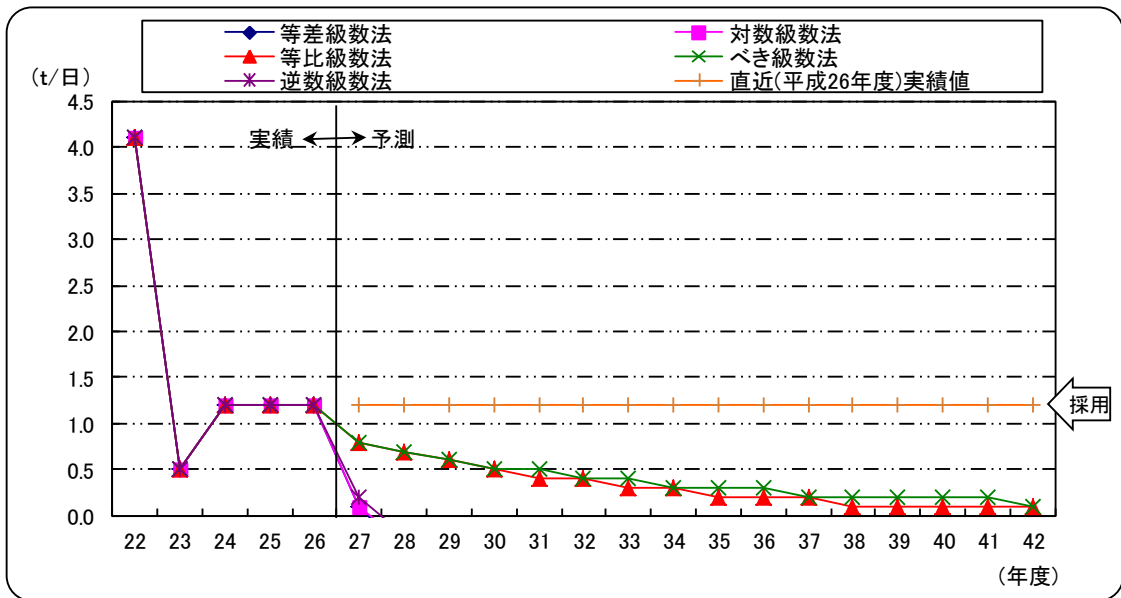
直接搬入ごみ 1 日平均排出量の予測結果を以下に示す。

資料 14 予測結果の採用理由

推計対象	項目	内容
もやせるごみ 1日平均排出量	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	直近(平成26年度)実績値
	採用理由	過去3年間に於いて横ばいのため、直近(平成26年度)実績値で推移することとした。
もやせないごみ 1日平均排出量	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	過去5年間の平均値
	採用理由	過去5年間に於いて4年間に於いて横ばいであるため、過去5年間の平均値で推移することとした。
粗大ごみ 1日平均排出量	採用実績	平成23年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	逆数級数法
	採用理由	過去4年間に於いては、ほぼ横ばい傾向を示しているため、過去4年間の実績で推計を行った。いずれの推計式も微減傾向を示しており、減少率の最も小さい逆数級数法を採用した。

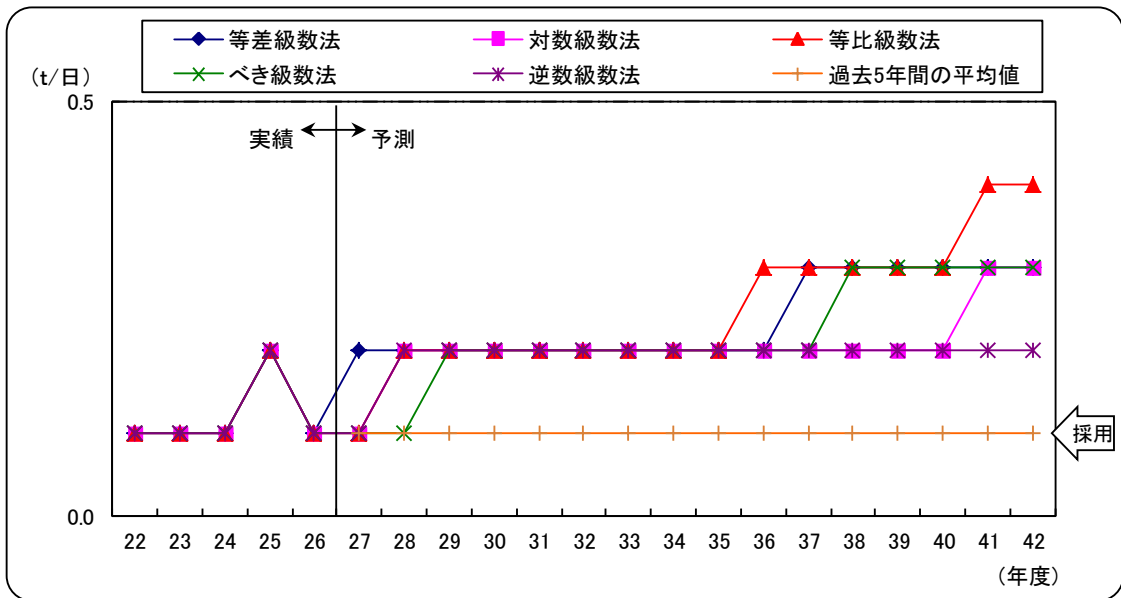
資料 15 もやせるごみの予測結果

年度	実績 (t/日)	年度	推計結果(t/日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	4.1	H27	0.1	0.1	0.8	0.8	0.2
H23	0.5	H28	-0.4	-0.3	0.7	0.7	-0.2
H24	1.2	H29	-0.9	-0.8	0.6	0.6	-0.6
H25	1.2	H30	-1.4	-1.2	0.5	0.5	-1.0
H26	1.2	H31	-1.9	-1.6	0.4	0.5	-1.3
		H32	-2.4	-2.0	0.4	0.4	-1.6
		H33	-2.9	-2.4	0.3	0.4	-1.9
		H34	-3.5	-2.7	0.3	0.3	-2.2
		H35	-4.0	-3.1	0.2	0.3	-2.4
		H36	-4.5	-3.5	0.2	0.3	-2.7
		H37	-5.0	-3.8	0.2	0.2	-2.9
		H38	-5.5	-4.1	0.1	0.2	-3.1
		H39	-6.0	-4.5	0.1	0.2	-3.3
		H40	-6.5	-4.8	0.1	0.2	-3.5
		H41	-7.0	-5.1	0.1	0.2	-3.7
		H42	-7.5	-5.4	0.1	0.1	-3.9
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{bx}$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			13.880000	41.472297	57.364745	371592.715882	-11.158436
b=			-0.510000	-12.540421	-0.158186	-3.958235	306.093334
採否							



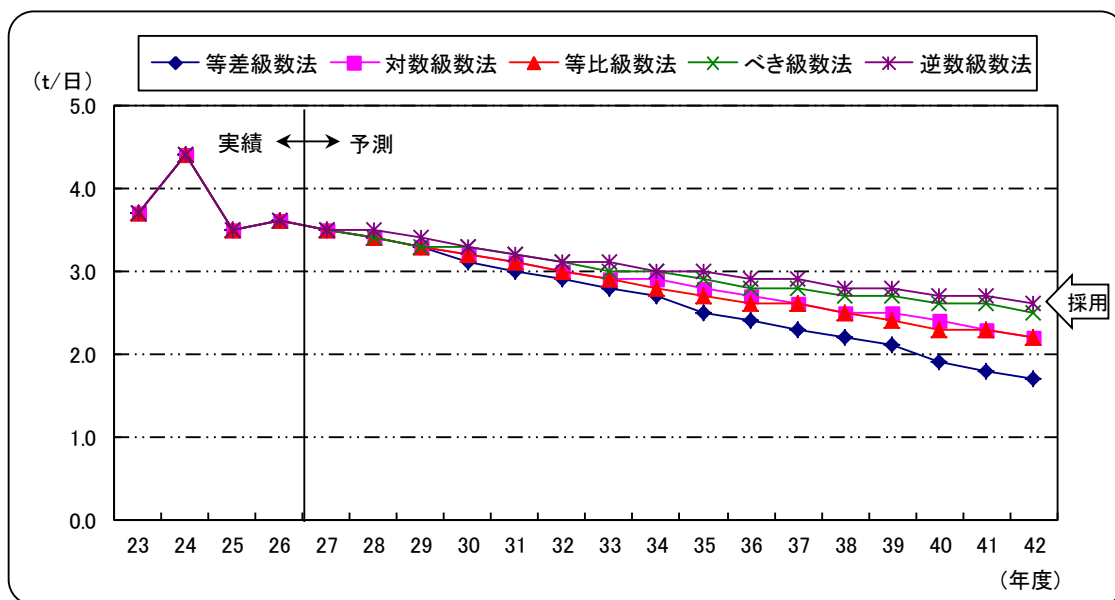
資料 16 もやせないごみの予測結果

年度	実績 (t/日)	年度	推計結果(t/日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	0.1	H27	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
H23	0.1	H28	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2
H24	0.1	H29	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
H25	0.2	H30	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
H26	0.1	H31	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
		H32	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
		H33	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
		H34	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
		H35	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
		H36	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2
		H37	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2
		H38	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2
		H39	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2
		H40	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2
		H41	0.3	0.3	0.4	0.3	0.2
		H42	0.3	0.3	0.4	0.3	0.2
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{\ln bx}$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			-0.120000	-0.655202	0.021764	0.000533	0.366954
b=			0.010000	0.244057	0.069315	1.691623	-5.906255
採否							



資料 17 粗大ごみの予測結果

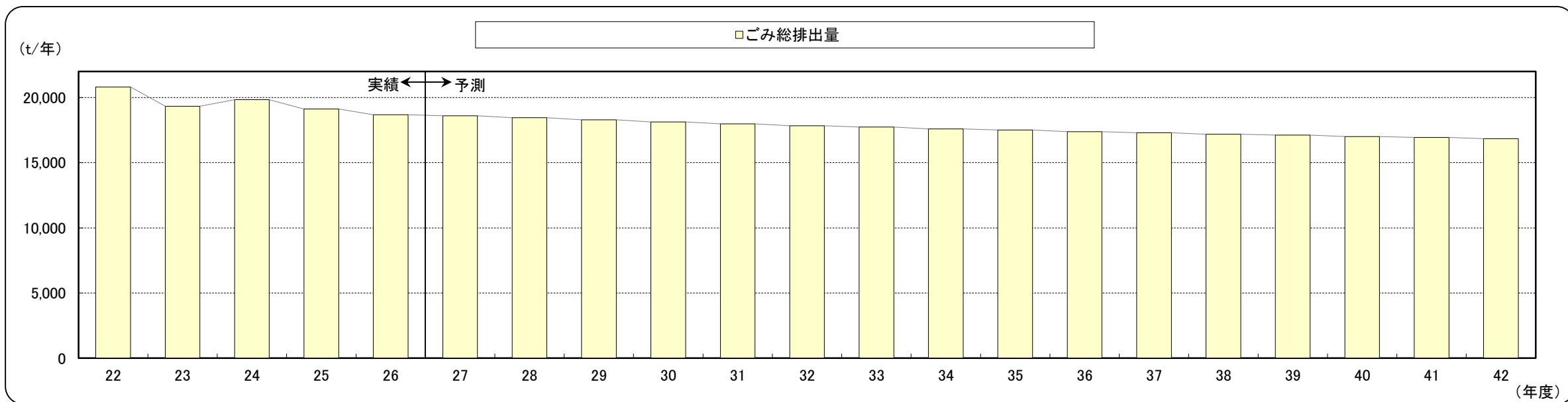
年度	実績 (t/日)	年度	推計結果(t/日)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H23	3.7	H27	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
H24	4.4	H28	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5
H25	3.5	H29	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4
H26	3.6	H30	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3
		H31	3.0	3.1	3.1	3.2	3.2
		H32	2.9	3.0	3.0	3.1	3.1
		H33	2.8	2.9	2.9	3.0	3.1
		H34	2.7	2.9	2.8	3.0	3.0
		H35	2.5	2.8	2.7	2.9	3.0
		H36	2.4	2.7	2.6	2.8	2.9
		H37	2.3	2.6	2.6	2.8	2.9
		H38	2.2	2.5	2.5	2.7	2.8
		H39	2.1	2.5	2.4	2.7	2.8
		H40	1.9	2.4	2.3	2.6	2.7
		H41	1.8	2.3	2.3	2.6	2.7
		H42	1.7	2.2	2.2	2.5	2.6
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^bx$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			6.740000	12.988786	8.108824	41.098069	1.044797
b=			-0.120000	-2.873624	-0.031104	-0.745881	67.361913
採否							採用



3) 予測結果のまとめ

資料 18 ごみ排出量の予測結果

項目	年度	実績					予測															備考					
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41		H42				
計画収集人口	人	46,121	45,603	45,076	44,544	44,125	43,762	43,388	43,041	42,716	42,412	42,127	41,860	41,608	41,370	41,146	40,934	40,733	40,542	40,361	40,189	40,025	a : 予測結果				
排出量	ごみ総排出量	t/年	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680	18,606	18,462	18,292	18,133	17,980	17,833	17,732	17,599	17,509	17,387	17,305	17,193	17,117	17,014	16,948	16,848	b = c+j			
	収集ごみ量	t/年	16,900	17,771	17,764	17,320	16,882	16,853	16,709	16,576	16,453	16,337	16,226	16,125	16,029	15,939	15,853	15,771	15,696	15,620	15,553	15,487	15,424	c = d+e+f+g+h+i			
	もやせるごみ	t/年	13,810	14,228	14,247	13,949	13,846	13,756	13,646	13,545	13,451	13,361	13,277	13,199	13,126	13,056	12,991	12,928	12,869	12,812	12,759	12,709	12,660	d = p × a × 365 ÷ 10 ⁶			
	もやせないごみ	t/年	1,151	1,030	971	810	829	823	816	809	803	797	792	787	782	778	773	769	766	762	759	755	752	e = q × a × 365 ÷ 10 ⁶			
	資源物(ペットボトル、びん類)	t/年	141	130	130	121	121	125	124	123	122	121	120	119	118	118	117	117	116	115	115	114	114	f = r × a × 365 ÷ 10 ⁶			
	資源物(古紙類)	t/年	469	474	450	451	404	409	399	388	379	372	363	356	349	343	336	330	326	320	315	311	307	g = s × a × 365 ÷ 10 ⁶			
	粗大ごみ	t/年	497	690	512	494	417	414	410	407	404	401	398	396	393	391	389	387	385	383	382	380	378	h = t × a × 365 ÷ 10 ⁶			
	汚泥(下水道+し尿)	t/年	832	1,219	1,454	1,495	1,265	1,326	1,314	1,304	1,294	1,285	1,276	1,268	1,261	1,253	1,247	1,240	1,234	1,228	1,223	1,218	1,213	i = u × a × 365 ÷ 10 ⁶			
	直接搬入ごみ量	t/年	3,909	1,569	2,075	1,802	1,798	1,753	1,753	1,716	1,680	1,643	1,607	1,607	1,570	1,570	1,534	1,534	1,497	1,497	1,461	1,461	1,424	j = k+l+m			
	もやせるごみ	t/年	1,512	188	440	450	446	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	k = w × 365		
	もやせないごみ	t/年	29	22	44	57	33	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	l = x × 365		
	粗大ごみ	t/年	2,368	1,359	1,591	1,295	1,319	1,278	1,278	1,241	1,205	1,168	1,132	1,132	1,095	1,095	1,059	1,059	1,022	1,022	986	986	949	949	m = y × 365		
	平均排出量	1人1日平均排出量(合計)	g/人・日	1,236.1	1,161.9	1,205.8	1,176.1	1,159.8	1,164.8	1,165.8	1,164.4	1,163.0	1,161.5	1,159.8	1,160.6	1,158.8	1,159.5	1,157.7	1,158.2	1,156.4	1,156.7	1,154.9	1,155.4	1,153.3	n = b ÷ a ÷ 365 × 10 ⁶		
		収集ごみ1人1日平均排出量	g/人・日	1,004.0	1,067.7	1,079.7	1,065.2	1,048.2	1,055.0	1,055.1	1,055.1	1,055.2	1,055.3	1,055.3	1,055.4	1,055.5	1,055.5	1,055.6	1,055.6	1,055.7	1,055.6	1,055.7	1,055.7	1,055.8	1,055.8	o = p+q+r+s+t+u	
もやせるごみ		g/人・日	820.4	854.8	865.9	857.9	859.7	861.2	861.7	862.2	862.7	863.1	863.5	863.9	864.3	864.6	865.0	865.3	865.6	865.8	866.1	866.4	866.6	866.6	p : 予測結果		
もやせないごみ		g/人・日	68.4	61.9	59.0	49.8	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	q : 予測結果	
資源物(ペットボトル、びん類)		g/人・日	8.4	7.8	7.9	7.4	7.5	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	r : 予測結果	
資源物(古紙類)		g/人・日	27.9	28.5	27.4	27.7	25.1	25.6	25.2	24.7	24.3	24.0	23.6	23.3	23.0	22.7	22.4	22.1	21.9	21.6	21.4	21.2	21.0	21.0	21.0	s : 予測結果	
粗大ごみ		g/人・日	29.5	41.5	31.1	30.4	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	25.9	t : 予測結果
汚泥(下水道+し尿)		g/人・日	49.4	73.2	88.4	92.0	78.5	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	u : 予測結果
直接搬入ごみ1日平均排出量		t/日	10.7	4.3	5.7	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	v = w+x+y	
もやせるごみ		t/日	4.1	0.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	w : 予測結果	
もやせないごみ	t/日	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	x : 予測結果	
粗大ごみ	t/日	6.5	3.7	4.4	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	y : 予測結果		



資料 19 ごみ処理・処分量の予測結果

単位:t/年

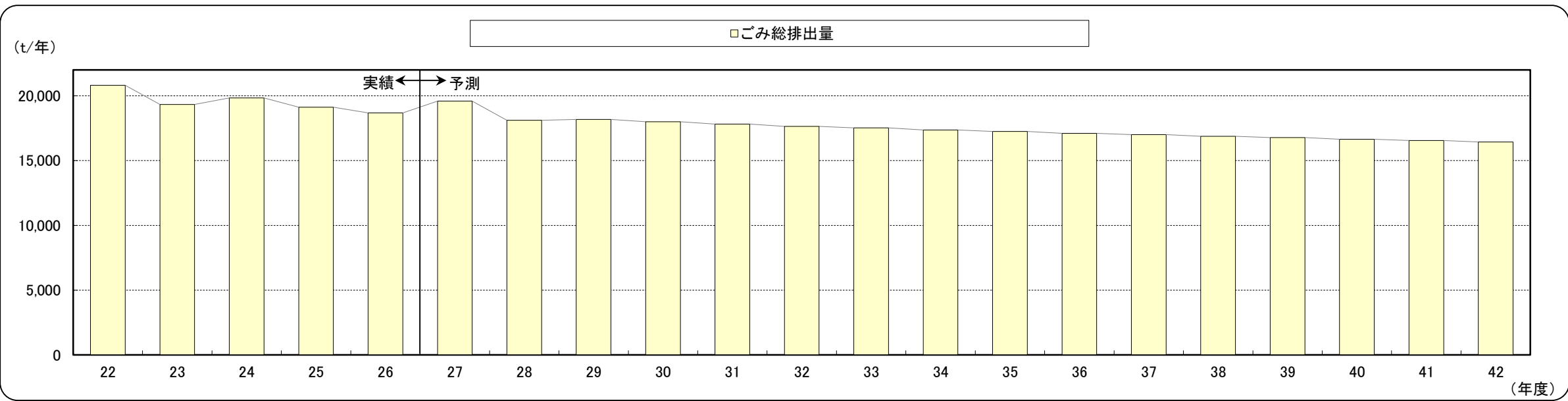
項目	年度		実績					予測														備考				
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42					
計画収集人口(単位:人)	46,121	45,603	45,076	44,544	44,125	43,762	43,388	43,041	42,716	42,412	42,127	41,860	41,608	41,370	41,146	40,934	40,733	40,542	40,361	40,189	40,025	a : 予測結果				
ごみ総排出量	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680	18,606	18,462	18,292	18,133	17,980	17,833	17,732	17,599	17,509	17,387	17,305	17,193	17,117	17,014	16,948	16,848	b : 予測結果				
焼却処理	焼却処理量	名瀬クリーンセンター処理量	焼却処理	18,310	17,492	17,846	17,347	16,834	16,774	16,647	16,513	16,387	16,265	16,151	16,061	15,959	15,878	15,786	15,713	15,627	15,561	15,484	15,426	15,351	c =d+e+f	
			もやせるごみ	15,322	14,416	14,687	14,399	14,292	14,194	14,084	13,983	13,889	13,799	13,715	13,637	13,564	13,494	13,429	13,366	13,307	13,250	13,197	13,147	13,098	d : 予測結果	
			可燃残渣	2,156	1,857	1,705	1,453	1,277	1,254	1,249	1,226	1,204	1,181	1,160	1,156	1,134	1,131	1,110	1,107	1,086	1,083	1,064	1,061	1,040	1,040	e =r
			汚泥	832	1,219	1,454	1,495	1,265	1,326	1,314	1,304	1,294	1,285	1,276	1,268	1,261	1,253	1,247	1,240	1,234	1,228	1,223	1,218	1,213	1,213	f : 予測結果
	搬出量	名瀬クリーンセンター搬出量	搬出量	2,156	1,857	1,705	1,453	1,906	1,900	1,884	1,870	1,855	1,842	1,829	1,818	1,808	1,798	1,788	1,779	1,769	1,762	1,754	1,746	1,738	1,738	g =h+i+j
			固化灰	1,401	1,244	1,104	930	1,239	1,235	1,225	1,215	1,206	1,197	1,189	1,182	1,175	1,169	1,162	1,156	1,150	1,145	1,140	1,135	1,130	1,130	h =c×H26実績比率
			焼却鉄	65	56	61	58	66	66	65	65	64	64	63	63	63	62	62	62	61	61	61	60	60	60	i =c×H26実績比率
			焼却不燃物	690	557	540	465	601	599	594	590	585	581	577	573	570	567	564	561	558	556	553	551	548	548	j =c×H26実績比率
	減容化量			16,154	15,635	16,141	15,894	14,928	14,874	14,763	14,643	14,532	14,423	14,322	14,243	14,151	14,080	13,998	13,934	13,858	13,799	13,730	13,680	13,613	k =c-g	
	減容化率			77.6%	80.8%	81.4%	83.1%	79.9%	79.9%	80.0%	80.1%	80.1%	80.2%	80.3%	80.3%	80.4%	80.4%	80.5%	80.5%	80.6%	80.6%	80.7%	80.7%	80.8%	80.8%	l =k÷b
粗大・もやせないごみ、資源物処理	搬入量	名瀬クリーンセンター搬入量	搬入量	4,655	3,705	3,698	3,302	3,123	3,086	3,064	3,005	2,950	2,896	2,842	2,827	2,774	2,762	2,711	2,699	2,652	2,639	2,594	2,583	2,537	m =n+o+p	
			粗大・もやせないごみ	4,045	3,101	3,118	2,730	2,598	2,552	2,541	2,494	2,449	2,403	2,359	2,352	2,307	2,301	2,258	2,252	2,210	2,204	2,164	2,158	2,116	n : 予測結果	
			資源物(ペットボトル、びん類)	141	130	130	121	121	125	124	123	122	121	120	119	118	118	117	117	116	115	115	114	114	114	o =予測結果
			市回収処理量	469	474	450	451	404	409	399	388	379	372	363	356	349	343	336	330	326	320	315	311	307	307	p =予測結果
	搬出量	粗大・もやせないごみ	粗大・もやせないごみ	4,045	3,101	3,118	2,730	2,598	2,552	2,541	2,494	2,449	2,403	2,359	2,352	2,307	2,301	2,258	2,252	2,210	2,204	2,164	2,158	2,116	2,116	q =r+s+t
			可燃残渣	2,156	1,857	1,705	1,453	1,277	1,254	1,249	1,226	1,204	1,181	1,160	1,156	1,134	1,131	1,110	1,107	1,086	1,083	1,064	1,061	1,040	1,040	r =n×H26実績比率
			不燃残渣	1,139	528	598	526	601	590	588	577	567	556	546	544	534	532	522	521	511	510	501	499	489	489	s =n×H26実績比率
			金属類	750	716	815	751	720	708	704	691	678	666	653	652	639	638	626	624	613	611	599	598	587	587	t =n×H26実績比率
		奄美市ストックヤード	奄美市ストックヤード	141	130	134	121	121	125	125	124	122	120	120	119	117	117	117	117	117	115	115	113	113	113	u =v+w+x+y
			ペットボトル	46	42	46	48	38	43	43	42	42	41	41	41	40	40	40	40	40	39	39	39	39	39	v =o×過去5年平均比率
			無色びん	37	34	34	29	31	32	32	32	31	31	31	30	30	30	30	30	30	29	29	29	29	29	w =o×過去5年平均比率
			茶びん	36	34	33	29	33	32	32	32	31	31	31	30	30	30	30	30	30	30	30	29	29	29	x =o×過去5年平均比率
			その他びん	22	20	21	15	19	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	y =o×過去5年平均比率
			古紙類	564	571	567	586	538	542	531	519	509	501	492	484	476	470	462	455	451	444	439	434	430	430	z =aa+ab
資源物	名瀬クリーンセンター回収分	名瀬クリーンセンター回収分	95	97	117	135	134	133	132	131	130	129	129	128	127	127	126	125	125	124	124	123	123	123	aa =d×H26実績比率	
		市回収分	469	474	450	451	404	409	399	388	379	372	363	356	349	343	336	330	326	320	315	311	307	307	ab =p	
		資源化量	1,360	1,320	1,399	1,250	1,245	1,252	1,238	1,214	1,191	1,171	1,152	1,142	1,121	1,114	1,096	1,088	1,074	1,064	1,049	1,041	1,028	1,028	ac =ad+ae+af	
		奄美市ストックヤード	141	130	134	121	121	125	125	124	122	120	120	119	117	117	117	117	117	115	115	113	113	113	ad =u	
資源化	古紙類	古紙類	564	571	567	586	538	542	531	519	509	501	492	484	476	470	462	455	451	444	439	434	430	430	ae =z	
		粗大・もやせないごみからの資源化量(金属類)	655	619	698	543	586	585	582	571	560	550	540	539	528	527	517	516	506	505	495	494	485	485	af =t×過去5年平均比率	
		資源化率	6.5%	6.8%	7.1%	6.5%	6.7%	6.7%	6.7%	6.6%	6.6%	6.5%	6.5%	6.4%	6.4%	6.4%	6.3%	6.3%	6.2%	6.2%	6.2%	6.1%	6.1%	6.1%	ag =ac÷b	
		最終処分	最終処分量	最終処分量	3,344	2,609	2,607	2,389	2,506	2,488	2,471	2,445	2,420	2,396	2,373	2,361	2,340	2,328	2,308	2,298	2,278	2,270	2,253	2,243	2,226	2,226
固化灰	1,401			1,244	1,104	930	1,239	1,235	1,225	1,215	1,206	1,197	1,189	1,182	1,175	1,169	1,162	1,156	1,150	1,145	1,140	1,135	1,130	1,130	ai =h	
焼却鉄	65			56	61	58	66	66	65	65	64	64	63	63	63	62	62	62	61	61	61	60	60	60	aj =i	
焼却不燃物	687			621	627	597	601	598	594	589	584	580	576	573	569	566	563	560	557	555	552	550	547	547	ak =c×過去5年平均比率	
不燃残渣	1,191			688	815	804	600	589	587	576	566	555	545	543	533	531	521	520	510	509	500	498	489	489	al =n×H26実績比率	
最終処分率			16.1%	13.5%	13.1%	12.5%	13.4%	13.4%	13.4%	13.4%	13.3%	13.3%	13.3%	13.3%	13.3%	13.3%	13.3%	13.2%	13.3%	13.2%	13.2%	13.2%	13.2%	am =ah÷b		

資料5. ごみ排出量及び処理・処分量の目標

目標達成時のごみ排出量及び処理・処分量について、資料 20～21 にまとめる。

資料 20 目標達成時のごみ排出量の予測結果

項目	年度	実 績					予 測															備 考				
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41		H42			
計画収集人口	人	46,121	45,603	45,076	44,544	44,125	43,762	43,388	43,041	42,716	42,412	42,127	41,860	41,608	41,370	41,146	40,934	40,733	40,542	40,361	40,189	40,025	a : 予測結果			
排出量	ごみ総排出量	t/年	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680	19,602	18,120	18,180	17,998	17,820	17,650	17,524	17,367	17,255	17,110	17,006	16,873	16,775	16,647	16,560	16,438	b =c+j		
	収集ごみ量	t/年	16,900	17,771	17,764	17,320	16,882	16,790	16,622	16,464	16,318	16,177	16,043	15,917	15,797	15,685	15,576	15,472	15,376	15,278	15,186	15,099	15,014	c =d+e+f+g+h+i		
	もやせるごみ	t/年	13,810	14,228	14,247	13,949	13,846	13,697	13,545	13,402	13,268	13,140	13,018	12,902	12,790	12,684	12,582	12,485	12,392	12,301	12,214	12,130	12,048	d =p×a×365÷10 ⁶		
	もやせないごみ	t/年	1,151	1,030	971	810	829	803	776	751	725	701	677	654	630	609	586	565	543	522	501	481	460	e =q×a×365÷10 ⁶		
	資源物(ペットボトル、びん類)	t/年	141	130	130	121	121	134	149	162	176	189	201	215	228	240	254	266	280	292	303	317	329	f =r×a×365÷10 ⁶		
	資源物(古紙類)	t/年	469	474	450	451	404	426	447	468	490	509	530	550	571	592	611	632	653	672	692	711	732	g =s×a×365÷10 ⁶		
	粗大ごみ	t/年	497	690	512	494	417	404	391	377	365	353	341	328	317	307	296	284	274	263	253	242	232	232	h =t×a×365÷10 ⁶	
	汚泥(下水道+し尿)	t/年	832	1,219	1,454	1,495	1,265	1,326	1,314	1,304	1,294	1,285	1,276	1,268	1,261	1,253	1,247	1,240	1,234	1,228	1,223	1,218	1,213	1,213	i =u×a×365÷10 ⁶	
	直接搬入ごみ量	t/年	3,909	1,569	2,075	1,802	1,798	2,812	1,498	1,716	1,680	1,643	1,607	1,607	1,570	1,570	1,534	1,534	1,497	1,497	1,461	1,461	1,424	1,424	j =k+l+m	
	もやせるごみ	t/年	1,512	188	440	450	446	1,497	183	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	438	k =w×365
	もやせないごみ	t/年	29	22	44	57	33	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	l =x×365
	粗大ごみ	t/年	2,368	1,359	1,591	1,295	1,319	1,278	1,278	1,241	1,205	1,168	1,132	1,132	1,095	1,095	1,059	1,059	1,022	1,022	986	986	949	949	949	m =y×365
平均排出量	1人1日平均排出量(合計)	g/人・日	1,236.1	1,161.9	1,205.8	1,176.1	1,159.8	1,227.2	1,144.2	1,157.2	1,154.4	1,151.1	1,147.9	1,146.9	1,143.5	1,142.7	1,139.3	1,138.2	1,134.9	1,133.6	1,130.0	1,128.9	1,125.2	n =b÷a÷365×10 ⁶		
	収集ごみ1人1日平均排出量	g/人・日	1,004.0	1,067.7	1,079.7	1,065.2	1,048.2	1,051.2	1,049.6	1,048.0	1,046.6	1,045.0	1,043.4	1,041.8	1,040.2	1,038.7	1,037.1	1,035.5	1,034.1	1,032.5	1,030.9	1,029.3	1,027.7	1,027.7	o =p+q+r+s+t+u	
	もやせるごみ	g/人・日	820.4	854.8	865.9	857.9	859.7	857.5	855.3	853.1	851.0	848.8	846.6	844.4	842.2	840.0	837.8	835.6	833.5	831.3	829.1	826.9	824.7	824.7	p : H42に35g/人・日減量	
	もやせないごみ	g/人・日	68.4	61.9	59.0	49.8	51.5	50.3	49.0	47.8	46.5	45.3	44.0	42.8	41.5	40.3	39.0	37.8	36.5	35.3	34.0	32.8	31.5	31.5	q : H42に20g/人・日減量	
	資源物(ペットボトル、びん類)	g/人・日	8.4	7.8	7.9	7.4	7.5	8.4	9.4	10.3	11.3	12.2	13.1	14.1	15.0	15.9	16.9	17.8	18.8	19.7	20.6	21.6	22.5	22.5	r : H42に15g/人・日向上	
	資源物(古紙類)	g/人・日	27.9	28.5	27.4	27.7	25.1	26.7	28.2	29.8	31.4	32.9	34.5	36.0	37.6	39.2	40.7	42.3	43.9	45.4	47.0	48.5	50.1	50.1	s : H42に25g/人・日向上	
	粗大ごみ	g/人・日	29.5	41.5	31.1	30.4	25.9	25.3	24.7	24.0	23.4	22.8	22.2	21.5	20.9	20.3	19.7	19.0	18.4	17.8	17.2	16.5	15.9	15.9	t : H42に10g/人・日減量	
	汚泥(下水道+し尿)	g/人・日	49.4	73.2	88.4	92.0	78.5	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0	u : 予測結果
	直接搬入ごみ1日平均排出量	t/日	10.7	4.3	5.7	4.9	4.9	7.7	4.1	4.7	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	v =w+x+y	
	もやせるごみ	t/日	4.1	0.5	1.2	1.2	1.2	4.1	0.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	w : 予測結果
もやせないごみ	t/日	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	x : 予測結果
粗大ごみ	t/日	6.5	3.7	4.4	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	y : 予測結果	



資料 21 目標達成時のごみ処理・処分量の予測結果

項目	年度		実績					予測														備考					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42						
計画収集人口(単位:人)	46,121	45,603	45,076	44,544	44,125	43,762	43,388	43,041	42,716	42,412	42,127	41,860	41,608	41,370	41,146	40,934	40,733	40,542	40,361	40,189	40,025	a : 予測結果					
ごみ総排出量	20,809	19,340	19,839	19,122	18,680	19,602	18,120	18,180	17,998	17,820	17,650	17,524	17,367	17,255	17,110	17,006	16,873	16,775	16,647	16,560	16,438	b : 予測結果					
焼却処理	焼却処理量	名瀬クリーンセンター処理量	焼却処理	18,310	17,492	17,846	17,347	16,834	17,760	16,262	16,327	16,146	15,973	15,807	15,665	15,511	15,382	15,239	15,119	14,986	14,873	14,748	14,644	14,524	c =d+e+f		
			もやせるごみ	15,322	14,416	14,687	14,399	14,292	15,194	13,728	13,840	13,706	13,578	13,456	13,340	13,228	13,122	13,020	12,923	12,830	12,739	12,652	12,568	12,486	d : 予測結果		
			可燃残渣	2,156	1,857	1,705	1,453	1,277	1,240	1,220	1,183	1,146	1,110	1,075	1,057	1,022	1,007	972	956	922	906	873	858	825	e =r		
			污泥	832	1,219	1,454	1,495	1,265	1,326	1,314	1,304	1,294	1,285	1,276	1,268	1,261	1,253	1,247	1,240	1,234	1,228	1,223	1,218	1,213	f : 予測結果		
	搬出量	名瀬クリーンセンター搬出量	搬出量	2,156	1,857	1,705	1,453	1,906	2,011	1,842	1,849	1,827	1,809	1,789	1,773	1,757	1,741	1,726	1,712	1,697	1,684	1,670	1,658	1,645	g =h+i+j		
			固化灰	1,401	1,244	1,104	930	1,239	1,307	1,197	1,202	1,188	1,176	1,163	1,153	1,142	1,132	1,122	1,113	1,103	1,095	1,085	1,078	1,069	h =c×H26実績比率		
			焼却鉄	65	56	61	58	66	70	64	64	63	63	62	61	61	60	60	59	59	58	58	57	57	i =c×H26実績比率		
			焼却不燃物	690	557	540	465	601	634	581	583	576	570	564	559	554	549	544	540	535	531	527	523	519	j =c×H26実績比率		
	減容化量			16,154	15,635	16,141	15,894	14,928	15,749	14,420	14,478	14,319	14,164	14,018	13,892	13,754	13,641	13,513	13,407	13,289	13,189	13,078	12,986	12,879	k =c-g		
	減容化率			77.6%	80.8%	81.4%	83.1%	79.9%	80.3%	79.6%	79.6%	79.5%	79.4%	79.3%	79.2%	79.1%	79.0%	78.8%	78.8%	78.6%	78.6%	78.4%	78.3%	78.3%	l =k÷b		
粗大・もやさないごみ、資源物処理	搬入量	名瀬クリーンセンター搬入量	搬入量	4,655	3,705	3,698	3,302	3,123	3,082	3,078	3,036	2,998	2,957	2,918	2,916	2,878	2,880	2,843	2,843	2,809	2,808	2,772	2,774	2,739	m =n+o+p		
			奄美市ストックヤード搬入量	粗大・もやせないごみ	4,045	3,101	3,118	2,730	2,598	2,522	2,482	2,406	2,332	2,259	2,187	2,151	2,079	2,048	1,978	1,945	1,876	1,844	1,777	1,746	1,678	n =予測結果	
				資源物(ペットボトル、びん類)	141	130	130	121	121	134	149	162	176	189	201	215	228	240	254	266	280	292	303	317	329	o =予測結果	
				市回収処理量	469	474	450	451	404	426	447	468	490	509	530	550	571	592	611	632	653	672	692	711	732	p =予測結果	
	搬出量	粗大・もやせないごみ	粗大・もやせないごみ	4,045	3,101	3,118	2,730	2,598	2,522	2,482	2,406	2,332	2,259	2,187	2,151	2,079	2,048	1,978	1,945	1,876	1,844	1,777	1,746	1,678	q =r+s+t		
			可燃残渣	2,156	1,857	1,705	1,453	1,277	1,240	1,220	1,183	1,146	1,110	1,075	1,057	1,022	1,007	972	956	922	906	873	858	825	r =n×H26実績比率		
			不燃残渣	1,139	528	598	526	601	583	574	557	539	523	506	498	481	474	458	450	434	427	411	404	388	s =n×H26実績比率		
			金属類	750	716	815	751	720	699	688	666	647	626	606	596	576	567	548	539	520	511	493	484	465	t =n×H26実績比率		
		奄美市ストックヤード	奄美市ストックヤード	141	130	134	121	121	134	149	162	176	189	201	215	228	240	254	266	280	292	303	317	329	u =o		
			ペットボトル	46	42	46	48	38	51	66	79	93	106	118	132	145	157	171	183	197	209	220	234	246	v =u-w-x-y		
			無色びん	37	34	34	29	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	w : H26実績	
			茶びん	36	34	33	29	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	x : H26実績	
		古紙類	名瀬クリーンセンター回収分	その他びん	22	20	21	15	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	y : H26実績
				古紙類	564	571	567	586	538	569	576	598	619	636	656	675	695	715	733	753	773	791	811	829	849	z =aa+ab	
市回収分	469			474	450	451	404	426	447	468	490	509	530	550	571	592	611	632	653	672	692	711	732	ab =p			
資源化	95			97	117	135	134	143	129	130	129	127	126	125	124	123	122	121	120	119	119	118	117	aa =d×H26実績比率			
資源化	奄美市ストックヤード	資源化量	1,360	1,320	1,399	1,250	1,245	1,281	1,293	1,310	1,330	1,342	1,358	1,382	1,399	1,423	1,440	1,464	1,483	1,505	1,521	1,546	1,562	ac =ad+ae+af			
		奄美市ストックヤード	141	130	134	121	121	134	149	162	176	189	201	215	228	240	254	266	280	292	303	317	329	ad =u			
		古紙類	564	571	567	586	538	569	576	598	619	636	656	675	695	715	733	753	773	791	811	829	849	ae =z			
		粗大・もやせないごみからの資源化量(金属類)	655	619	698	543	586	578	568	550	535	517	501	492	476	468	453	445	430	422	407	400	384	af =t×過去5年平均比率			
	資源化率			6.5%	6.8%	7.1%	6.5%	6.7%	6.5%	7.1%	7.2%	7.4%	7.5%	7.7%	7.9%	8.1%	8.2%	8.4%	8.6%	8.8%	9.0%	9.1%	9.3%	9.5%	ag =ac÷b		
最終処分	最終処分量	最終処分量	3,344	2,609	2,607	2,389	2,506	2,592	2,414	2,404	2,366	2,331	2,294	2,270	2,236	2,213	2,182	2,160	2,129	2,109	2,079	2,060	2,032	ah =ai+aj+ak+al			
		固化灰	1,401	1,244	1,104	930	1,239	1,307	1,197	1,202	1,188	1,176	1,163	1,153	1,142	1,132	1,122	1,113	1,103	1,095	1,085	1,078	1,069	ai =h			
		焼却鉄	65	56	61	58	66	70	64	64	63	63	62	61	61	60	60	59	59	58	58	57	57	aj =i			
		焼却不燃物	687	621	627	597	601	633	580	582	576	570	564	559	553	548	543	539	534	530	526	522	518	ak =c×過去5年平均比率			
		不燃残渣	1,191	688	815	804	600	582	573	556	539	522	505	497	480	473	457	449	433	426	410	403	388	al =n×H26実績比率			
最終処分率			16.1%	13.5%	13.1%	12.5%	13.4%	13.2%	13.3%	13.2%	13.1%	13.1%	13.0%	13.0%	12.9%	12.8%	12.8%	12.7%	12.6%	12.6%	12.5%	12.4%	12.4%	am =ah÷b			

資料6. 生活排水処理形態別人口の予測結果

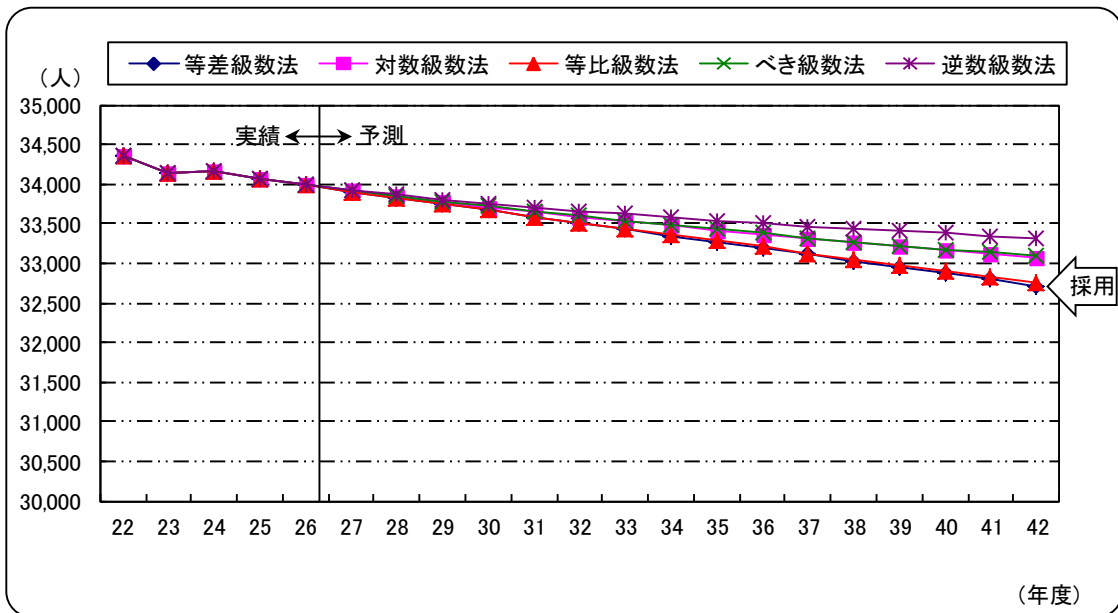
生活排水処理形態別人口について、計画人口は「第4章 ごみ処理基本計画」と同じ数値を用いた。

資料 22 予測結果の採用理由

推計対象	項目	内容
下水道人口	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	等差級数法
	採用理由	いずれの推計式も減少傾向を示しており、減少率の最も大きい等差級数法を採用した。
合併処理浄化槽人口	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	逆数級数法
	採用理由	いずれの推計式も増加傾向を示しており、増加率の最も小さい逆数級数法を採用した。
農業集落排水施設人口	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	逆数級数法
	採用理由	いずれの推計式も増加傾向を示しており、増加率の最も小さい逆数級数法を採用した。
汲み取り人口	採用実績	平成22年度～平成26年度の実績
	採用式・採用値	べき級数法
	採用理由	いずれの推計式も減少傾向を示しており、減少率の最も小さいべき級数法を採用した。

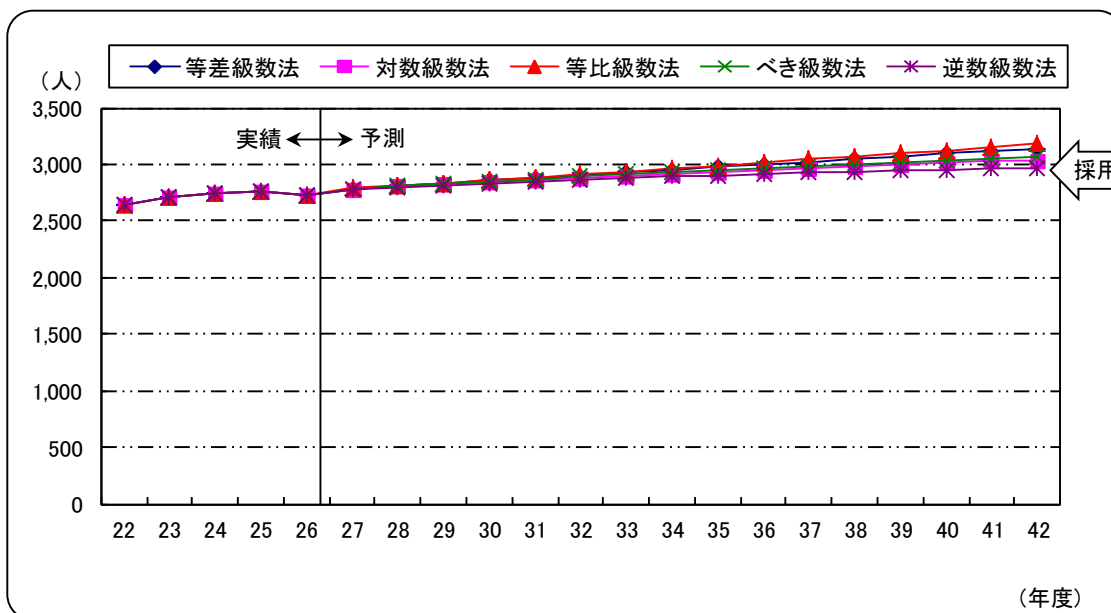
資料 23 公共下水道人口の予測結果

年度	実績 (人)	年度	推計結果(人)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	34,352	H27	33,904	33,913	33,904	33,914	33,924
H23	34,139	H28	33,824	33,844	33,826	33,846	33,864
H24	34,160	H29	33,745	33,777	33,748	33,779	33,808
H25	34,059	H30	33,666	33,713	33,669	33,716	33,755
H26	33,996	H31	33,587	33,650	33,591	33,654	33,706
		H32	33,508	33,590	33,514	33,594	33,660
		H33	33,428	33,531	33,436	33,537	33,617
		H34	33,349	33,474	33,359	33,481	33,577
		H35	33,270	33,419	33,281	33,427	33,539
		H36	33,191	33,365	33,204	33,375	33,502
		H37	33,112	33,313	33,127	33,324	33,468
		H38	33,032	33,262	33,051	33,274	33,436
		H39	32,953	33,213	32,974	33,226	33,405
		H40	32,874	33,165	32,898	33,179	33,376
		H41	32,795	33,118	32,822	33,133	33,348
		H42	32,716	33,072	32,746	33,089	33,322
		式	$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{bx}$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
		a=	36042.000000	40192.467614	36094.218094	40756.031718	32238.145002
		b=	-79.200000	-1905.123465	-0.002318	-0.055758	45514.347428
		採否	採用				



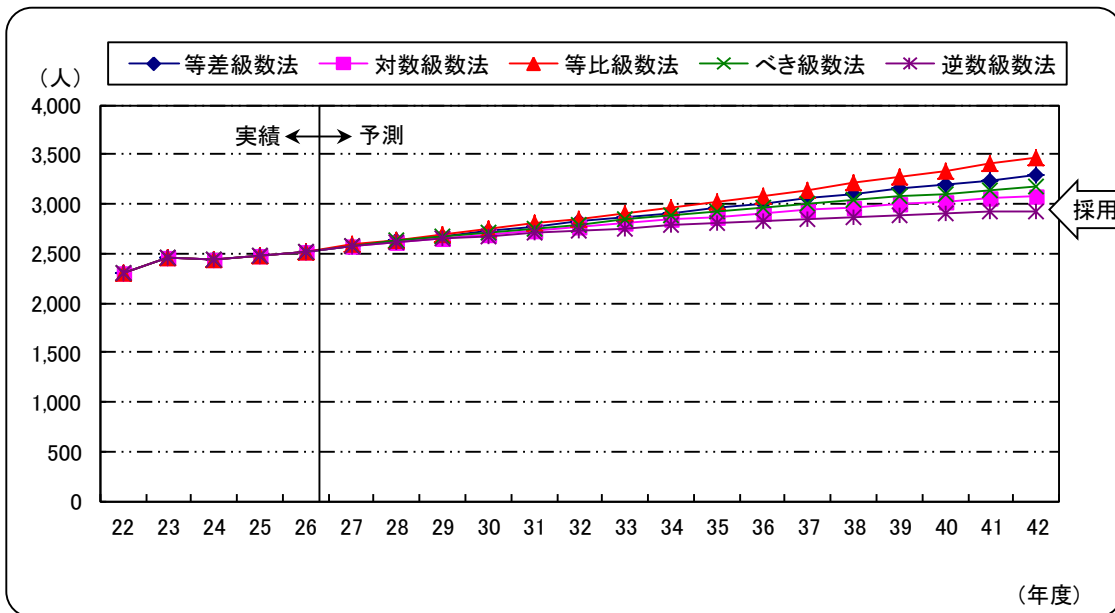
資料 24 合併処理浄化槽人口の予測結果

年度	実績 (人)	年度	推計結果(人)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	2,634	H27	2,786	2,784	2,787	2,786	2,782
H23	2,708	H28	2,810	2,805	2,812	2,807	2,801
H24	2,747	H29	2,833	2,826	2,837	2,829	2,818
H25	2,764	H30	2,857	2,845	2,862	2,849	2,834
H26	2,724	H31	2,881	2,864	2,887	2,869	2,849
		H32	2,904	2,883	2,912	2,889	2,863
		H33	2,928	2,900	2,938	2,908	2,877
		H34	2,951	2,918	2,964	2,927	2,889
		H35	2,975	2,934	2,990	2,945	2,901
		H36	2,999	2,951	3,016	2,963	2,912
		H37	3,022	2,966	3,043	2,980	2,923
		H38	3,046	2,982	3,070	2,997	2,933
		H39	3,069	2,997	3,097	3,014	2,942
		H40	3,093	3,011	3,124	3,031	2,951
		H41	3,117	3,026	3,151	3,047	2,960
		H42	3,140	3,040	3,179	3,062	2,968
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{bx}$	$Y=a\cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			2149.000000	881.417182	2199.888863	1373.792089	3301.420761
b=			23.600000	577.393684	0.008766	0.214471	-14015.544761
採否							採用



資料 25 農業集落排水施設人口の予測結果

年度	実績 (人)	年度	推計結果(人)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	2,298	H27	2,582	2,577	2,587	2,581	2,571
H23	2,463	H28	2,629	2,618	2,638	2,626	2,607
H24	2,439	H29	2,676	2,658	2,690	2,670	2,641
H25	2,485	H30	2,723	2,697	2,743	2,713	2,672
H26	2,522	H31	2,770	2,734	2,797	2,755	2,701
		H32	2,817	2,770	2,852	2,796	2,729
		H33	2,864	2,805	2,908	2,837	2,754
		H34	2,911	2,839	2,965	2,877	2,779
		H35	2,958	2,871	3,024	2,917	2,802
		H36	3,005	2,903	3,083	2,956	2,823
		H37	3,052	2,935	3,144	2,994	2,844
		H38	3,099	2,965	3,206	3,032	2,863
		H39	3,146	2,994	3,269	3,069	2,881
		H40	3,193	3,023	3,333	3,106	2,899
		H41	3,240	3,051	3,399	3,142	2,915
		H42	3,287	3,078	3,466	3,178	2,931
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b \cdot \ln x$	$Y=a \cdot e^{bx}$	$Y=a \cdot x^b$	$Y=a+b/x$
a=			1313.400000	-1162.723846	1528.461520	547.059598	3578.681982
b=			47.000000	1134.688027	0.019492	0.470755	-27199.764240
採否							採用



資料 26 汲み取り人口の予測結果

年度	実績 (人)	年度	推計結果(人)				
			等差級数法	対数級数法	等比級数法	べき級数法	逆数級数法
H22	3,605	H27	1,733	1,778	1,888	1,919	1,825
H23	3,111	H28	1,379	1,468	1,665	1,720	1,556
H24	2,693	H29	1,026	1,170	1,469	1,548	1,306
H25	2,350	H30	672	881	1,296	1,397	1,072
H26	2,216	H31	318	602	1,143	1,266	854
		H32	-36	332	1,009	1,151	649
		H33	-390	70	890	1,049	456
		H34	-744	-184	785	959	275
		H35	-1,098	-431	692	879	104
		H36	-1,452	-671	611	807	-57
		H37	-1,806	-904	539	743	-209
		H38	-2,160	-1,131	475	686	-354
		H39	-2,514	-1,352	419	634	-491
		H40	-2,867	-1,568	370	588	-621
		H41	-3,221	-1,778	326	546	-745
		H42	-3,575	-1,983	288	507	-863
式			$Y=a+bx$	$Y=a+b\cdot\ln x$	$Y=a\cdot e^{\wedge}bx$	$Y=a\cdot x^{\wedge}b$	$Y=a+b/x$
a=			11288.600000	29829.184855	55736.984668	39089644.621701	-5701.161328
b=			-353.900000	-8511.185294	-0.125376	-3.010410	203198.141394
採否						採用	

